

自然豊かな農山漁村地域（里地里山）の魅力を活かした 体験プログラムづくりと地域活性化への取組事例集

環境省エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による
地域活性化推進事業

平成 25 年 3 月



目次

序（はじめに）　－本事例集の狙いと活用方法－	1
1. 本事例集の狙い	1
2. 本事例集の特徴と活用方法	2
第1章 農山漁村地域におけるエコツーリズムとグリーン・ツーリズムの連携による地域活性化への期待	3
第1節 グリーン・ツーリズム、エコツーリズムへの理解	3
第2節 農山漁村地域においてグリーン・ツーリズムとエコツーリズムとが連携する意義	16
第3節 エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による 地域活性化推進事業の概要 ..	21
第4節 モデル地域の概要	22
第2章 地域資源の発掘と体験プログラムづくり	31
第1節 地域資源の発掘	31
第2節 地域らしい体験プログラムの開発	45
第3節 体験プログラムの試行	62
第3章 情報発信力をつける	75
第1節 情報発信の方法	75
第2節 情報発信力の強化	79
第4章 体験プログラムを提供していくための人材の育成	81
第1節 取組に求められる人材と役割	81
第2節 コーディネーターの発掘・育成	83
第3節 プログラムの担い手（ガイド、インタープリター）の育成	85
第5章 持続的な取組の体制づくり	88
第1節 取組の体制づくり	88
第2節 コーディネート組織の確立	99
資料編	103
資料1 兵庫県養父市における3年間の取組	105
資料2 鹿児島県垂水市における3年間の取組	127
資料3 講演録	147

序（はじめに） ー本事例集の狙いと活用方法ー

1. 本事例集の狙い

我が国の多くの農山漁村地域では、農業や漁業等の体験を中心として自然、文化、人々との交流を楽しむグリーン・ツーリズムに取り組まれている。一方、国立公園をはじめとした自然が豊かな地域等では、体験や学びを通して、地域ぐるみで自然環境や歴史文化等地域固有の魅力や価値を観光客に伝え、それらの保全につなげていくことを目指すエコツーリズムへの取組が進められている。

農山漁村地域は、大自然とは異なる、人の暮らしの身近に自然環境が存在する里地里山である。農業や漁業の体験を軸としたグリーン・ツーリズムに取り組む農山漁村地域が、里地里山の自然を活かしたエコツーリズムに一体的に取り組むことは、農山漁村の営みとしての農林漁業の背景となる自然との関わりを理解し、また自然にもふれる体験機会を旅行者に提供していくことで、地域の差別化や活性化につながるものと期待される。

環境省では、このような狙いのもと、平成 22 年度から 24 年度の 3 ヶ年に渡り、兵庫県養父市と鹿児島県垂水市をモデル地域として、エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による地域活性化推進事業を実施してきた。

本事例集は、この 2 つのモデル地域での取組から得られた成果をもとに、農山漁村地域がグリーン・ツーリズムとエコツーリズムにともに取り組むことで、地域の活性化につなげていくための参考となる取組の考え方や手法を事例集として整理したものである。

もちろん、モデル 2 地域での様々な取組がすべて成功事例ではなく、取組方は地域によって千差万別ではあるが、今後、農山漁村地域が活性化に向けそれぞれの取組を進めていく上で参考になれば幸いである。

2. 本事例集の特徴と活用方法

エコツーリズムへの理解や具体的な取組が進んでいない農山漁村地域が、エコツーリズムとグリーン・ツーリズムに一体的に取り組んでいくためには、段階的かつ地域の特性や実情に応じた取組方が必要である。

本事例集は、地域の特性・実情の異なるモデル 2 地域での 3 カ年の取組をもとに、段階的にエコツーリズムとグリーン・ツーリズムが連携した取組を進める際のポイントについて、事例を交えて紹介している。

第 1 章では、農山漁村地域におけるグリーン・ツーリズムへの取組の現状を概観した上で、エコツーリズムの概念や、エコツーリズムとグリーン・ツーリズムに一体的に取り組むことの意義・効果について整理した。また、本事業の概要並びにモデル 2 地域の 3 カ年の取組の概要を紹介した。

第 2 章では、エコツーリズムとグリーン・ツーリズムが連携した体験プログラムを作っていくために必要な地域資源の発掘方法や、プログラムづくりの考え方・方法、更にそれらの試行方法等について、できるだけ具体事例を交えて紹介した。

第 3 章では、取組を推進していく上で重要でありながら、概して農山漁村地域が弱い情報発信力をつけるための方法を紹介した。

第 4 章及び第 5 章ではエコツーリズムとグリーン・ツーリズムを連携しながら地域として推進していくために必要な人材と役割、特に重要なコーディネーターの確保方法、プログラムの担い手の育成方法等を紹介するとともに、取組を持続させていくために必要な組織・体制づくりの考え方を紹介した。

第 1 章 農山漁村地域におけるエコツーリズムとグリーン・ツーリズムの連携による地域活性化への期待

第 1 節 グリーン・ツーリズム、エコツーリズムへの理解

(1) 農山漁村におけるグリーン・ツーリズムへのこれまでの取組

①グリーン・ツーリズムの概念とその魅力

『グリーン・ツーリズム』は、「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」（農林水産省による定義、1992 年）であり、「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動であり、農作業体験や農産物加工体験、農林漁家民泊、更には食育等がこれにあたる」（観光立国推進基本計画 2007 年）。グリーン・ツーリズムは、もともと、長期休暇を楽しむ習慣のあるヨーロッパ諸国で普及したもので、我が国においても、都市住民が農山漁村を訪れ、農林漁業の体験や、その地域の自然や文化に触れることを通じて、地元の人々との交流を楽しむ旅行スタイルとして定着しつつあるが、提唱されて以来 20 年余が経過し、我が国の農業、農山漁村の特性や取り巻く環境を背景に、長期滞在型の余暇スタイルを基本とするヨーロッパ諸国とは異なる形で普及・定着してきている。

我が国のグリーン・ツーリズムの具体的な体験・活動内容としては、「農業体験」をはじめ、広い意味では以下のようなものが挙げられる。

<農作業体験・農産物加工体験>

田植えや収穫体験の他、収穫した農産物を加工する作業等の「農業体験」。農業に触れる機会の少ない都市住民にとって、土の感触やものを育てる苦勞、収穫の喜びを味わうことのできる貴重な体験である。

<農産物の直売>

農産物の直売所等で、収穫・生産された農産物を直接販売するもの。旅行者にとっては、普段は味わえない新鮮な農産物を生産者から直接購入できる機会になり、生産者にとっても新しい販路の拡大になる。

<農業者が関わる飲食の提供>

農業者が収穫・生産したものを自ら調理し提供する農林漁家レストラン等。素材の良さを知り尽くした農業者自らが腕をふるう料理は、旅行者にとって大きな魅力となる。

＜農村の文化・伝統に触れる体験＞

地域に伝わる祭り等のイベントへの参加を通じて、農村の暮らし、文化、伝統を体験する活動。旅行者にとっては都市部で失われつつある文化、伝統から自分達の暮らしを再考する機会にもなり、農村地域の住民にとっては、昔からの風習を引き継いでいく理由にもなる。

＜農村での滞留・滞在＞

農村における一時的な来訪、または宿泊を伴う来訪。農林漁家による民泊等、農村の生活や農村住民との交流を楽しむことができる。

いずれにしても、グリーン・ツーリズムは、農村地域に根付いている暮らしを体験することを通して、日常、都市部で暮らしていても感じられない「農村のありのままの姿」からその価値を理解し、感動できる点が本質的な魅力であり、「農村地域に宿泊、または滞在しながら、農業、農村生活を楽しむ旅行」と捉えることができる。



南魚沼市農業体験大学校（新潟県南魚沼市）



農家民宿（秋田県仙北市）

②グリーン・ツーリズムの課題

イ) 他地域と差別化できる付加価値の高い「本物」体験を提供できていない

我が国のグリーン・ツーリズムは、農作業等の体験と農家民宿・民泊を組み合わせたものが中心である。

グリーン・ツーリズムの大切な要素である体験は、そのものが「本物」である必要があるが、多くの地域で提供されている農産物の収穫体験やそば打ち体験に見られるように、“似たり寄ったり”の体験に留まり、“その地ならではの”体験を提供できていないところが少なくない。本物であるためには、生産者のこだわりや育てている農産物に対する誇り等が消費者にしっかり伝わるもの、目利きのできない消費者にも分かりやすくその価値を伝えることのできる体験、他地域と差別化できる体験を提供していく必要がある。



どこでも見られるそば打ち体験

ロ) マーケットが限定的で一般利用者の取り込みができていない

グリーン・ツーリズムのマーケットとしては、教育旅行、一般旅行、その他（企業の研修等）等がある。

一般の大人の休暇旅行が中心であるヨーロッパ諸国に対し、我が国のグリーン・ツーリズムは、修学旅行等の小学校、中学校、高校の児童、生徒を対象とした教育旅行が中心であり、加えて、教育旅行全体で見ると農山漁村でのグリーン・ツーリズムを体験する割合は2割程度にとどまっている。

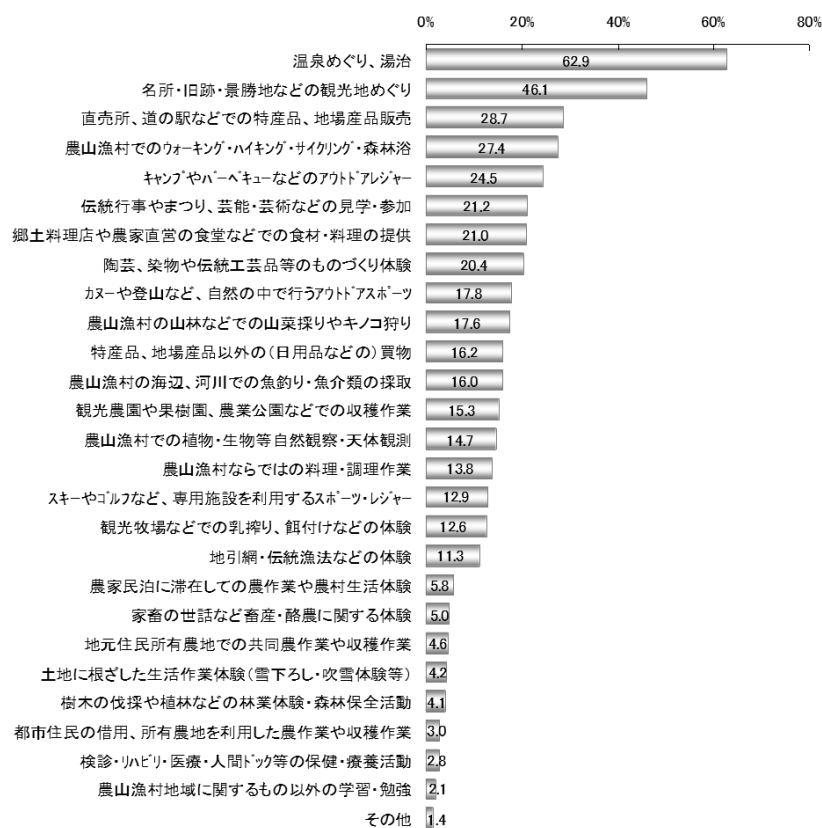
一方、一般消費者のグリーン・ツーリズム体験はマーケットとしては小さいものの、農山漁村に関心が無い訳ではない。一般消費者の農山漁村への来訪理由や希望する過ごし方を見ると、収穫体験以外にも多様な体験へのニーズがあり、また体験以外にも「食」や「風景」、「歩く」こと等、農山漁村が本来有する都会では味わえない魅力要素を求めている。

グリーン・ツーリズムの新たな需要の開拓には、こうした都市住民のニーズを受け止めていくことのできる体験や滞在プログラム、受入環境づくりが必要である。



教育旅行の受入風景（岩手県久慈市）

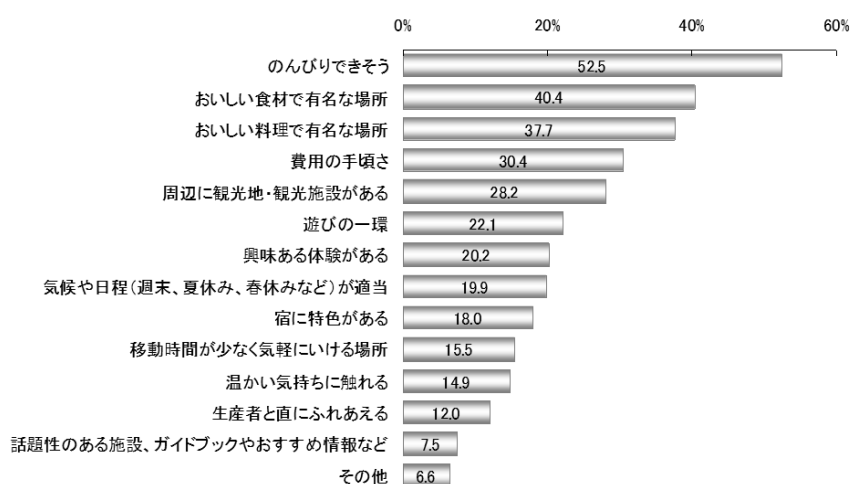
【グラフ】 農山漁村で希望する体験



出典：「農山漁村における滞在・体験型旅行の消費者の実態とニーズ調査」

(財)日本交通公社 (2009年3月)

【グラフ】 農山漁村への来訪理由



出典：「農山漁村における滞在・体験型旅行の消費者の実態とニーズ調査」

(財)日本交通公社 (2009年3月)

ハ) 十分な受入環境が整っていない

農山漁村地域の多くは、過疎化、少子高齢化の問題を抱えており、グリーン・ツーリズムに取り組もうとしても、その担い手となる体験の提供者や推進役となる人材が不足している場合が多い。

また、農林漁家が主役であるグリーン・ツーリズムは、担い手不足に加え、観光との連携が不十分な場合が多く、旅行者への情報発信やグリーン・ツーリズム商品を開発・販売し受け入れていくための機能や体制は十分とはいえない。背景には、地域の将来ビジョンやグリーン・ツーリズムへの取組の目的が明確化、共有化されていないといったことも課題としてあげられる。

二) 農村らしい風景・環境・文化の維持・存続が危ぶまれている

都会の人が農村地域を訪れる理由のひとつは、農村らしいのどかな風景や環境があるからであり、都市では失われた自然や暮らしの豊かさが伝わる農村風景や生活文化は、グリーン・ツーリズムに欠かせない要素といえる。

今日の農村は、ライフスタイルの現代化の流れの中で、喪失しつつある農村の風景や環境、生活文化を維持・存続させていくための取組が求められている。



独特の農村風景（愛媛県内子町）



茅葺の古民宿（新潟県柏崎市）

(2) エコツーリズムの基本知識

①エコツーリズムとは

「エコツーリズム」とは、

「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた」

のことをいう（環境省「エコツーリズム推進会議（平成 15～16 年度）」における概念）。

言い換えれば、エコツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化等、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全に繋がっていくことを目指した仕組みである。

観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まり、活性化させるだけでなく、地域のこのような一連の取組によって地域社会そのものが活性化されていくことを目指すものである。（環境省「エコツーリズムのススメ」より）



参考：
地球のためにできること。エコツーリズム推進ガイド
2007年3月発行

【参考：エコツーリズムの歴史】

エコツーリズムは、途上国において、観光客に森林等を見せて経済振興を図ることによって、森林伐採等の自然開発から自然を保護しようとする産業転換を促す考え方として注目された。その後、先進国では持続的な観光振興を目指す概念として論じられるようになった。

我が国では 1990 年頃からエコツアーを実施する民間事業者が、屋久島等の自然豊かな観光地で見られるようになった。環境庁（当時）は、平成 3 年（1991 年）に「沖縄におけるエコツーリズム等の観光利用推進方策検討調査」を実施して、エコツーリズムに関する調査を開始した。1990 年代後半には日本エコツーリズム推進協議会（現日本エコツーリズム協会）等の民間推進団体の設立が相次ぎ、エコツーリズムの普及に向けた動きが加速した。

このような背景を受けて、平成 15 年から平成 16 年にかけて、エコツーリズム推進会議が設置され、国を挙げたエコツーリズムの推進がスタートした。環境省は、同会議で策定された 5 つの推進方策を中心に、エコツーリズムの普及と定着に向けた具体的な取組を進めている。

また、平成 19 年 6 月には地域で取り組むエコツーリズムに関する総合的な枠組みを定めた「エコツーリズム推進法」が議員立法により成立し、平成 20 年 4 月より施行された。

②エコツーリズムが目指すもの

エコツーリズムの考え方にに基づき、自然環境の保全に配慮しながら、地域の創意工夫を生かしたエコツーリズムを実現させるため、エコツーリズム推進法では、エコツーリズムを通じた「自然環境の保全」、「観光振興」、「地域振興」、「環境教育の場としての活用」を図り、これらをうまく両立させていくことを基本理念に掲げている。

【エコツーリズム推進の基本理念】

自然環境への配慮



観光振興への寄与



地域振興への寄与



環境教育への活用



③エコツーリズムの特徴

自然環境や歴史文化を対象としたエコツーリズムは、以下のような特徴を持っている。

●特徴1 豊かな自然地域をはじめ、多様なフィールドや資源が対象

- ・ エコツーリズムは、国立公園や世界自然遺産地域等の豊かな自然地域に限らず、里地里山やまちなか等多様なフィールドや資源が対象になる。



豊かな自然地域

【例】

- ・ 原生林と野生動物に出会う
- ・ 流水ウォーク
- ・ ホエールウォッチング
- ・ フォレストウォーク 等

身近な里地里山

【例】

- ・ マガンの飛び立ち・ねぐら入り観察
- ・ 湧き水の郷と水のある暮らし体験
- ・ 冬野菜の収穫とまんじゅうづくり体験
- ・ 桜の案内人と桜を巡る 等



暮らしの中の湧水とを訪ねる（埼玉県飯能市）



茅葺の古民家集落を訪ねる
（秋田県八峰町）



漁師番屋を舞台に（岩手県田野畑村）



人の暮らすまちなか

【例】

- 自然を葉池に積み重ねられてきた地域の歴史巡り
- まちなかで見られる生き物観察
- 運河から見る都市の自然観察 等



白神山地の麓の町の案内（青森県鰺ヶ沢町）



同左

●特徴2 「見る」だけでなく、「体験する」「学ぶ」

- ・ エコツーリズムは、「見る」だけでなく、五感を通して様々な形で体験することによって、地域の自然や歴史を深く理解し学ぶことにある。



流水の上を歩く（知床）



漁船（サッパ船）で海の魅力を体感する
（岩手県田野畑村）

●特徴3 解説を通した観光対象や地域への深い理解と付加価値づけ

- ・ 見ごたえのある傑出した観光資源であっても、旅行者だけでその魅力を深く理解することはできない。特別優れた資源でない場合はなおさらである。
- ・ エコツーリズムは、自然や歴史に精通した地域のガイドが案内役となり、観光対象と旅行者との間に立って解説（通訳）することによって、対象の面白さや魅力を伝える、気付かせるものであり、故に、ガイドの解説によって、さりげない資源であっても付加価値を付けることができる。



【エコツアーリズムにおけるガイドの役割】



地域の自然を熟知したガイド（白神山地）



伝えるのは知識ではなく専門的な情報（屋久島）



動物の痕跡から自然への興味、気付きを誘導する（軽井沢）



小道具を使って分かりやすく解説する（同左）

●特徴 4 環境に負荷を掛けない旅行スタイル

- ・ エコツーリズムは、訪れた地域の自然や歴史文化の大切さを理解する（学ぶ）とともに、それらを保全していくことである。
- ・ そのため、エコツーリズムの考え方に基づいたツアー（エコツアー）では、地域の環境に負荷を掛けないよう、利用ルールに基づいた行動をするとともに、極力少人数を単位としたフィールドの利用が基本となる。



自然環境を守るための利用者のコントロール
(知床五湖利用調整地区)



入口でガイドのレクチャーを受ける（知床五湖）



ガイドを伴った知床五湖一周ツアー

第 2 節 農山漁村地域においてグリーン・ツーリズムとエコツーリズムとが連携する意義

(1) グリーン・ツーリズムとエコツーリズムの相違点・共通点

第 1 節で紹介したように、グリーン・ツーリズムとエコツーリズムは、関係する主体や観光の対象、楽しみ方等は異なるものの、自然環境や農山漁村の資源の魅力や人材を活用しながら、自然・文化の保全と地域振興を目指す点では共通している。

【グリーン・ツーリズムとエコツーリズムの相違点・共通点】

	相違点		共通する方向
	グリーン・ツーリズム	エコツーリズム	
基本的な考え方	・都市と農山漁村の「交流」を重視	・自然観光資源の活用を通じた自然環境の「保全」を重視	・自然環境や農山漁村の環境への配慮 ・観光振興への寄与 ・地域振興への寄与 ・教育への活用
関係する主な主体（主な担い手）	・農林漁業の従事者（農林漁家）や組合が中心	・自然ガイド（インタープリター）、関係する研究者や市民団体等が関与	・地域の状況に応じて、多様な主体が関与した、地域主体の持続的な推進体制
観光の対象	・食文化や作業体験等、一次産業に関わるものや生活文化に焦点	・生態系等の自然環境そのもの	・地域にある固有の魅力（自然や文化）
主な旅行内容（楽しみ方）	・農山漁村での滞在（農家民宿、民泊）、体験（農作業、自然、食等）が中心 ・体験や触れ合いを重視	・自然観察や環境学習が中心 ・ガイダンス、インタープリテーションによる資源の魅力伝達を重視	・体験や地域の魅力への理解を深めることを通じた観光
その他	・グリーン・ツーリズム推進に向けた様々な規制緩和（農家民泊、送迎、濁酒製造、食品衛生法等）	・科学的なモニタリングを重視	

(2) 農山漁村地域がグリーン・ツーリズムとエコツーリズムに一体的に取り組むことの意義・効果

グリーン・ツーリズムの現状やエコツーリズムの特徴を踏まえると、グリーン・ツーリズムに取り組む農山漁村地域が、エコツーリズムに一体的に取り組むことで、以下のような効果が期待される。

イ) 地域での観光体験の幅が広がる

- ・ 農業体験だけでなく、農山漁村の自然や歴史、生活文化が観光対象となることから、地域での観光体験の幅を大きく広げることができる。また、有力な観光資源でなくても魅力ある資源になりうるため、多くの農山漁村で取組ができる。

ロ) 観光対象や地域への魅力理解が深まる

- ・ エコツーリズムの視点からガイドを通した解説等の手法を取り入れることで、体験の対象となる農林漁業や歴史文化への理解がより深まり、旅行者に対し地域そのものの魅力への理解を促すことにつながる。

ハ) ガイドとのふれあいが魅力要素ともなる

- ・ 体験の担い手となる地域の人材をインストラクターやガイドとして活用することで、体験プログラムの魅力が増し、ガイド自体が旅行者にとっての魅力ともなる。

二) 地域の魅力や大切さに気付く

- ・ エコツーリズムへの取組は、農山漁村地域の住民が日常気付かない地域の自然や歴史、生活文化の特徴や魅力を再認識する機会となり、住民に対する誇りの醸成や地域の大切な自然・文化の保全・継承への取組の誘導につながる。

ホ) 地域での滞在時間が増える

- ・ 魅力ある体験プログラムが増えることで、旅行者の地域での時間消費も増加し、滞在の長期化、宿泊化が誘導される。同時に、地域での経済消費の増加も促される。

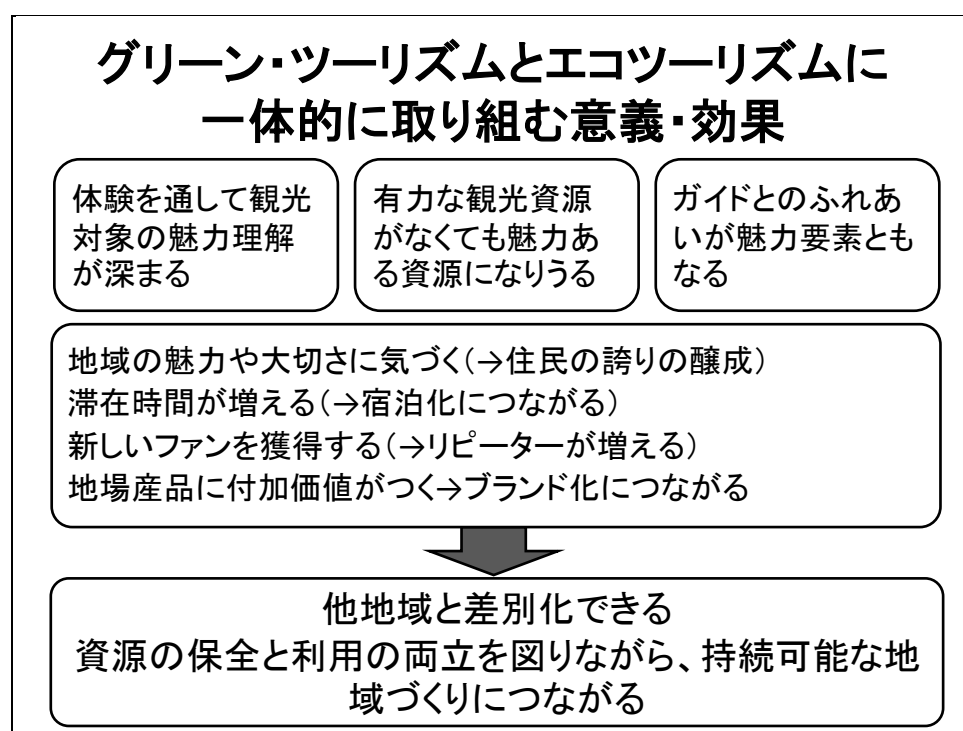
へ) ファン、リピーターが増える

- ・ 付加価値の高い体験プログラムの提供は、旅行者に高い満足度と地域への魅力理解を高め、“また来たい”と思ってくれるファン、リピーターの獲得につながる。

ト) 地場産品に付加価値が付く

- ・ 地域での様々な体験を通して、そこで生産・販売されている農産物や地域そのものの他地域と違いや魅力が旅行者に理解され、地場産品やひいては地域のブランド化につながる可能性がある。

このように、農山漁村地域がグリーン・ツーリズムとエコツーリズムに一体的に取り組むことで、総合的には、他地域との差別化が図られるとともに、資源の保全と利用の両立を図りながら持続可能な地域づくりを誘導することが期待される。



(3) グリーン・ツーリズムとエコツーリズムの連携イメージ

参考例としてグリーン・ツーリズムとエコツーリズムの連携イメージを以下に紹介する。

事例 1：茅葺古民家とヨシ原



農山漁村（里地里山）には、農林漁業の生産の場や人の暮らしの周りに、身近な自然が存在している。

例えば、茅葺古民家の近くにあるヨシ原は、野鳥等の生物のすみかとして自然観察の場になると同時に、古民家の屋根を葺く茅葺の材料として、農村の暮らしと自然との密接な関わりを伝えることができる。また、茅葺を葺く技術の伝承等もエコツーリズムの視点では貴重な学びや体験の要素となる。

事例 2：垂水の農業・豊かな水とシラス台地



上野台地とシラス台地の農業



シラス台地形成の背景にあるカルデラ海（錦江湾）と桜島火山



シラス台地で栽培されるインゲンの収穫体験



シラス台地の地層



桜島の噴火のすごさを物語る埋没鳥居



シラス台地の地層から流れ出る水（溪流）



豊富なミネラルウォーター（温泉水）

雄大なカルデラ海（錦江湾）と桜島に隣接した鹿児島県垂水市の農業や漁業は、これらの自然を背景とした火山と黒潮のもたらす恵みに支えられている。

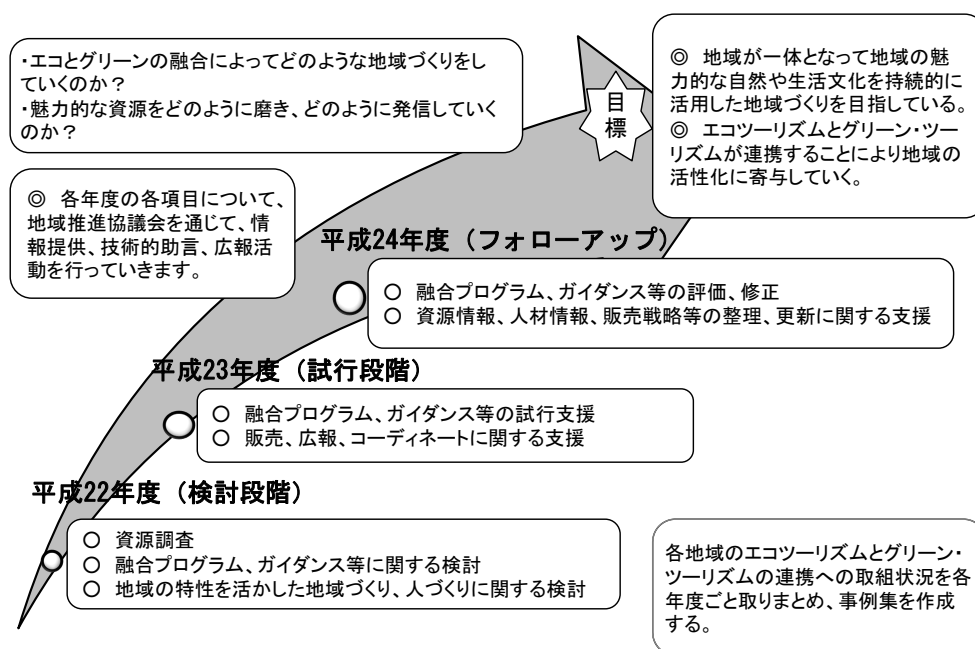
垂水の農業は、桜島の降灰の影響を強く受け、農作物や果樹の栽培には苦労を伴うが、長年の火山灰の堆積によってできあがったシラス台地での農業は、垂水ならではの自然や農業を特色づける存在であり、ミネラルウォーター（温泉水）が豊富な理由でもある。シラス台地をテーマに、関わりのある資源をストーリーでつなげていくことで、旅行者に垂水ならではの体験を提供するとともに、垂水という地域がどういうところなのかを伝えることができる。

第3節 エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による 地域活性化推進事業の概要

「エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による地域活性化推進事業」は、環境省と農林水産省が連携して、農業・農村体験を中心としたグリーン・ツーリズムに取り組む地域に対して、自然とのふれあい体験を中心としたエコツーリズムと融合した取組を行うことによって、より魅力ある体験等を提供し、自然豊かな農村・漁村地域の活性化を誘導することを目指すもので、兵庫県養父市及び鹿児島県垂水市の2地域でのモデル的な取組を通して、他地域の参考に資することを狙いとしたものである。

この事業は、以下のスキームにより、平成22年度～24年度の3ヶ年を掛けて実施したもので、初年度にあたる平成22年度は「検討段階」、2年度目の平成23年度は「試行（実践）段階」と位置づけ、グリーン・ツーリズムに取り組む地域関係者に対して、エコツーリズムの理解の誘導、エコツーリズムの視点に立った地域資源の発掘やグリーン・ツーリズムと融合したプログラムづくり（開発～試行）、プログラムの提供に関わる人材の育成、持続的な取組に必要な体制づくりの方向性に関する検討等に取り組み、3年目の平成24年度は、モデル2地域の取組状況や課題を踏まえた「フォローアップ」を実施した。

【3ヶ年の事業スキーム】

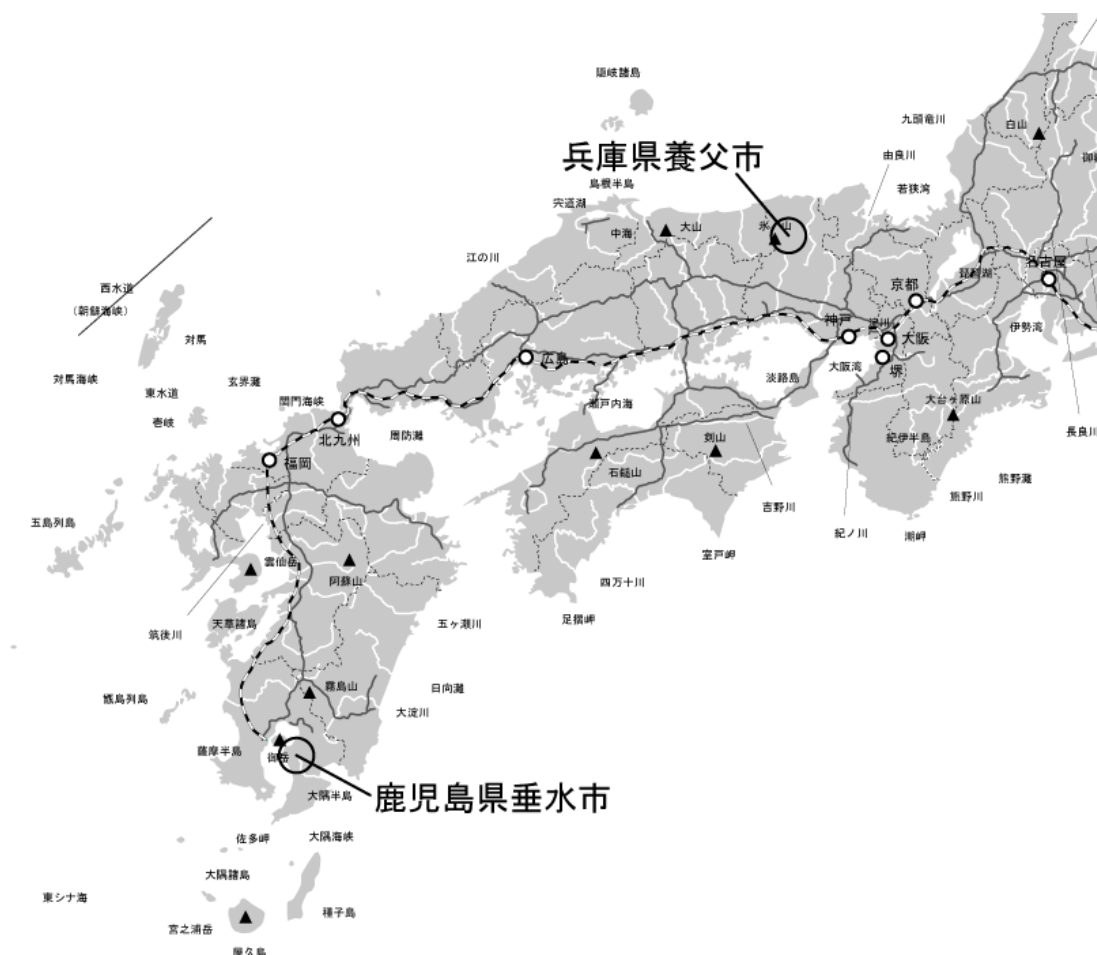


第4節 モデル地域の概要

(1) モデル地域の概況

本事業は、グリーン・ツーリズムへの取組地域であり、エコツーリズムに関心を持ち、かつ取組に意欲的な地域である鹿児島県垂水市及び兵庫県養父市を対象とした。なお、両地域は、本事業を取り巻く状況・条件（立地条件、グリーン・ツーリズムへの取組状況、エコツーリズムへの取組状況、取組体制等）に大きな違いがある。

【事業の対象地域】



【対象地域の本事業を取り巻く状況】

鹿児島県垂水市	兵庫県養父市
地域の概況	
・ 大隅半島の北西部。鹿児島湾（錦江湾）に面し桜島に接し、後背に高隈連山を控える。 ・ 人口約 1.7 万人。 ・ 平家落人の里、島津垂水家等古い歴史を持つ。 ・ 農業（果樹・施設園芸）、漁業（カンパチ、ブリの養殖等）が基幹産業。豊富な水を利用した飲料水開発が盛ん。	・ 兵庫県の北部、但馬地域の中央に位置し、西部には県下最高峰の氷ノ山がある。 ・ 人口約 2.6 万人。（2013 年 2 月末） ・ かつて交通の要衝として発展し、生糸商が栄えるとともに、但馬牛取引の拠点ともなった。明治頃の明延鉱山は、スズの産出量日本一を誇っていた。 ・ 現在、北近畿豊岡自動車道整備が整備され、市内に 2 箇所の IC が新設された。
グリーン・ツーリズムへの取組	
・ 近年は、県内中学校の漁業体験の受入等を通して、農・漁業を軸とした体験型観光や農家民宿の受入に取り組んでいる。 ・ 拠点施設として「森の駅たるみず」を平成 22 年 4 月に開業。	・ 奥米地（おくめいじ）地区では、ホテルの保全活動に長年取り組みながら宿泊施設の整備を行い、田舎体験を軸とした体験型観光や教育旅行の受入に取り組んでいる。
エコツーリズムへの取組	
・ 取組を始めたばかり（平成 22 年度、本事業から着手）。	・ 取組を始めたばかり（平成 22 年度、本事業から着手）。

(2) 兵庫県養父市における 3 年間の取組

①事業への 3 年間の取組概要

養父市（奥米地地区）においては、「子ども農山漁村交流プロジェクト」や「奥米地ルーラルライフ倶楽部／田舎暮らし体験プログラム」を通じてグリーン・ツーリズムのプログラムづくりが展開しつつあることを踏まえ、以下のような取組を 3 年間実施した。

初年度は、田舎暮らし体験、自然体験学習等を中心としたグリーン・ツーリズムに、エコツーリズムの視点や自然観光資源（地域の自然や自然と密接に関わり合う歴史・文化資源）を活用した魅力ある解説及びそれらの担い手となるガイド等を育成し、付加価値の高いツーリズムと地域振興の実現を図るための取組を行った。

【平成 22 年度の事業概要】

取組項目	概 要
①事業実施計画の作成／事業説明会の開催	養父市、養父市観光協会、NPO ほたるの里奥米地等に対し事業説明・意見交換
②グリーン・ツーリズムの取組状況調査	取組の参考として、兵庫県内の主要なグリーン・ツーリズムへの取組事例を収集
③研修会の開催	エコツーリズムの理念の理解や先進事例について、市内実践者を招いて研修会（フィールドワーク）を開催
④勉強会の開催（プログラム企画のための意見交換）	体験の提供にとどまらないエコツーリズムの視点を加えたプログラムについての勉強会（座学）と意見交換を実施（2 回）
⑤持続可能な地域づくり検討会の開催	事業への取組成果や課題を参加者で共有し、次年度以降の取組方について意見交換

平成 22 年度の取組を通して、地域関係者のエコツーリズムの理念や事業の趣旨への理解が深まってきたことを踏まえ、平成 23 年度は、実施計画の検討段階から地域関係者が主体的に関わり、計画を実践に移していった。プログラムの開発から試行（モニターツアーの実施）にいたる取組を通して、次年度以降の持続的な推進体制づくりにつながるよう、市内他地域を巻き込みながら、実践的に取り組んだ。

【平成 23 年度の事業概要】

取組項目	概 要
①業業準備会（事前協議）	NPO 法人ほたるの里奥米地のメンバーを中心に本年度事業の目的、内容、進め方等を検討
②企画ワークショップ	NPO 法人ほたるの里奥米地のメンバーを中心に、11 月のモニターツアーに向けた意見交換を実施
③企画意見交換会	Mt.8、Team りんどうからの意見も踏まえ、奥米地地区でのモニターツアー企画を具体的に検討
④モニターツアーの実施Ⅰ	「奥米地エコキッズプログラム」として、子どもを対象に地区内のお宝を巡るオリエンテーリングを実施。
⑤モニターツアーの実施Ⅱ	「奥米地ヨメ修行プログラム」として、氷ノ山・ハチ高原で民宿を営む女将さんを対象に郷土料理体験を実施。
⑥反省会・今後の体制の検討	実施結果や参加者アンケートを踏まえ、今後の課題や改善点を整理・共有し、今後の体制を検討
⑦報告会	やぶ市観光協会中長期ビジョン策定部会を含む地域関係者に対し事業報告を行い、今後の活用法を検討

平成 23 年度迄の取組を通じて体験プログラムづくりや実施のノウハウが培われてきたこと踏まえて、平成 24 年度は、「フォローアップ」段階として、具体的に商品化を目指した体験プログラムを開発するとともに、プログラムを商品として提供していくためのコーディネート組織の方向性を明確にし、確立に向けた道筋を立てることを目指した。

また、情報発信力の強化、人材発掘とネットワーク化（つなぎ込み）、ノウハウの蓄積についても誘導することとした。また、奥米地地区だけの取組では、担い手不足、高齢化等により、今後の発展性が見込めないことから、地域全体でのコーディネート、体験プログラムの提供を行っていけるよう、市内全域から改めて関係者等の参画を募った。

【平成 24 年度の事業概要】

取組項目	概 要
①事業準備会	・コアメンバーによる、本年度の事業の進め方及び取組体制についての意見交換
②第 1 回企画会議 （キックオフミーティング）	・「やぶ・まるごと体験フェア」の説明（開催趣旨、経緯）と意見交換 ・体験プログラムづくりに向けた講義（ヒント、アドバイス）
③第 2 回企画会議	・「やぶ・まるごと体験フェア」に向けた勉強会 ・体験プログラム提案者による企画プレゼン会の実施
④第 3 回企画会議	・公式ガイドブック編集会議（掲載内容についての意見交換） ・「WEB を使った集客」勉強会（講師：野崎未知氏）
⑤「やぶ・まるごと体験フェア」	・10 テーマで 10 日間に渡り体験プログラムを提供（参加者有料）
⑥第 4 回企画会議（反省会）	・「やぶ・まるごと体験フェア」の実施報告 ・来年度の事業展開に向けた意見交換
⑦「やぶ・まるごと体験フォーラム」（報告会）	・3 年間の取組を通じた成果報告 ・今後の展開についてのパネルディスカッション

②取組から得られた他地域への参考点

養父市における取組を通じて得られた、エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による地域活性化推進を図る上で他地域にも適用可能な参考点として、以下の点が挙げられる。

●活動の経緯を情報発信することが重要

ニュースレターやホームページを活用し、取組の進捗を広く知らしめることで、周囲に理解者や応援者が生まれる。その中から「自分も一緒にやってみたい」という意欲あるメンバーが出てくる可能性がある。

●地域間連携で地域を「再発見」「再評価」

住民にとって当たり前のものであっても、その背景（歴史、暮らしとの関わり等）を紐解くことで、新たな価値が生まれる。そのためには“外の目”の役割を果たす市内他地区の人の意見やアドバイスが重要なヒントになる。

●「仲間づくり」を通じて、将来の顧客（ファン）を作る

お金を掛けずに、口コミで良さを知ってもらったり、自慢しあったりすることは、このような体験プログラムの認知向上には有効である。その際、お互いを意識しあいつつ、ゆるやかにつながることでできる SNS は有用なツールとなる。常に情報を仲間内でオープンにすることで、将来の顧客（ファン）を作ることとなる。

●体験プログラムづくりのプロセスが地域ブランドを醸成する

グリーン・ツーリズムへの取組地域の多くは里地里山地域であり、稀少な自然を有する地域であることは少なく、集客の目玉となる観光資源も少ない。このような地域では、地域の背景を読み解くエコツーリズムの手法を用いた体験プログラムをいくつも作り、つなぎ合わせることで、地域イメージや地域ブランドの醸成につながる。

(3) 鹿児島県垂水市における３年間の取組

①事業への３年間の取組概要

初年度は、垂水市において既に体験型観光やグリーン・ツーリズムが地域活性化に有効なソフト事業として推進されつつあったことを踏まえて、こうした取組にエコツーリズムの考え方を導入し、自然観光資源を活用した解説の充実化、ガイド人材育成を図った。

【平成 22 年度の事業概要】

取組項目	概 要
①事業実施計画の作成／事業説明会の開催	垂水市ツーリズム推進協議会に対し事業説明・意見交換
②グリーン・ツーリズムの取組状況調査	取組の参考として、南九州３県（宮崎、熊本、鹿児島）の主要なグリーン・ツーリズムへの取組事例を収集
③自然観光資源調査	ワークショップにより、自然観光資源を発掘し、資源（お宝）マップを作成
④研修会の開催	エコツーリズムの理念の理解や先進事例について、外部講師を招いて研修会を開催（２回）
⑤プログラムの企画・立案（勉強会の開催）	体験の提供にとどまらないエコツーリズムの視点を加えたプログラムの企画・立案をワークショップにより検討
⑥持続可能な地域づくり検討会の開催	事業への取組成果や課題を参加者で共有し、次年度以降の取組方について意見交換

２年度目は、地域関係者のエコツーリズムへの理解が深まってきたことを踏まえて、地域関係者が主体的に関わることによる体験プログラムの試行を目指した。取組を通して、ガイド人材のスキルアップを図るとともに、持続的な推進体制づくりを念頭に、関係者の役割分担を明確にし、実践的に取り組んだ。

【平成 23 年度の事業概要】

取組項目	概 要
①事業準備会（事前協議）	垂水市ツーリズム推進協議会とともに本年度事業の目的、内容、進め方等を検討
②事業準備会・第 1 回プログラムづくり検討会	関係者全体で本年度事業の目的、内容、進め方等を共有、モニターツアーに向けたプログラムの検討を実施
③第 2 回プログラムづくり検討会	モニターツアーに向けたプログラムの検討を実施
④第 3 回プログラムづくり検討会	モニターツアーに向けたプログラムの検討を実施
⑤大木公彦氏講演会	鹿児島大学大木公彦氏を講師として、垂水や錦江湾周辺の自然の魅力を学ぶための講演会を開催
⑥エコツアー研修会	NPO 法人桜島ミュージアム福島大輔氏を講師として、ガイドスキルアップのための研修会を開催
⑦第 4 回プログラムづくり検討会	モニターツアーに向けたプログラムの検討を実施
⑧モニターツアー	3 テーマで 3 日間に渡りモニターツアーを開催
⑨持続的な取組に向けた推進体制づくり検討会	今後の持続的な体制づくりに向けた検討会を開催
⑩事業報告会	平成 23 年度事業の内容を振り返り、次年度以降の取組課題を共有化

3 年度目（最終年度）は、体験プログラムづくりや実施のノウハウが培われてきたこと踏まえて、商品化を目指したプログラムの開発、プログラムを商品として提供していくための体制づくりを目指した。

【平成 24 年度の事業概要】

取組項目	概 要
①事業準備会（事前協議）	コアメンバーと本年度事業の進め方を検討
②第 1 回ツーリズム会議	事業経緯やエコツーリズムの考え方の復習 関係者全体で本年度事業の進め方について検討
③第 2 回ツーリズム会議	本年度のツアー試行の具体的な方法の検討 開発するプログラムテーマ、重点プログラムの検討
④第 3 回プログラムづくり検討会	NPO 法人桜島ミュージアム高橋忍氏を講師としたガイド研修会（新城地区） モニターツアーに向けたプログラムの検討を実施
⑤たるみず体験まつり	7 テーマで 15 日間に渡り体験プログラムを提供（参加者有料）
⑥垂水ツーリズムフォーラム	3 年間の事業を振り返り、これからの垂水ツーリズムについてディスカッション

②取組から得られた他地域への参考点

垂水市における取組を通じて得られた、エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による地域活性化の推進を図る上で他地域にも適用可能な参考点としては、以下の点が挙げられる。

●周辺地域の専門家を積極的に活用することが重要

外部からの専門家による指導や助言を得ることで、取組主体である市民の意識啓発やスキルアップにつながる。また、周辺地域の専門家であれば、招聘しやすいだけでなく事後のつながりが生まれることも期待できる。

●地域資源を「深掘り」してテーマを探しだすことが重要

地域に散在する多様な資源をつなげ、体験プログラムのストーリーを紡ぐためには、資源の背景にあるもの（意味、歴史、暮らしとの関わり、関係者・・・）を深掘りして、その地域を特徴づける「テーマ」を探しだすことが重要である。

●新たな人材を巻き込みつづけることが重要

新たな人材を巻き込みつづけることで活動分野を拡大していくことが重要であると考えられる。門戸を閉ざさず、常に新規参加者を歓迎すべきである。特に IT 分野は、得意な方に加わってもらい、実践しながら学ぶことが効果的である。

●地域コーディネーター人材の発掘・育成が重要

地域の人と人をつなぎ、地域の外と中とをつなぐ「地域コーディネーター」となる人材の発掘と育成が重要である。

●体験プログラムは直接効果よりも間接効果が重要

多くのグリーン・ツーリズムへの取組地域は、里地里山であり、珍しい自然を有する地域であることは少なく、集客の目玉となる観光資源も多くないことが多い。こうした地域ではエコツアーそのものの直接経済効果よりも、地域イメージの向上や地域産業の付加価値向上、地域づくり人材の発掘と連携した取組誘導といった間接効果が大きいといえる。

第2章 地域資源の発掘と体験プログラムづくり

第1節 地域資源の発掘

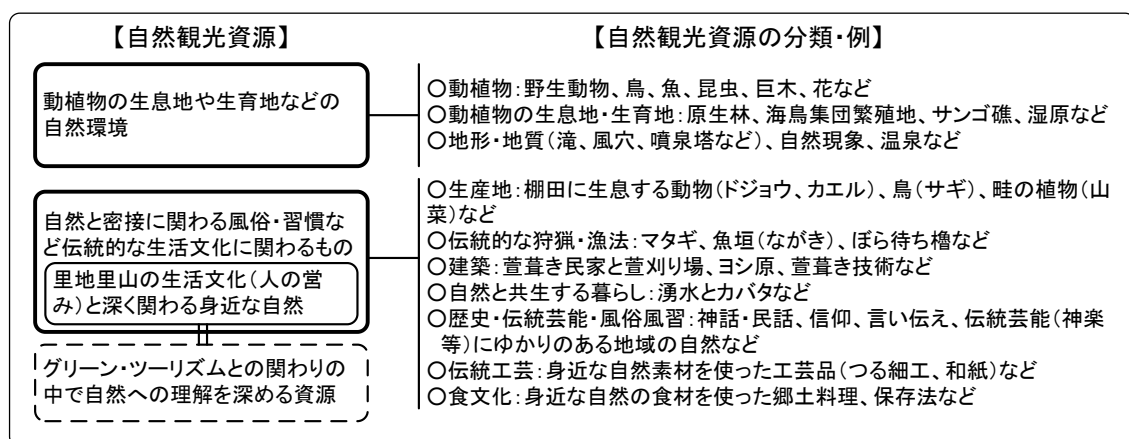
(1) 地域資源の考え方

地域の魅力は様々な要素から成り立っており、旅行者はそれらを総合的に感じ取ることによって地域らしさを感じたり、理解したりしている。この、地域らしさを構成する個別の要素のことを、ここでは「**地域資源**」と呼ぶこととする。

地域資源の中には、既に広く認知されていて旅行者を引きつけているものもあれば、長年居住している住民にすら知られていないものも数多くある。

【コラム】「自然観光資源」の考え方

地域資源のうち、特に自然環境に関係の深いものを「**自然観光資源**」という。「エコツーリズム推進法（平成20年4月施行）」では、「動植物の生息地または生育地その他の自然環境に係る観光資源」及び「自然環境と密接な関連を有する風俗慣習その他の伝統的な生活文化に係る観光資源」を自然観光資源と定義している（第2条）。また、同法に基づくエコツーリズム推進全体構想において「特定自然観光資源」を定めることで自然観光資源への罰則を科した立入制限を行うことができる。



(2) 地域資源の発掘方法

地域資源を発掘する方法は様々であるが、文献等から情報を探し出して整理する方法の他、フィールドワークや住民 WS（ワークショップ）を通じて情報を収集したり、モニターツアー等を通じて外部者の目で地域を見てもらったり、専門家に加わっていただき、地域住民の勉強会等を兼ねて情報収集する等、普及啓発や、関心を持っていただける人材探し、ネットワークづくり等を組み合わせて、参加者が関わりやすい方法で実施することが効果的である。

地域資源の発掘は地道な作業で、手間も時間もかかるが、できるだけ効率的に、多くの人々で手分けして継続的に取り組むことが必要である。

①情報を収集し整理する

様々な情報源にあたりながら情報を収集し、適時整理を行う。文献に整理されていない情報や、より詳細な情報は、専門家へのヒアリング等によって収集する。既に一定規模の関係メンバーがいる場合は、講演会や勉強会等を開催して、意見交換を交えることで、メンバーの意識啓発を兼ねる方法もある。

また、自分たちが普段魅力に感じているものや面白いと思っているもの等について、模造紙に付箋を貼って整理する（KJ 法）等、ワークショップ作業を通じて情報共有することで、調べるべき文献、話を聞くべき方等も見えてくる。

情報収集にあたっては、多くの人々で分担することが望ましいが、最初は少ない有志で、可能な範囲から情報収集することになる。情報収集しながら、その情報に関係する人材、取組に関心を持っていただける人材の情報も収集し、可能であれば仲間に加わっていただくように働きかけたい（※その分野に精通している人に加わっていただくと効率的で精度も高い）。

【参考】考えられる情報源の一例

文献収集	郷土誌、市政（町政、村政）要覧 統計資料（人口、気候、一次産業生産物、加工品他） 図鑑（植物図鑑、動物図鑑、昆虫図鑑他） 地域に関わる出版物等（コミュニティ誌、小説、映画、TV 他） その他、郷土資料館や公民館や教育委員会等が共有している文献等
専門家インタビュー・講義	地元の大学や研究機関、地域を研究対象としている大学や研究機関 各産業の担い手（農林漁家、製造業者、サービス事業者、自然ガイド、歴史ガイド他）、地域の名人、達人
情報の持ち寄り	住民自身が魅力と感じているもの、面白いと思っているもの （WS 等を通じた情報収集）

【モデル地域での取組】お宝探しワークショップ（鹿児島県垂水市）

参加メンバーをグループに分けて、模造紙の上に、お気に入りの場所や、自慢できる場所等を付箋紙で貼り込み、それぞれ発表を行った。「〇年も住んでいるけど知らなかった」といった発見、「私もその場所が素晴らしいと思う」といった共感が生まれた。



手書きの地図に貼られた数多くの付箋紙。
貼りきれない程の地域資源が見えてくる。



老若男女、居住地、普段の仕事等によって、
知っている地域資源が違う。
長年居住している方でも新たな発見がある。

収集した情報は、統一した記入シート（「**地域資源カルテ**」）を作成し、整理する方法が効率的である。整理する情報の一例としては、以下のものが考えられる。

【参考】地域資源カルテとして整理する情報の一例

調査	調査日、調査者、通し番号等（後で整理しやすいように。）
概要	名称、概要、所在地、アクセス方法等
分類	分類（6分類）等
関係者	所有者、担い手、関係者、詳しい方や研究者等
資料	関係する資料、資料の所在地等
観光	観光利用実態の有無、利用方法、利用者数・頻度、解説できる方等
課題	活用する上での課題、保全する上での課題等
関係法令	関係する法令（文化財ほか）等
評価	調査者の感想、外部の人からモニターツアー等で得た感想等

なお、参加メンバーにパソコンや、データベースを作成できるソフトウェア類を扱える人材がいれば、情報をデジタルデータとして整理しておく、情報整理や検索が行いやすくなる他、将来、情報発信等を行う際にも役立てやすい。

【モデル地域での取組】地域のお宝発掘シート（兵庫県養父市）

養父市では、テーマ（自然／歴史・生活文化／産業）で分けて、発掘したお宝を整理した。最初から細かい情報整理を行うと労力がかかり長続きしないので、収集する情報は、名称、場所、特徴（養父らしいところに注目して記載）と、後で参照できるように参考文献、詳しい人等を記載することとした。空欄（情報が無い、分からない項目）も数多く出てきたが、余りにしすぎず、まずは地域資源を数多く集めて、情報が分かり次第埋めていくこととした。

地域のお宝発掘シート

テーマ分類(1): 自然(動植物、自然環境など)に関わるもの①

こんな地域のお宝を探してみよう		・特色ある自然景観(山、奇岩、湖沼、湿原、滝など)、眺めの良い場所 ・珍しい動物や昆虫、魚 ・美しい(珍しい)花や巨木、群生地 ・珍しい自然地形や自然環境のあるところ(地層、巨岩、風穴、噴泉塔、温泉、湧水など)	
お宝(資源)の名称	場所	特徴(養父らしいところなど)	参考文献・詳しい人など
氷ノ山		・標高1510メートルと兵庫県下一の高さを誇る。杉やブナの原生林など、人の手がかかっていない太古からの自然が残る。登山コースとして親しまれている。 ・天然記念物のイヌワシ生息地。	
天滝・天滝渓谷		・落差98メートル、兵庫県内一の落差を誇り、「日本の滝100選」に選ばれている。天滝までの渓谷には夫婦滝、鼓ヶ滝、糸滝など多くの滝群があり、四季折々美しい表情を見せる。「森林浴の森100選」「兵庫県森林浴場100選」	
横行(よこいき)渓谷		・大屋町栗ノ下から氷ノ山に登るコースにある、溪流でヤマメの泳ぐ美しい渓谷。 ・ブナ原生林の紅葉も美しい(見頃:10～11月)	
不動滝(ふどうだき)	大屋町若杉	・落差15メートル。滝口から差し込む光、見え隠れする木々の緑が印象的な森にたたずむ神秘的な滝。遊歩道がある。	
布滝(ぬのだき)		・落差65メートル。白布をたらしように岩肌をすべり落ち、その清楚な姿の美しさから、その名がついた。	
糸原のみづめ桜		・樹齢500年といわれるエドヒガン桜。 ・幹周り4.2m。 【市の天然記念物】(見頃:4月中旬)	
樽見の大桜		・県下最大のエドヒガン桜。幹周り6.3メートル、樹高13.8メートルで、地上2メートルのところから数幹に分かれている。樹齢は1000年を超えているとされ、「仙桜」とも呼ばれる。 【国の天然記念物】(見頃:4月中旬)	
大久保のホードー杉		・推定樹齢500年、最大幹回り12m、高さ20mを誇る。 ・特別に大きいという意味方言「ホードー」から名付けられた説と、幹の穴にある木を「ホードー」と呼んだ説がある。 【県の天然記念物】	
別宮(べっく)の大カツラ		・幹回り14.5m、高さ27.3mの巨木。 【県の天然記念物】	
能座(のうざ)のヒダリマキガヤ		・樹齢推定約800年、ヒダリマキガヤとしては日本一の巨木。 ・また昔から、このカヤの実縁起のよいものとされ、能座区のお正月では、「蓬菜盆」に栗・串柿とともに飾り、元旦の朝にお茶と一緒にいただく習わしがある。「ひょうごの巨樹巨木100選」他 【国指定天然記念物】	・絵本「但馬の国のヒダリマキガヤ」(遊工房) ・能座かやの木保存会

【参考】地域資源カルテの例

更新日：○年 ○月 ○日

資源名称：○○○○○

基本情報				
所在地	位置図（または別途添付）			
アクセスの方法				
資源分類				☐ 動植物 ☐ 動植物の生息地・生育地 ☐ 地形・地質 ☐ 自然現象 ☐ 生産地 ☐ 伝統的狩猟・漁法 ☐ 建築 ☐ 暮らし ☐ 歴史・伝統芸能 ☐ 伝統工芸 ☐ 食文化 ☐ その他
資源の概要・特徴				
評価	☐ 見学・体験できる対象がある ☐ 地域性がある ☐ 固有性がある ☐ 活用上の制約がない ☐ 一般の人が興味を持つ ☐ マニアが興味を持つ ☐ その他			
	（専門家評価・コメントなど）			
	・例：固有性、希少性が高く、「特定自然観光資源」としての保全が望まれる。 （資源の深掘りの必要性・考え方など）			
資源の詳細情報				
資源に関する参考文献・情報源				
資源に詳しい人・研究者	☐ いる ☐ いない	研究者名		
		氏名	（所属、問合せ先）	
ガイド（解説）できる人	☐ いる ☐ いない	ガイド・解説者名		
		氏名	（所属、問合せ先）	
資源の活用状況				
活用の有無	☐ 有り ☐ 無し			
活用の方法	☐ 自由な立ち寄り・見学 ☐ ガイド・プログラムの提供 プログラムの提供者（ガイド団体等） （団体名、問合せ先）			
	プログラムの内容・ポイント			
資源の利用状況（実績）				
年間利用者数				
プログラムの実施回数				
資源の保全管理状況				
各種指定・ルール等の有無	自然公園（第○種○○地域）、重要文化財（○指定）等			
利用にあたっての留意点	制約事項			
	保全管理上の対応課題			

②フィールドで探す

地域資源は、文献等に掲載されているとは限らず、例えば、地域の景観に関する資源（見晴らし、一次産業の様子、仕事場、裏道・漁村の道等）等は、文献調査だけでは挙がってこないものも多い。こうした資源は、フィールドワークを通じて探してみることが効果的である。

具体的な実施方法の例としては、その地域に詳しい方が案内人となって、参加者等が地域を巡り歩く方法の他、特に案内人を設けず「お宝探しワークショップ」を企画する方法等もある。実施にあたっては、年齢や性別に偏りが無いようにグループに分けて（敢えて偏らせて視点の違いを明確化する方法もある）、ポラロイドカメラ（無ければデジタルカメラや携帯電話カメラ等）を持って面白いと感じたものを撮影し、終了後に持ち寄って（デジタルカメラ画像は印刷して）、大判の地図（模造紙等に手書きで良い）に落とし込み、グループごとに発表し、共有する方法がある。

参加者については、できるだけ幅広い参加者を募って実施すると良い。老若男女によって異なった資源を発見することも多い。子どもだけが知っている裏道や面白さ等の発見も期待できる。互いに自分の住む町内以外の地域を見ることが新鮮な視点から発見を促す方法もある。落とし込まれた情報は、後日、事務局等が地域資源カルテ等に必ず整理する。

【モデル地域での取組】フィールドワークによる地域資源探し（鹿児島県垂水市）

垂水市では、これまで観光活用されてこなかった新城地区の魅力を発掘するため、フィールドワークを行った。新城地区に居住する山田氏を案内人として、地域資源探しやプログラムづくりに関わってきたメンバーで踏査した。都度、意見交換を重ねながら、歩くことで、参加者の気付きが促された。



農産物の出荷作業等、
普段立ち入れない場所を見学した。



案内人も気付かなかった農業景観。
向こうに見えるのは錦江湾

③外部の人を巻き込んで探す

地域らしい資源を発掘する上で、「外の目」も積極的に取り入れることが重要である。実際、地域資源探し等に外部者を加えると、地域に長年住んでいると気づかない資源が指摘されたり、高い評価を受ける事が多い。

具体的には、周辺地域で活動しているエコツーリズムやグリーン・ツーリズムに取り組む団体や、他地域で街歩き等を実施している方等に参加していただくと効果的である。

【モデル地域での取組】外の目を活用した地域らしい資源探し（鹿児島県垂水市）

垂水市では、エコツーリズムや地域づくり活動の実践ノウハウを有する NPO 法人くすの木自然館（鹿児島県始良市）の協力を得て、外部の視点から垂水市の地域資源を整理し（＝地域のお宝発掘シート）、議論のたたき台とした。垂水市民からは、「外から見るとこんなものが面白いのか」といった驚きの声が多く聞かれた。

垂水の地域資源を見直してみる



【ポイント】

- 桜島や錦江湾をあちこちから見る事ができる(ここだけの景観)。
- 桜島の火山活動と関係の深い資源が多い(自然、農業、歴史文化、暮らし)。
- 錦江湾は魅力的景観。漁場として漁業や暮らしと関わりが深い
- 水にかかわる資源が多い
- 垂水島津家をはじめ、今も伝わる歴史・史跡が多い。
- 食文化がとても豊か(芋を使った郷土食をはじめとして)。

調査・報告：NPO法人くすの木自然館

【モデル地域での取組】地域間連携で地域資源の再発見（兵庫県養父市）

養父市では、奥米地地区の地域資源を活かした子ども向けの体験プログラムづくりを行う際に、同市内で学校団体等の自然体験の受入に実績のあるハチ高原の若手民宿経営者で結成された Mt.8（マウントエイト）の有志に企画段階から参画してもらい、意見やアドバイスを求めた。

その結果、これまで気付かなかった地域資源（例えば、野菜を貯蔵する洞穴等）の再発見、再評価に繋がった。



既存の体験プログラムや、ある程度提供できる段階まで作りこんだものがあれば、外部からモニター（旅行会社の企画担当者、街歩き等のライター、新聞記者等）を招聘して意見を聞く等の方法がある。特に旅行会社の企画担当者等は、市場性や他地域との比較といった視点からの助言も得られることが多い。また、将来、旅行会社との連携や、修学旅行受入等を想定している場合には、実務的な助言も期待できる。

(3) 地域らしいテーマを見つける／地域資源を深掘りする

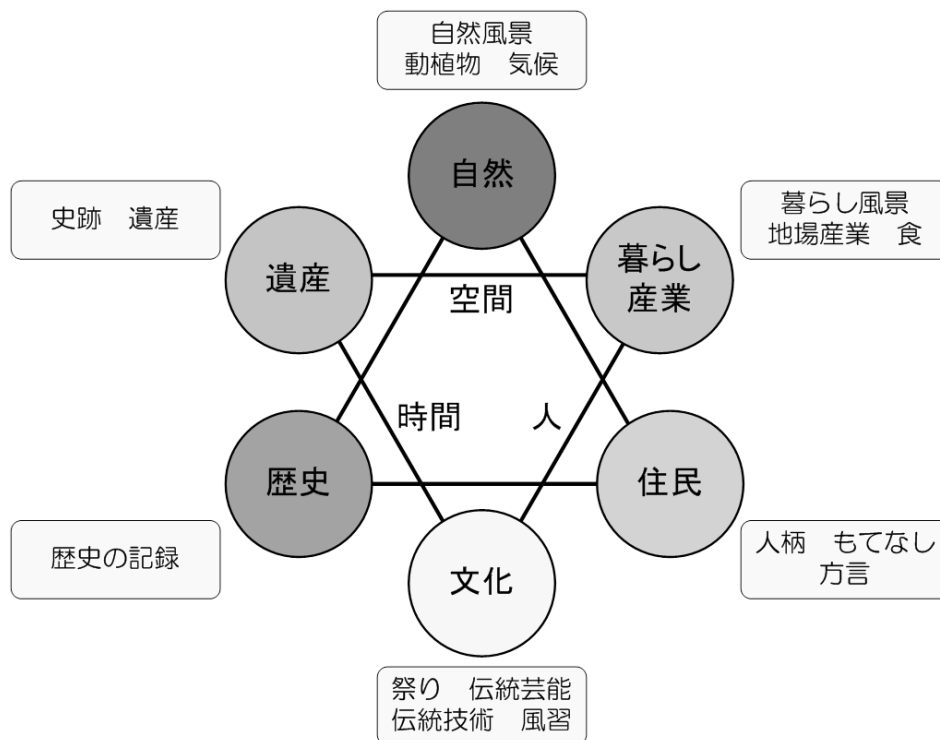
発掘・整理した地域資源は、このままでは玉石混交の情報データベースに過ぎない。これを観光の視点で繋ぎ合わせたり、それぞれの地域資源の背後にあるものまで深掘りしたりしながら、地域らしいテーマを導くことを通じて、初めて体験プログラムづくりの素材となる。

①地域らしさをどう見つけ出すか

探しだした地域資源の1つ1つは、それ自体が魅力的で「地域らしい」ものもあるが、大抵は「ありふれた」ものである（「ありふれたもの」に見える）場合が多く、それだけでは「地域らしさ」とは言いがたいこともある。

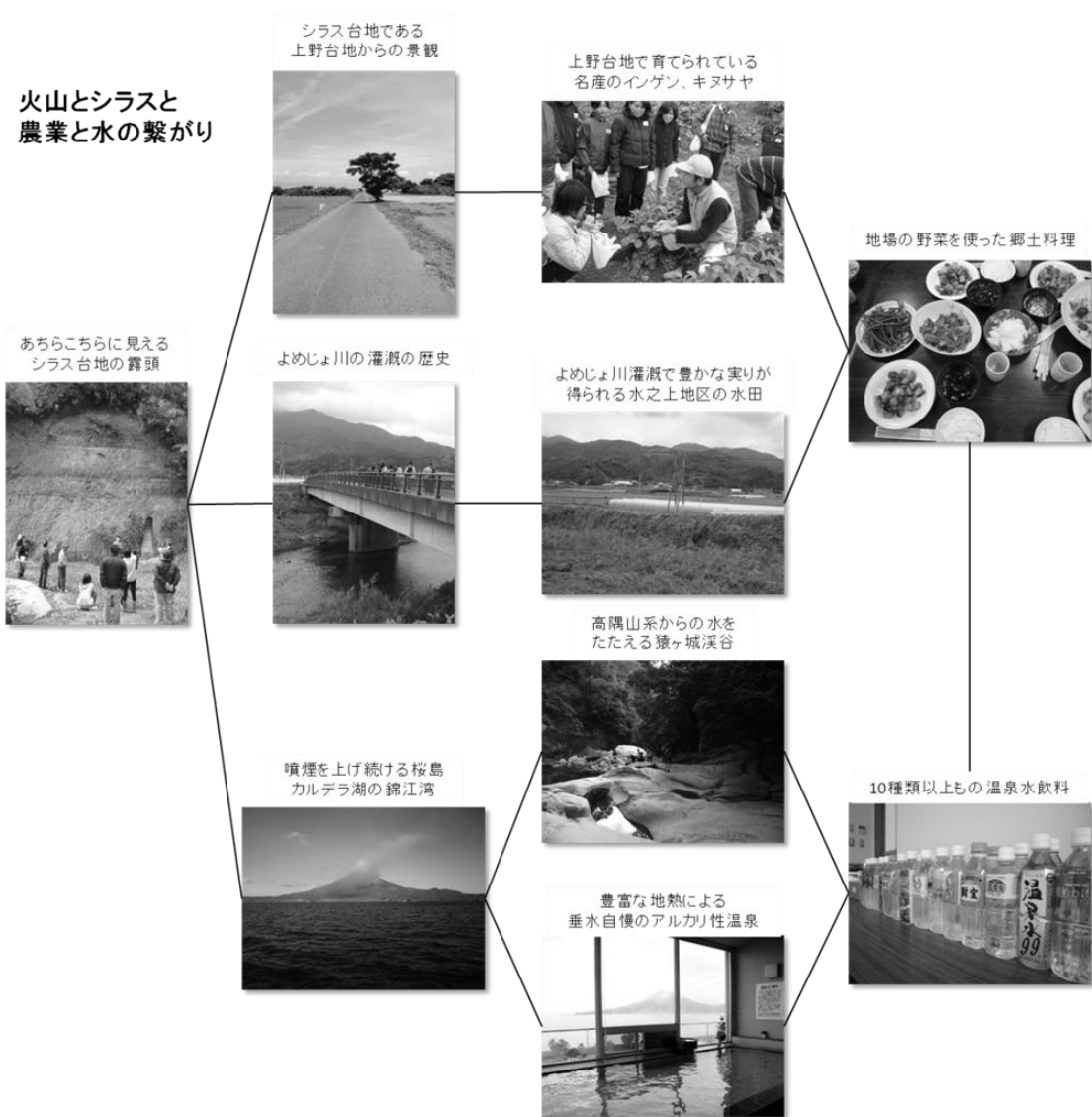
実は、「地域らしさ」は、その1つ1つよりも、むしろ地域資源の相互の関係性（共通項）の中に、見出されることの方が多い。住民の暮らしや産業と自然との関わり、地域の祭りや伝統の中にある自然の影響といったものの中に、その地域ならではの固有性や面白さがある。

【参考】6つの魅力構成要素から考える（地域資源を結ぶ共通項は何か？）



【モデル地域での取組】火山とシラスと農業と水の繋がり（鹿児島県垂水市）

垂水では、WS、検討会、講演会等を繰り返す中で、「シラス（火山灰）」という、この地域の様々な資源を結び付けられる良いテーマに辿りついた。阿多カルデラ、始良カルデラを起源とするシラスに覆われており、桜島からの火山灰が今も降り続く。これらは、地域の農業や、歴史等に深く関わってきた。また、火山は地域の温泉とも関わりが深く、「垂水」の語源となった水にも関わっている。



【事例】テーマ：麓の暮らしから伝える世界遺産の魅力

(秋田県八峰町、青森県鯉ヶ沢町)

白神山地は世界自然遺産地域として知られているが、一見して、全国で普遍的に見られるブナ林であり、その上、核心部への立ち入りは規制されている。また、世界遺産登録の理由である「豊かな生態系」は説明が難しい。そこで、白神山地周辺地域では、白神山地の麓の暮らしの中からテーマを導き出し、テーマを通じて白神山地の魅力を伝えるエコツアーづくりを行なっている。



水をテーマに白神山地の恵みを味わう
(秋田県八峰町)



北前船、津軽藩の歴史をテーマに
白神山地の恵みを味わう (青森県鯉ヶ沢町)

【参考】観光視点から整理した地域資源とテーマ導出の過程（青森県深浦町）

青森県深浦町では、発掘した資源を基にどのようなテーマが導出できそうか、マトリクスを使ってアイデア出しを行った。横軸に観光客視点（見る・感じる／学ぶ／食べる／作る・遊ぶ）、縦軸に資源の分類（自然、歴史文化、暮らし・産業、もてなし）を置いていた。

観光の視点から整理した地域資源とその活用（深浦町）

	見る・感じる	学ぶ	食べる	作る・遊ぶ
自然	・この地域らしい自然を十分感じることができる場所はどこか ●海と山の繋がる景観を見る ・漁船に乗って、海と山と白神山地と繋がる景観を見て、その雄大さを感じる（岩崎） ・大迫から、深浦町の港の形、連なる山々を見て、その雄大さを感じる ●美しい夕日、風景、散策、新緑を見る ・同時体験所（夕陽散策所）、散策遊歩道、大間越海岸、千重敷海岸、弁天島、行合崎、大岩、森山海岸、お飯屋といった夕日スポットから、日本海に沈む夕陽を見る ・アオーネ白神から星空を見る ・香春川、遠良川など山沿いの紅葉、新緑の景観を見る ●特徴的な景観、日本を見る ・十二瀬（青池、ブナ林）、千重敷、大巖寺、豊村、奇岩（兜岩など）、行合崎の景観→ツルクスガ、樽山、日本キャニオン等の特徴的な自然を見る ・海から奇岩群、隆起地形、ガングラ（穴）を見る	・この地域らしい自然を学ぶことができる素材、場所はなにか、教えることができる人材（ガイド、研究者など）はいないか ●海と山の繋がりを学ぶ ・漁船に乗って、海から白神山地を見て、昔から漁師や木船が山を自給にしていることを学ぶ ・種の間と観察や、つかみどり体験を通じて、白神山地の恵みが川、海にまで達していることを学ぶ ・十二瀬でのガイドレッキングを通じて、ブナをはじめとした白神山地の混成樹林が、十二瀬の景観となし、川の源を流す川の水、豊富な湧き水を作っていることを学ぶ ●地産地消の力を学ぶ ・海の奇岩（隆起地形）、日本キャニオンや大巖（火山）による地質、凝灰岩といった変化に富む地形を見ながら、地殻変動の大きな力について学ぶ	・この地域の自然の恵みを感じる食材はないか ●海と山の繋がりを活かした料理を食べる ・昔から当り前に海と山があった深浦ならではの料理を食べる（ハタハタの飯寿司、付の汁、ごっこ煮など、海のものや山や里のものを合わせた料理） ●この地域ならではの食材を食べる ・豊富な漁場や、豊かな山があるからこそ食べられる、市場ではあまり見られないような食材を使った季節料理を食べる（ミズ、貝類、魚や貝の芋七など）	・地域の自然を使った創作活動や遊びはないか ●冬の海を感じる遊び ・漁船に乗って、冬の日本海の雄風を感じて遊ぶ ・（安全な場所）日本海の荒波を浴びる（轟木駅など） ●海を使って創作する、遊ぶ ・海産アート（作り、振替、ストラップ）、海産アート（押し花など）を作って遊ぶ ・漂流物を使って、「海産アートコンテスト」を開き、町民、観光客が一層になつて遊ぶ ●山を使って創作する、遊ぶ ・狭い岩場を道の端の崖に登ってくり抜いて遊ぶ、久次島まで往復する ・雲っぱやドングリを使ったアート、アクセサリーを作る ・白神山地の樹木や土などを使って染物をする ・森の中（ブナ林の中等）で「童謡集」を開催
歴史文化	・この地域らしい文化的景観、伝統的芸能などを見ることができるところはないか ●里待ちの歴史、北前文化を感じられる場所を見る ・行成寺や北前山麓の双龍山（北前船乗降、船など）を見て、北前文化の隆盛や当時の文化を感じる ・洞門をくぐったり、お飯屋から十二瀬の港を見て、かつて漁船が出入りした時代を体感する（当時の港の原形と対比、歴史を辿らせて当時の様子を再現など） ・十二瀬十二重をたどったり、はるか昔から来た深浦の歴史を感じる ・宿泊施設の一室を、漁政時代の設えで提供する ●伝統ある祭りを見る ・深浦まつりをはじめとした祭り、踊り、舞、お囃子、様々などを見て、地域の文化を感じる	・この地域らしい文化や伝統を学ぶことができる素材や場所はなにか、教えることができる人材（名人、担い手など）はいないか ●里待ちの北前文化を学ぶ ・深浦里待ち館、歴史民俗資料館、美術館、戸賀寺、ふくろう文学館（旧秋田屋旅館）等の資料や展示物、施設を通じて、深浦の北前文化を学ぶ ・里待ちの主人から昔の里待ちの暮らしなどを学ぶ ●安藤氏の時代を学ぶ ・城館跡、関のー、などの史跡を巡りながら、安藤氏の時代の様子を学ぶ ●地名から歴史を学ぶ ・地名をしながら、漁業、風合瀬、千重敷、深浦、といった歴史ある地名を学ぶ ●マタギ文化から、自然と共生してきたマタギ文化を学ぶ ・直接マタギから、マタギ言葉や、マタギの信仰・思想を（体験などを通じて）聞くことで、白神山地の自然を学べることを活用してきた地産を学ぶ	・この地域の文化を感じる食材や、料理（食べ方）はないか ●北前文化の歴史を感じながら食べる ・お飯屋で、漁政期の「ごっこ」を再現して当時の漁師が食した料理を食べる ・老練のりししながら、十二瀬の味を少しづつ食べる ・飯寿司をたどり、港中（山）の水（山）の清流を飲む ●歴史上の人物が食した料理を食べる ・太宰治が食べた料理の再現「ふくろう御膳」や、旧里待ちが好んだ料理・食材を食べる	・この地域らしい文化に関わるもので創作活動に使えるものはないか ・この地域に昔からある遊び（伝承遊び等）はないか ●昔を再現して遊ぶ ・坂の一角で、漁政期の状況を再現して、住民や観光客がみんなで体験して、当時の遊びや食事などを楽しむ、当時のイベントなども再現する ・安藤重直の衣装を着て、飯館で宴会をする
暮らし・産業	・この地域らしい産業を見ることができるところはないか ●特徴的な産業景観を見る ・奥頃にも劣らない、ニンジン畑の雄大な景観を見る ・漁業や地産の活気ある景観を見る ・観光客に、地域景観を撮影してもらい、定期的に写真コンテストを行う（インターネットを使って簡単に、かつ幅広く）	・この地域の産業を学ぶことができる素材や場所はなにか、教えることができる人材（名人、生産者など）はいないか ●地域の農業、漁業を学ぶ ・昔ニンジン畑の栽培→収穫の各段階で、季節ごとに必要なお手伝いをすることで、深浦での農業を学ぶ ・豊産で網を置いたり、といった作業を手伝う。また、冬期は一層に漁に出て、豊漁を体験し、豊産で遊ぶ。	・この地域の産業にまつわる食材や、料理はないか ●里待ちも味わえる郷土食を食べる ・海の食材と山の食材を合わせた料理や、地産地消の郷土料理を飯館を開きながら食べる（海産山産を取り組んでいる飲食店、海産山産館など）（豊富な魚介類やその料理、ミズ、山産、昔餅・・・） ●地域の農産物を自分で作って食べる ・深浦の中、自分でもニンジン畑を育て収穫し、自分で料理して食べる ・漁船に乗って漁に同行、採れた魚を自分でおろして食べる ・漁り網体験をして、採れた魚介類を食べる	・この地域らしい産業に関わるもので創作活動に使えるものはないか ・この地域の産業に関わる遊びはないか ●里待ちらしい農業を体験する ・昔ニンジン畑を農業の中の手伝い出す ●里待ちらしい漁業を体験する ・豊産ハマスやマグロの水揚げを見る（できれば体験もする） ・漁船で海に出て、イカを釣って、豊漁の中で生玉にする
もてなし	・この地域らしいもてなしが見られる場所、機会はないか ●津軽弁でのおもてなしで田舎の温かさを感じる ・お出迎えの挨拶、お別れの挨拶といった要所要素で津軽弁を使って、温かみを感じる ●甲斐でのおもてなしで津軽の歴史を感じる ・収蔵されている甲斐屋を巡って、甲斐屋と津軽の時代の雰囲気を感じ取れるものを見ることができ、津軽の歴史を感じる（お飯屋、宝泉寺、万年坂など）	・この地域らしいもてなし方から何かを学ぶことができないか ●津軽弁を通じて、「津軽人」を学ぶ ・津軽弁を交えて（※全てではなく）解説することで、田舎の温かさを感じ、学ぶ ・津軽人の気質がよく表れている言葉（もつてなど）を通じて、津軽の人の考え方や、その背景にある自然環境、歴史文化を学ぶ	・この地域らしいおもてなしにつながる「もてなし料理」はないか（創れないか） ●少しづつたぐさんの料理を食べる ・深浦の豊富な食材・料理を生かし、少しづつ（一口ずつ）、たぐさんのお店で提供された料理を食べる ●漁師らしい漁夫的な料理を食べる ・その日に採れた魚を、豊産に調理したものを食べる（刺身、煮物、・・・）。漁師風の食べ方で食べる（どんぶり）に盛りつけて醤油をかける、等。、	・この地域らしいもてなしを表現するようなものが創れないか ・この地域の遊びを通じて、面白いもてなし方ができないか ●駅やお店、観光施設を語る ・深浦の18駅それぞれを、貝殻や流木、ドングリ、木の皮など自然素材を使ってオリジナルの飾りつけ（駅名標、掲示板、注意書き、トイレなど、無差別に作りかたをなすのを避ける）、お店、観光施設も同様。地域全体の動きになれば、地域イメージの向上にも寄与。 ●人を語る ・手作りのフロッピーや、ストラップ、従業員の名札、制服や帽子、靴ひもなどをかざり自然素材で飾る。

②地域資源を深掘りする

地域らしいテーマを見つけるためには、地域資源の相互の関係性を見つけることが第一歩であり、そのためには、それぞれの地域資源の背後にある歴史や経緯、担い手や関係者、関わりある文化や産業等も含めて情報を収集する（地域資源を深掘りする）ことが大切である。

深掘りする方法としては、ある程度情報を収集した中で見えてくる共通項を手がかりに、その共通項を持つ地域資源を掘り起こしていく方法や、そのテーマに関する専門家のアドバイスを受ける方法もある。

【モデル地域での取組】シラス台地についての講演会（鹿児島県垂水市）

地域のテーマとして「シラス台地」が有力候補として挙がってきた段階で、更に詳しく学ぶために、鹿児島大学教授（※肩書当時）の大木公彦氏を招聘して講演会を行った。シラス台地を含めた火山が、農林漁業、風俗習慣、地域の歴史にも深く関わっていることを学んだ。

講演会を通じて、これまで特に関係が無いと思っていた地域の資源が、深いところで全て繋がっていたという気付きに繋がり、取組への動機づけが大きく高まった



⇒（参照）資料 3：講演録 (3) 私たちの「シラス台地」を学ぼう／大木 公彦氏（鹿児島大学教授）

また、特別な資源が見出されなくとも、その地域の日常的に発生する自然現象—例えば、森ごとのブナの葉の落ちる枚数やドングリの数の経年変化、地域内の桜の開花時期の経年変化と気温、地区ごとの雪解けの時期の違い、キツツキが作る穴の数等—について、データを蓄積することで、新しい発見があったり、テーマが見出されたり、解説の良い「ネタ」が生まれたりする。

【モデル地域での取組】降灰量の測定や観察の重要性（鹿児島県垂水市）

体験プログラムの作り方について学ぶため、麻布大学南正人氏を招聘して講演会を行った。南氏は、垂水市の自然の面白さを伝えるために、住民が可能な範囲で調査を行うことを勧めた。

特に、桜島から降る降灰については、公的機関による実測値だけではなく、各家の庭等にコップ等を置いて年間でどの程度の降灰があるか、コップで言うところの位、この地域ではこの位で、最も多い地域ではこの位、といった説明ができることで解説の幅が広がるのではないかと指摘していただいた。



1 時間程度で車に積もった降灰。
降灰の多い月は $2\text{kg}/\text{m}^2$ にもなる。



降灰を避けるため、枇杷の袋掛けは
通常より早い時期に行われる

⇒（参照）資料 3：講演録（1）エコツーリズムと魅力的なガイド～旅行者の“意識を変える”エコツアーづくりとガイド方法～／南 正人氏（麻布大学獣医学部講師／NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ代表理事）

第2節 地域らしい体験プログラムの開発

(1) 体験プログラムづくりへの取組方と手順

①取組方

地域資源の発掘・深掘りを経て、地域のテーマがいくつか見出された段階で、次に、具体的な体験プログラムづくりに着手する。

参加者は、地域資源の収集・深掘りに関わったメンバーとともに、実際にプログラム提供に関わっていただきたい方（農林漁業等に関わる体験を実施する場合はその担い手・生産者、食を絡める場合には料理等を提供できる方、ガイドやインタープリター役を担っていただく方等）にも積極的に関わっていただけるように働きかける。

また、自分たちだけでは視野が狭くなることや、専門的な助言が必要な内容も想定されることから、体験プログラムづくりの専門家、特に地域内や近隣のエコツーリズム実践者等の協力を得て、助言を受けながらプログラムづくりを行うことが望ましい。

【モデル事業での取組】外部 NPO の指導によるプログラムづくり（鹿児島県垂水市）

垂水では、シラス台地をテーマにプログラム作りを実践した。このとき、NPO 法人桜島ミュージアム、NPO 法人くすの木自然館から、地域資源の見せ方、プログラムの組み方・注意点、更に深掘りが必要な地域資源等について、共同作業をしていただきながら助言を受けた。



両 NPO にグループファシリテーター兼アドバイザーとして入っていただき、助言を受けながら進めた。



作成した企画案をグループごとに発表して意見交換をした。

②手順

体験プログラムづくりの手順はおおむね下記のような手順で行う。それぞれ先の段階へ進んでから、前段階での不十分な点に気付くことも多い（例：企画を練っていたら地域資源の情報が足りなかった、フィールドを見てみたら企画が不十分だった等）。その場合は、何度でも前に戻ってやり直す必要がある。

【参考】体験プログラムづくりの手順

①企画案づくり	地域資源・テーマに基づき、企画案を作る。
②企画案実施に向けた準備	企画案の実施に向けて必要な準備（情報収集、フィールドの確認や整備、関係者との調整他）を行う。
③試行	モニター等を集めて企画を実施し、旅行者の反応や、問題点等を把握する。
④提供	体験プログラムを提供する。

(2)体験プログラムを作る

①企画のイメージを具体化する

テーマに基づいて、体験プログラムの企画を具体化しながら、イメージを固めていく。作業時には、下記のような項目を記入できる「**企画立案シート**」を作成しておき、参加者等が書き込めるようにすると効率が良い。

個人でそれぞれ作成して持ち寄ったり、グループ作業（例：参加者をテーマへの関心等に基づいて参加者をグループに分ける）等によって企画を出し合い、意見交換しながら企画を練り上げていくことで、発想を広げたり、互いに気付かなかった点等を補完しあったりする。

【参考】企画立案シートに掲載すべき項目例

（第1段階：企画イメージづくり）

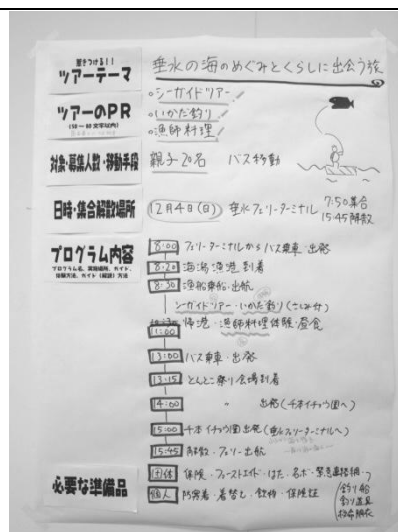
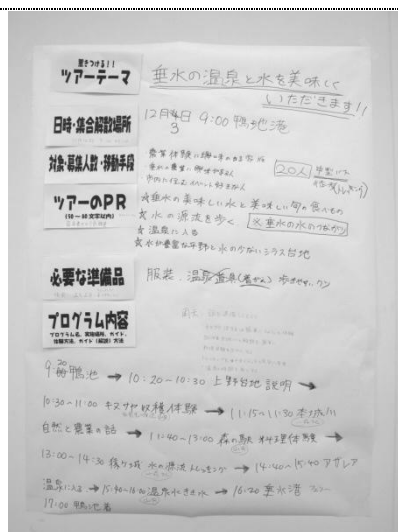
テーマ	地域らしい魅力的なテーマ
ターゲット	ターゲットとしたい客層（どこから／個人・小グループ、団体、修学旅行、外国人…、子ども
関連する地域資源	テーマに関連する地域の資源や、その活用方法
シナリオのイメージ	テーマに基づいて、ターゲットを意識しながら、どのように地域資源を活用するかシナリオの大まかなイメージ
工夫	より楽しんでもらったり、テーマの理解を深めるための工夫点

（第2段階：企画内容の作り込み）

タイトル	プログラムのタイトル。ターゲットを惹きつける言葉。
メッセージ	プログラムの内容を魅力的に伝える端的なメッセージ。プログラムの告知文等に活用。アピールポイント。
料金の想定	1人あたりの料金の想定
時期・時間	実施する時期や時間
人数の想定	1回の実施あたりの人数の想定
集合・解散場所	集合・解散場所
構成	プログラムの構成・スケジュール
スタッフ、必要な準備	プログラムの実施に必要なスタッフ、関係者、協力者、準備
実施上の留意事項	実施するにあたって留意すべき事項等

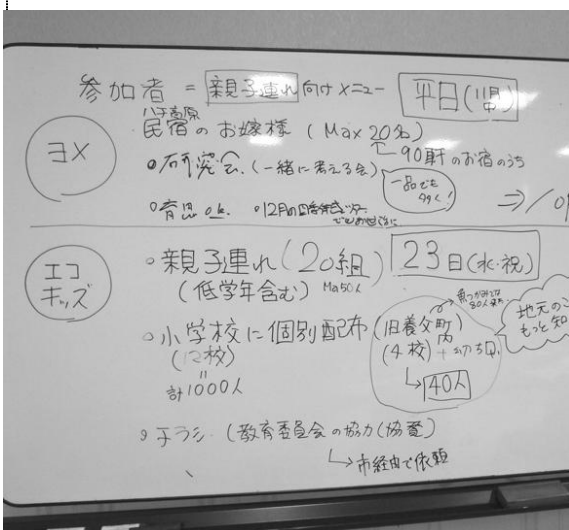
【モデル地域での取組】企画案づくり（鹿児島県垂水市）

垂水市では、各人で作成した企画立案シートの中から特に可能性があると思われる 3 つのテーマに絞り、テーマごとにグループに分かれてワークショップ形式で企画内容を検討し、発表・意見交換を行った。



【モデル地域での取組】企画案づくり（兵庫県養父市）

養父市奥米地地区では、モニターツアーのターゲットやテーマを絞り込むにあたり、「奥米地で本当に伝えたいものは何か？」を掘り下げて議論した。「(地元の子どもに) ホテルを育む奥米地の自然環境の魅力を知ってもらいたい」、「(自分のヨメに) 奥米地の昔ながらの手作りの味を伝えたい」との意見から、ターゲットを「子ども」「女性」の2つに絞りモニターツアーの企画を行い、「子ども×環境」「女性×食」を切り口としたモニターツアーを実施した。



【参考】企画立案シートの例

ツアー・プログラムの企画立案シート(作業用)

1. 地域らしいテーマを見つけよう(設定しよう)

2. 参加してもらいたい利用者(ターゲット)を決めよう

・どの地域から? / 個人・小グループor団体? / 子ども? 家族? 中高年? ...

見る、遊ぶ、ふれる、体験する、歩く、話を聞く、食べる...

3. テーマに合った素材(お宝)を集めてみよう

活用できそうな素材(お宝)	素材の使い方(工夫)

4. プログラムの構成やストーリーを考えよう

・様々な体験要素を通じて垂水らしさやプログラムから伝えたいことをどう組み立てていったらいいでしょう?
・自然や歴史・文化、産業、人(名人)・・・いろいろなものをつなげてみよう

5. プログラムの作り込みをしよう(より面白く工夫しよう)

ツアー・プログラムの企画立案シート(提案用)

ツアーのタイトル(ツアーのテーマ) 「〇〇と〇〇にふれる〇〇体験ツアー」 (サブタイトル)
ツアー(プログラム)のアピールポイント(売り・伝えたいこと)
ツアーの対象(ターゲット層)
主な実施場所(フィールド)
提供時期

プログラムの構成・内容・スケジュール	
集合	〇〇集合・ガイダンス
プログラム1	〇〇ウォーク&〇〇ウォッチング
プログラム2	〇〇へ移動 〇〇さんの畑で農作業(収穫体験) ・〇〇さんの苦勞話やウンチクを聞く(この〇〇は・・・) ・収穫した〇〇を使って〇〇作り、畑の周りで〇〇さがし
プログラム3	〇〇さんの庭でお昼ご飯 〇〇へ移動
プログラム4	〇〇跡を見学(〇〇さんの話を聞く)
プログラム5	〇〇市場でお買い物
解散	〇〇解散

※半日～日帰り～1泊2日……(食事や宿泊も組み合わせよう)

②プログラムを組み立てる

プログラムを組み立てる際には、単に体験や食等を寄せ集めた「カタログ（目録）型」ではなく、地域らしいテーマを持ち、テーマに基づいて組み立てられた「**ストーリー（物語）型**」を目指すことが望ましい。

具体的には、体験したり味わったりすることに 1 つ 1 つに意味を持たせて連続性を持たせたり、簡単で誰もが分かりやすい話をイントロダクション（導入）として、少しずつ本質的な話へと展開し、アウトロダクション（終演、まとめ）に向けて話を収束していく。

意味とストーリーを持たせていくには、「なぜ」この体験をするのか、「なぜ」この話をするのか、「なぜ」この場所で話をするのか…、というように、1 つ 1 つの体験に「なぜ」と問いかけてみるのが効果的である。

【モデル地域での取組】ストーリー性のあるプログラムの構成（鹿児島県垂水市）

モデル事業で実施された「シラス台地と水と農業の関係」をテーマとした体験プログラムは、収穫体験、食、トレッキング等を含め、プログラム全体を通じてテーマを伝えている。下記にその構成とシナリオを掲載する。

作成者：体験プログラム実践者（山田一生氏、山田義之氏）

アドバイザー：NPO 法人桜島ミュージアム（※**太字下線部**は桜島ミュージアムからの助言）

タイトル	垂水の“温泉”と“水”を美味しくいただきます！！
テーマ	垂水の暮らしの中の水と農、その背景にある火山の恩恵
コンセプト	垂水のシラス台地と平野で営まれてきた農業を体験する。 台地と平野の水の利用の違いを感じる。 垂水の水で育まれた美味しいものをいただく。 温泉で癒される。（飲む温泉水も含めて）
モニター	主に鹿児島市在住の方 20 名程度 農業体験に興味がある子どものいる家庭、農業に興味がある方、鹿児島市（垂水隣接地域）に住むイベント好きな方
資源	典型的で広大なシラス台地 美味しい水や地質に育まれた野菜やお米 錦江湾沿いに点在する温泉や、飲む温泉水
日時	2011 年 12 月 3 日 9：00～16：20

【プログラムの構成、ストーリー】

①集合、ガイダンス

行程	垂水新港集合、ガイダンス 10：00
場所	垂水新港
案内内容	①あいさつ、自己紹介、アイスブレイク「ずばり垂水の魅力とは？」 ②このモニターツアーの目的、本日の趣旨、流れの説明 ③トイレの確認、アンケートの案内
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・アイスブレイクを行い、参加者の緊張を解く ・プログラム内容に期待を持たせるためのトーク、伏線
皆さんこんにちは。本日はお集まりいただきありがとうございます。 私山田義之とこちらの山田一生のダブル山田が案内をします。 今回のモニターツアーの趣旨はこの垂水らしい体験プログラムを垂水に住む人が作って商品化しようというものです。そして垂水の良さをたくさんの人に知ってもらおうということで歴史や農業や漁業にスポットを当ててこのツアーを作成しました。今日のツアーもこのダブル山田で何カ月も掛けて一生懸命練り上げたものです。 本日は農業体験等をして、そこで採れたものをお昼にいただきます。その後猿ヶ城溪谷に垂水の水が美味しい理由を探しにいき、温泉に入って 16：10 分にはこちらに戻ってきたいと思います。では本日もなさ	

まを案内する山田君よろしく。

皆さんこんにちは。本日はみなさまを案内させていただきます、ダブル山田の若い方、山田一生です。今日は皆さんに楽しんでいただくために、自分もめいっぱい楽しんで進めていきたいと思います。

さて、突然ですがこの中で大隅に来たことがある人方？／お、結構いますねー

では、垂水に遊びにきたことがある人？／どこに行きましたか？おー

では、垂水の魅力ってなんでしょう？今日はその垂水の魅力のひとつ、特に農業と水の関わりを肌で感じていただきます。これまで垂水の人々が水とどう関わって、自然と農業とどう関わってきたのかを一緒に探っていきましょう。



まずは水が乏しいシラス台地、通称上野台地での農業、水との関わりを感じに台地に登ります。そこで垂水の特産品のあれを皆さんにも収穫していただきます。ではこちらです。

←「あれ」とは何か分かりますか？そうです。キヌサヤです！ここで、農作物の収穫量のデータを話し、収穫量が多いことを認識させる。

②上野台地で景観を堪能・クイズ

行程	上野台地で景観をたんのう 10:20~10:30
場所	上野台地 給水塔の場所
案内内容	①上野台地からの桜島、開聞岳、高隅山が見える景色をたんのう ②シラス台地の成り立ちの説明。なぜこんな台地ができたかクイズ (←クイズはパネルがあっても良い。) a.サンゴが堆積してできた b.火山が隆起して c.火山噴出物が積もって →3万年前の始良カルデラの堆積物で構成される。数十m~100mほどの台地を形成した。高隅から流れてくる川がこの台地の外輪を形成したと考えられる。 ③上野台地がどのようにして畑作地帯となったのか歴史背景 →大昔より徐々に開墾されていたそう。面積は440haほど、東京ドーム100個分空港の候補地にもなったほど広い。台地の上はまっ平ら。 ④このシラス台地で栽培するのに適している作物を探る →さつまいもは琉球より1698年に伝来する。サトウキビは1781年に大島から。昭和初期までは製糖工場もあり牛を歩かせて搾っていた。(←当時の写真のパネルがあっても良い。) タバコは1744年国分から。キヌサヤは昭和の初めに広島から。みかんは明治26年静岡より。ポンカンは昭和10年には栽培面積25haまで広がる。 ⑤どんな作物が今育てられているでしょうか(キヌサヤ、インゲン、牧草) ⑥この台地での水の流れを考える
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・シラスが堆積する上野台地から、錦江湾を望む景観を見せる。 ・シラス台地の成り立ちを説明。退屈しないようにクイズを実施。
この上野台地はとっても眺めがいいですねー。自分もこの上野台地で畑を持っていますが、とても気持ちよく作業できて、なかなか贅沢な農業をやっていると自分でも思います。 さてここで皆さんにも考えてもらいます。クイズ、この上野台地はどのようにできた？ 3択です。 a.サンゴが隆起してできた b.火山が隆起してできた c.火山の噴出物が積もってできた	

そう、火山の噴出物が堆積してできたのが正解です。

この上野台地は鹿児島県に広がっているシラス台地のひとつなんです。

約 3 万年前の始良カルデラが噴火した際の堆積物できていて、数 10m～100m ほどの台地を形成しています。そのシラスを高隅山から流れてくる水が浸食して今の形になったと考えられます。

ここも大昔は木がたくさん生えていて、森を形成していたと思われます。そこを徐々に開墾し、面積にしたい東京ドーム 100 個分の広大な地を、農業ができるほどの土地に変えていった先人たちの力はすごいなと感心します。

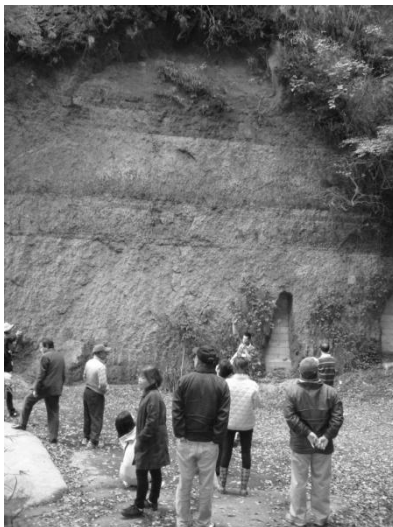
さあ、それではこの上野台地で現在作業が行われているキヌサヤを収穫に行きましょう！



③シラスの露頭の見学、シラスの解説

行程	シラスの露頭
場所	シラスの露頭
案内内容	シラスの露頭を見せながら、10m 以上の高さが一晩で積もったことを解説。
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・解説したシラス台地の露頭の現物を見ながら解説。現物を見ることで理解が深まる。火山灰が水をためないことも説明。

(原稿なし)



④キヌサヤの収穫体験、垂水の農業の解説・クイズ

行程	キヌサヤ収穫体験 10：30～11：00 牧へ下りる
場所	上野台地
案内内容	①この時期に多く作られているキヌサヤ。なぜキヌサヤを作る！？クイズ a.狭い面積で高収入 b.好きだから c.温泉水でよく育つ 垂水特産のキヌサヤ収穫体験 ②お土産用と食べるようにたくさん収穫してもらう ③水が豊富な場所での農業とはどんなものがあるのでしょうか？

テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・足元には先ほど見たシラス台地があることを説明し、水の得られづらいシラス台地だからこそ、キヌサヤ農業が行われていることをクイズで伝えた上で、収穫体験をする。
なぜキヌサヤなんだろうクイズ a.狭い面積で高収入だから b.垂水の人が好きだから c.温泉水でよく育つから ひととおり収穫したら それでは水が乏しいこのシラス台地での農業ってこんな感じなんだーというのが分かったと思います。今度は水が豊富な平野ではどのような農業が行われているのでしょうか？	
	

⑤水之上地区の農業と水の関係・クイズ

行程	本城川と田んぼの関係 11:15～11:30
場所	本城川沿い 牧から少し上流の橋の上財宝の自販機 ↓ よめじょ川の入り口 写真準備
案内内容	①水之上という地名の由来。自然と農業との関係。川の地形が湿地を生みだし、田んぼというものをやりやすくした。後背湿地の話。 ②上野台地との作物の違い ③この豊富な水をどのように利用したのか、よめじょ川掘削の歴史触り程度 ④本城川の特徴を説明 →高隅山系大野柄岳西方山中に源があり、延長8キロで最後は鹿児島湾にそそぐ川。垂水市では一番長くて大きな川である。 ⑤垂水の地で育つ米が美味しいのはなぜか？クイズ a.愛情がたっぷり b.水が美味しいから c.かけ干し乾燥 →ではなぜ水が美味しいのか！？はこの後で感じてみましょう
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・シラス台地である上野台地と比較しながら、水之上地域の特徴的景観である水田風景を見せている。 ・よめじょ川にかかる橋上から、水利を得るのに苦労をして今の農業があることを説明している。

本城川下流（橋）

水が乏しかった上野台地とはうって変わって水が豊富な平野にはこのように田んぼ、水田が広がっていますねー。ここ水之上地区では稲作が盛んに行われています。夏、田んぼに水を張った時はまさに水之上にちよこんちょこんと家が立ち並んでいるように見えるために水之上という地名が付いたそうです。

また、この本城川は昔から氾濫を繰り返してきた川だそうです。この川の地形が湿地を生みだして田んぼができるようになったんですね。

現在この水之上には田んぼが400haほどあります。それは昔の人がよめじょ川という疏水を工事して作ってくれたおかげで、あの1段高くなっている場所にも水が行くようになり、その時田んぼが200haも開拓されたからなんですね。やはり昔の人はすごい！



本城川中流（よめじょ川取水口）

この川には天然のアユも多く登ってきてとても自然豊かな川です。岩がぼつぼつと見られますが、流れがある時には結構ダイナミックな眺めとなるところです。ヤマセミという清流に住む鳥も見られます。

さて、ここはさきほど少し話をしたよめじょ川の取水口になります。200 年以上前に造られたこのよめじょ川が現在も使われているのですねー。このお陰で自分のところの田んぼも稲作ができていると思うとありがたいです。

お国自慢みたいになってしまいますが、実はこの垂水の水之上で作られるお米は結構美味しいということが言われています。

ここでクイズです、なぜ水之上で作られるお米は美味しいのでしょうか？

- a.愛情がたっぷりだから
- b.水が美味しいから
- c.掛け干しをして乾燥させるから

正解は全部正解です。

この中でも特に水が美味しいからというのが、この水之上ならではのお米が美味しい理由と考えます。ではなぜ水が美味しいのか？という疑問にはこれからお昼ご飯を食べた後に水之上の“上”を見て探ってみたいと思います。

⑥郷土料理体験、昼食

行程	料理体験 11:40～13:00
場所	猿ヶ城溪谷森の駅たるみず
案内内容	①猿ヶ城溪谷・森の駅たるみずのスタッフに料理依頼 ②キヌサヤ卵とじ、キヌサヤ入りガネ、ご飯、インゲンスープ等垂水の地のもの ③地元のお茶
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・収穫したキヌサヤ、地元で採れた米等を使った料理を出している。 ・ここで水も味わっている。

料理のガイドさん〇〇さんです。

今日の料理体験はガネとご飯とインゲンスープです。

では〇〇さんよろしくをお願いします。

（料理や食材の解説を依頼）



⑦猿ヶ城をトレッキング、水の源流を求めて

行程	水の上の上を探検 13:00～14:30
場所	猿ヶ城溪谷
案内内容	①お昼の食材を育んだ水の上流へ、この水がお米を旨くする ②水が美味しい理由 クイズ a.雨がきれい b.花崗岩があるから c.猿がいるから →地質マップを使って説明。 ③本日のまとめをある程度行っておく
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・「水」の源流を求める、という目的でトレッキングを実施している。 ・源流に辿りついてから、水が美味しい理由をクイズを通じて説明。これも火山の力であることを伝える。

この猿ヶ城溪谷には猿がたくさんいるので猿ヶ城溪谷という名前になったのでしょうか？でも今まで一度もこの溪谷で猿を見たことがありません。山田さんどうなのでしょう？

お腹もいっぱいになったということで、少しは体を動かしてちょっと疲れた感じでこの後の温泉に行きたいと思います。さて、そのお昼のご飯でしたが、何を食べたかももう一度振り返ります。

この中のご飯が美味しい理由はさきほどのクイズで水が美味しいからということが分かりました。では、なぜその水が美味しいのか！？これはクイズではないので安心して下さい。

それを実際に歩いて探っていきたいと思います。これから、往復だいたい1時間ほど溪谷沿いを歩きますので、まず靴ひもをしっかりと結んで下さい。それから簡単な準備体操を行います。

歩いていて何か植物でもなんでも気になったものがあったら教えて下さい。みんなで見てみましょう。それでは出発！

←あと、2点注意点があります。

①自生している植物の中には、触るとかぶれてしまう植物もあります。知らない植物には触れないようにして下さい。

②途中、手すりの無いところもあります。その場合は、山側をゆっくり歩きましょう。不安な方は、私どもに声をかけて下さい。

皆さん、垂水のお米が美味しい理由が分かったでしょうか？このお水が美味しい理由というのは実は地質学の面からも分かるのですが…。

そこでクイズです。垂水の水が美味しい理由は次の3つのうちのどの理由からでしょうか？

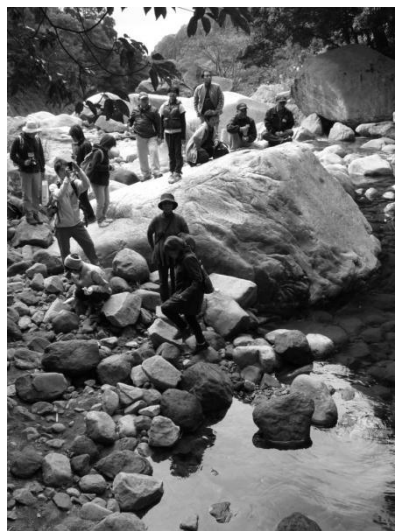
- a.雨がきれいだから
- b.花崗岩があるから
- c.猿がいるから

正解はbです！この地質マップを御覧ください。

この猿ヶ城溪谷がこのあたりで、高隅山から刀剣山までここら一帯は花崗岩でできているんですね。この花崗岩から流れる水がミネラルを豊富に含んでいて、それが美味しい理由なんだと鹿児島大学の大木先生もおっしゃっていました。

まあ、そんな難しい話ではなくこれだけ澄んだ水がこの垂水には溢れている、そりゃ美味しいお米ができる訳だ！と目で見て肌で感じていただけたと思います。

それではバスに戻しましょう！



⑧温泉入浴、利き水

行程	温泉 14:40～15:40 利き水 15:40～16:00
場所	ホテルアザレア
案内内容	①温泉の特性、なぜ温泉があるのか、なぜ体にいいのか等 ②疲れを癒す水をいただきに ③お風呂上がりに飲む温泉水の10種類を利き水 ④垂水の宿泊施設、お土産の販売店、お食事処、温泉水販売所、垂水おススメ情報等のアナウンス。
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	・地元の温泉に入り、これも火山の力であることを伝える。 ・風呂上がりに、垂水にある豊富な「温泉水」10種類を並べて利き水をし、垂水の水が非常に豊富で美味しいことを改めて印象付ける。

(原稿なし)



⑨まとめ、エンディング

行程	垂水新港解散 16:10
場所	垂水新港
案内内容	①駐車場で締めのあいさつ。
テーマ性、ストーリー性を高める工夫点	今日は垂水の水と農業ってどう関わっているの？というテーマで進めてきましたが、シラス台地って？というところから始まり、その上野台地では余り水が豊富でないことからそこに合った作物、キヌサヤやインゲン、等水が乏しい場所に合った作物が栽培されていました。 次に見たのは、水之上の田園風景を橋の上から眺めました。そこには上野台地とは違って水が豊富な平野が広がっていました。水が豊富な場所にはやはり田んぼということで、川のおかげでじめじめした田んぼに適した土地になったということを見ていただいて、その水が豊富な場所でも水を引っ張ってくるための努力をしたんだな—というのを見ました。 それからよめじょ川の入り口にはすばらしい清流の始まりがありました。 お昼御飯も垂水の美味しい食材が並びました。自分で収穫した野菜はやはり何に変えても美味しいものです。 その後の猿ヶ城溪谷の散策はいかがだったでしょうか？水が美味しい理由はなんでしたかね？ 温泉はいかがでしたか？温泉水は飲んでみて違いがありましたか？ 垂水にはこのように水を巡る様々な物語がたくさんあります。まだまだ、自分も垂水2年目。他にも自分が知らない水を巡る物語があるかもしれません。また、垂水に来る際はぜひまた一緒に垂水の魅力を見て、感じて、味わっていただければと思います。今日は本当にどうもありがとうございました。

◎以下、NPO 法人桜島ミュージアムから助言

基本的な流れは OK だと思います。

私どもがツアーやガイドをする際に注意することは、とにかく安全面の管理です。

山田さんと一生さんがどこでどういうふうに安全管理をするのか、確認しておいて下さい。

また、その安全面で注意することを事前に告知しているか、していないかで、万が一事故が起こった時の責任の所在が大きく変わってきます。事前告知は重要です。

あと、上記内容にプラスして、トイレの案内をいつするかも記載しておいた方が良いかと思います。最大限行けるトイレがある場合は記載して下さい。子どもの参加者がいる場合や、年配の方は突然「トイレ…」と言い出すことも多々あります。どんな場合でも対応できるようにしておいて下さい。

特に、注意しないといけないのは、いつどこで事故が起こる可能性があるかということを事前確認した上で、その場合はどう対処するか等の対処法を考えておくことが一番重要です。そして、それを回避するためにどのような話や案内をすべきなのかを考えておいて下さい。

また、ストーリーは狙っているターゲットやマーケットに合わせて工夫する必要がある。子供向けのプログラムであれば、伝えるテーマ内容を分かりやすくしたり、プログラムもゲーム要素等を含めて楽しみながら実施できるものにする等の工夫が必要である。

【モデル事業での取組】地元の子どもをターゲットにプログラムづくり（兵庫県養父市）

奥米地地区の魅力を地元の子ども達に伝えたい、という思いから、親子向けのプログラムとして「奥米地エコキッズプロジェクト～奥米地ミステリーツアー」を開催した。オリエンテーリング形式で 5 つのチェックポイントを辿りながら、子どもが楽しみながら、地域の魅力を学べるように工夫した。



【モデル事業での取組】地元の料理好きが集めたプログラムづくり（兵庫県養父市）

宿泊施設「ほたるの館」で長年食事を提供してきた NPO ほたるの里奥米地のお母さんたちが、一番伝えたいことは、地元の昔ながらの手作り味。そこで、市内の氷ノ山・ハチ高原で民宿を営む女将さんのグループ「Team りんどう」の協力を得て、郷土料理をお互いに作って台所裏を見せ合う「奥米地ヨメ修行プロジェクト～お料理女子会」を開催。試食会では“地域の食”に関心の高い地元の主婦たちから高い関心を集めた。



第3節 体験プログラムの試行

(1) 体験プログラムの試行方法

体験プログラムの試行にあたっては、プログラムの完成度や地域の状況等に応じて、担い手同士による試行、モニターを招聘した無料での試行、有料での試行等の方法がある。

①担い手同士による試行

通常、初めて体験プログラムを作った場合、ガイドが不慣れである場合、過去に実施した経験の無い新しい種類のプログラムを実施する場合等では、まずは担い手同士による試行を行い、課題点を詳らかにするべきである。

【参考】担い手同士による試行の際の役割分担

ガイド役	・実際に本番でガイドを行う予定の者（メインガイド） ・この他、農作業体験や食体験等でサブガイドやフォロー役も含む。
参加者役	・参加者役として、企画づくりに関わったメンバー等が参加する。 ・子ども等をターゲットにした場合は、参加者の家族・親戚・知人等を含めても良い（※子どもが参加する場合、安全管理に特に留意する）。
アドバイザー	・体験プログラムづくりの専門家、特に地域内や近隣のエコツーリズム実践者等に同行していただき、適時または後日助言を受けると良い。

【モデル事業での取組】新城地区におけるプログラム試行（鹿児島県垂水市）

新城地区で新たに体験プログラムを作成し、担い手同士による試行を行った。

アドバイザーとして、体験プログラムの実践経験豊富な NPO 法人桜島ミュージアムに同行していただき、解説の内容、解説を行う場所、安全管理上の必要な配慮等について OJT 形式で指導を受けた。ガイド役のみならず参加者にとっても学ぶことが多かった。



②モニターツアーによる試行

外部者に提供する場合、無料モニターを集めて行う場合と、実際に商品提供する場合と同様に料金を徴収して実施する場合がある。初めから有料で試行した場合は集客ができないこともあるし、料金と内容が見合わない等の苦情が発生することを避けるため、まずは無料モニター等を集めた試行を行い、外部者の評価を受けた方がよいだろう（その際の自己負担を軽減する方策も別途検討する必要がある）。その評価を踏まえて改善したり、自信を深めた上で、有料での提供を行うと良い。

●試行までの手順

体験プログラムを試行する場合には下記のようなことを確認する必要がある。

1) 体制・役割分担の確認

◇事務局や申込窓口

実際にモニターツアーを実施する場合には、事務局や申込窓口の設定が必要となる。参加依頼を行う場合は連絡調整や保険等の窓口担当、募集を行う場合は申込電話や FAX 等を受け、応募者と確認を取りあう担当が必要である。

◇プログラム責任者

プログラムを実施する際の責任者を決める。事務局はプログラム責任者に連絡し、プログラム責任者は、ガイド、サブガイド、フォロー等々に連絡する。雨天等による催行中止、催行中のトラブル等によるスケジュール変更等に対応できるようにしておく。

◇緊急体制

万一事故やけが等が起こった場合の対応を決めておく。関係者間の緊急連絡網の整備、周辺の病院（休日の場合は休日診療所）、警察等の電話番号等をまとめて、関係者全員で共有する。

◇旅行会社への協力依頼（※交通・宿泊手配が発生する場合）

交通手配、宿泊手配が発生する場合には、旅行業法上の旅行業に該当するため、旅行業免許を有する旅行会社の協力が必要となる。

2) 周辺状況の確認、関係各所への協力依頼

◇フィールドの確認

企画案を実際に実施可能かどうか、安全上の懸念事項等が無いかな等の確認。自然地域（登山道等）に入る場合には常に状況が変化することを意識して念入りに下見をする。できれば催行前日等に現場を確認しておくことが望ましい。

◇利用する施設や交通機関等の確認

（企画段階から確認しておく必要があるが）使用予定の施設が、想定どおりに利用可能かどうか、交通機関を利用する場合は、車両の混雑時間帯、渋滞時間帯、乗降場所の目印や分かりやすさ等を確認する。

◇関連法規の確認

（企画段階から確認しておく必要があるが）実施内容が法規に抵触しないか（自然公園法、鳥獣保護法、食品衛生法、消防法、旅行業法、道路交通法、その他地域の条例他）、改めて確認しておく必要がある。不明な場合には、自治体の行政機関等の担当部署に相談をする。

◇関係各所への協力依頼

体験プログラムの実施にあたっては、地域の様々な方から協力をいただくことが必要となる。今後の持続性も考えて、微細な内容であっても必ず協力依頼を行い、利用上の注意等があれば順守する。

【参考】協力依頼が必要な対象の一例

関係者	農林漁業等に関わる体験の担い手・生産者、料理の提供者、ガイドやインタープリター役を担っていただく方、他
施設管理者	公園管理者、体験交流施設等管理者、他
その他	貸切バス事業者、町内会等の会長、商店会、個別の商店、他

3) モニターの募集（依頼）

◇モニターを一般から募集する場合

プログラムのターゲットとする対象者へ届きやすい方法で募集をかける。（なお、プログラムのターゲットは、必ずしも本来狙っている対象とする必要は無く、都市圏住民を対象にしたプログラムであってもまずは地域住民の感想を聞いてみる方法もある。）

募集方法は、例えば、ターゲットが親子であれば学校や児童館、博物館施設（水族館、動物園他）等で告知したり、中高年であれば商店街や公民館等で告知する等が考えられる。最初は市民を対象にして、広報で募集をかける方法もある。新聞やラジオ等の媒体が使用可能であれば、幅広い対象に告知をかけることもできる。インターネットが使える世代を対象としたプログラムであれば、ウェブサイトを活用した告知も効果的である。現実的には、上記の複数の方法を併用して募集をかける。

◇旅行会社等にモニターを依頼する場合

ある程度体験プログラムの完成度が高く、商品を恒常的に提供できる体制が整えられる状況であれば、旅行会社の企画担当者等へモニター参加を依頼する方法がある。市場性を踏まえて、具体的な商品化に向けた実践的な助言が期待できる。

【モデル地域での取組】モニターツアーチラシ（兵庫県養父市）

〒665-0072 養父市奥米地773 奥米地ミステリーツアー事務局

奥米地のヨメ修行プログラム お料理女子会

参加者募集
申込締切 11月17日



奥米地のお母さん達と水ノ山・ハチ高原の女将達が「忘年会レシピ」で夢の料理コラボ！

養父市奥米地にある宿泊施設「ほたるの館」では、季節感を大切にしたお食事を提供しています。旬のもの、地元産のものが一番のおもてなしであるという考えでお客様をお迎えします。このたび、奥米地で長年にわたり調理を担当してきたお母さんたちと水ノ山・ハチ高原の民謡の女将さんが史上初の協演をします。調理場という豪華裏を覗きこし、新たな一品につなげればお互いにお得、と企画した「お料理女子会」（女子＝好きという字に似ていませんか）です。

当日は、奥米地と水ノ山・ハチ高原から、3品ずつ持ち寄り「忘年会レシピ」として試食会を開催します。なにより地域の味を知っていただき、将来に語り継いでいくことを目指しています。地産地消をさらに発展させた地産地消（自分たちも食べていますので自信をもってお褒めいただきます）にしたいと願っています。

開催日 2011年11月24日（木）12:00～14:00
場所 奥米地農林漁業高齢者センター研修室（住所：養父市奥米地773）※ほたるの館の隣
対象 地元「おもてなし料理」に興味のある方ならどなたでも（男性も歓迎！）※先着
参加費 無料（試食後、感想やご意見をうかがいます。）
主催 NPO法人ほたるの里奥米地
協力 養父市産業経済部商工観光課、やぶ市観光協会、teamりんどう
申込み 下記の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
問合せ先 NPO法人ほたるの里奥米地（TEL 079-665-0588/FAX 079-665-0072）

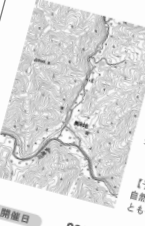
FAX 079-665-0072 （申込先：NPO法人ほたるの里奥米地）

名前：（生年月日： 年 月 日）
住所：（生年月日： 年 月 日）
電話：（生年月日： 年 月 日）
FAX:

〒665-0072 養父市奥米地773 奥米地ミステリーツアー事務局

エコキッズ探検隊～ホテルへの道～ 奥米地ミステリーツアー

参加者募集
申込締切 11月17日



親子で謎解きをしながら、奥米地を巡るオリエンテーリング

「ほたるの里」には、まだまだたくさんの魅力が眠っています。地元の人たちしか知らないこと、反対にその人が気づいていて村の人たちに教えてあげたこと、今回の親子オリエンテーリングでは「へええ」「ふーん」と思える発見や感動があるはず。すべてのチェックポイントの謎を解き終えたら……（詳しくは当日のお楽しみ！）驚く必要がありますので暖かくしてご参加ください。

【予定コース】
自然体験学習館めいじ（住所：養父市奥米地773）→水谷神社（石打川に灯をともそう）→一歩（なんのためだろう）→定例年一ほたるの水辺公園→くらら（ゴール）

開催日 2011年11月23日（水・祝）10:30～14:00
集合 自然体験学習館めいじ（住所：養父市奥米地773）※ほたるの館の隣
対象 養父市在住の小学生とその親（保護者）※先着20組
参加費 無料（ゴールした親子には「ほたる米お弁当」を贈呈！）
協力 NPO法人ほたるの里奥米地
申込み 養父市産業経済部商工観光課、やぶ市観光協会、M8*
下記の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
問合せ先 NPO法人ほたるの里奥米地（TEL 079-665-0588/FAX 079-665-0072）

FAX 079-665-0072 （申込先：NPO法人ほたるの里奥米地）

名前（親）：（生年月日： 年 月 日）
名前（子）：（生年月日： 年 月 日）
住所：（生年月日： 年 月 日）
電話：（生年月日： 年 月 日）
E-mail:

【モデル地域での取組】実施者マニュアルの作成（鹿児島県垂水市）

垂水では、体験プログラムの試行に向けて実施者マニュアルを作成し、全員に共有した。マニュアルの内容は、①実施体制、②緊急連絡網、③プログラムごとの体制、④実施の流れ、⑤スタッフ虎の巻（プログラム担当者内での共有用資料）、⑥事前チェックリスト、⑦実施結果レポート、⑧事故等が生じた場合の報告書様式、とした。

（参考）たるみず体験フェアの実施の流れ

（1）参加受付の対応（主として本部対応）

○申込対応

- ・ 本部で一括して参加申込を受ける。
 - 申込は、催行日の「3 日前の 17 時」迄とする。ただし、定員に満たない場合は延長も可。
 - 本部は、「参加者名簿」を作成する。
 - 申込締切後、参加者名簿のコピーを担当者に渡す。
 - 人数確定後、旅行保険に加入する
- ・ 申込者が規定人数を上回った場合は、そのプログラムの募集を終了する。ただし必要に応じて「キャンセル待ち」も可とする。
- ・ 申込が規定人数（最少催行人数）に満たないと見込まれる場合は、その旨を早目にプログラム責任者に伝え、対策を検討する。（プログラム責任者はプログラムの担当者に連絡する。）

（2）キャンセル、催行中止の対応（主として本部対応）

○キャンセル対応

- ・ キャンセルは「1 日前の 17 時」まで受け付ける。
- ・ キャンセルを受けた後、本部はプログラム責任者へ連絡をする。

○催行可否の判断と催行中止連絡

- ・ 催行の可否についてはまずは現場のプログラム責任者が行う。
- ・ 本部はプログラムの実施を総合的に催行または中止を決定する。
- ・ 催行中止の際は、「1 日前の 17 時」までに判断し、「1 日前の 20 時」までに、申込者に対して本部とプログラム実施者が手分けをして連絡する。

（3）催行当日の対応（本部、プログラム責任者）

○全員集合時

- ・ プログラム責任者は集合時に料金を徴収する。
 - 釣銭を用意しておく。
 - 領収書を用意しておく。（観光協会が押印したものを各自が必要枚数持つておく。）
 - 集金は手間がかかるので、できればプログラム責任者の他にもう 1 名程度補助を

付ける。

- ・ プログラム責任者は全員集合時に本部に連絡
- ・ 集合に遅れた人への対応
 - プログラム責任者から電話を入れ、「10 分」未満の遅刻の場合は現地で集合待ち。
 - 「10 分」以上の遅刻の場合は本部対応とし、プログラムは開始する。

○プログラム完了時

- ・ 参加者アンケートにご協力をいただく。(参加者アンケートは事前に観光協会に受け取りに行く。)
- ・ プログラム責任者は、プログラム完了時に本部に完了報告（電話）をする。

○その他トラブル時

- ・ 一次対応（応急処置、緊急避難、救急手配等）は現場で対応を行う。必要に応じて救急の手配を行う。
- ・ 現場で対応・判断しかねる場合、及び一次対応を済ませた後、本部に必ず相談・報告を行う。
- ・ 本部は、現場と連携して、必要な救急手配等を行う。

(4) 催行終了後の対応

- ・ 体験プログラム責任者は「実施結果レポート」を作成し、本部に提出する。

(参考)「たるみず体験フェア」での事前チェックリスト(プログラム責任者用)

1. 企画

	体験プログラムのテーマ、セールスポイントが明確ですか？
	体験プログラムの主な対象者が想定できていますか？
	メッセージが伝わりやすいストーリー、組み立て方になっていますか？
	集合時のためのプログラム紹介、ワクワクするようなメッセージを準備しましたか？
	魅力を参加者に分かりやすく伝える工夫は用意をしましたか？(写真や昔の資料等)
	時にはクイズを出す等、参加者の興味を引きつける工夫はありますか？
	途中で気持ちのいい(眺めのいい場所等)休憩タイムはありますか？
	意外性の演出(参加者があっと驚く仕掛け等)はありますか？
	参加者にまた来てもらうための一工夫はありますか？
	解散時にプログラムを通して伝えたいことを伝える準備をしましたか？

2. 行程管理、安全管理、協力体制

	「スタッフ虎の巻」を作り、スタッフ間で役割分担をしっかりと共有しましたか？
	移動や行程に無理がありませんか？(集合やバスの乗降には時間がかかります。)
	適切に休憩時間を入れていますか？
	トイレの場所や状況を確認しましたか？
	危険箇所や危険を伴う作業等について、誘導方法や注意の仕方を決めましたか？
	雨天時の対応を決めましたか？(雨天時の行程変更、中止の基準等)
	緊急事態の対応方法は決まっていますか？「緊急連絡網」を共有しましたか？
	協力を依頼している方と事前に趣旨や内容を相談し、共有しましたか？

3. 広報、情報発信

	分かりやすく関心をひく案内パンフレットを作りましたか？
	事業を支えてくれる後援者や協力者に案内を届けましたか？

4. 受付

	本部と申込状況を共有しましたか？申込状況が思わしくない場合、集客状況に応じて対応をしましたか？
--	---

5. 直前準備

	スタッフ間で、当日をイメージしながら行程やプログラムの進め方を再確認しましたか？
	直前に現地の下見をしましたか？(野外では状況は刻々と変化します。)
	緊急事態の対応方法をスタッフ間で再確認しましたか？
	天気予報を確認しましたか？行程変更・中止等の場合、本部に相談しましたか？

6. 当日

	安全管理は十分でしたか。けが人や疲れている人等をスタッフで共有しましたか？
	天候の変化、不測の事態に対して適切に対応しましたか？
	本部に、集合報告、完了報告をしましたか？

7. 終了後

	実施して気付いたこと、得たこと、課題が残ったこと等をスタッフ間で共有しましたか？
	本部に「実施結果レポート」を提出しましたか？

【モデル地域での取組】垂水での実施報告レポート

垂水では、実施者から、下記の様式で実施報告レポートの提出を受けた。この報告に基づいて自主的な反省会を開催し、今後の改善方法を話し合った。

実施結果レポート

- ・プログラム終了後に**本部まで提出**して下さい（終了後**1週間以内**）。
- ・実施結果レポートは**プログラム責任者**が、スタッフの意見等を集約して記載して下さい。
- ・書いていただいた内容は、今回の実施に関わった全員で共有します。

1. プログラム

プログラム名	
日時	
プログラム責任者	
プログラム実施者	

2. 決算報告

- ・今後のプログラム運営に活用するため、プログラムの実施にかかった収支を報告して下さい（人件費は含みません）。

収入決算（円）		支出決算（円）	
項目	金額	項目	金額
合計		合計	
収支差額			

3・実施報告

(1) 実施内容の報告

(2) 成果

(3) 反省点

(4) その他気付いたこと、提案など

(5) -①自己評価シート（プログラム責任者用）

下の表に○を記入して下さい。

1：不満が残った 2：期待どおり 3：予想以上 A：わからない B：該当しない

1. 企画

	1	2	3	A	B
体験プログラムのテーマ、セールスポイントが明確でしたか？					
体験プログラムの主な対象者を想定しましたか？					
メッセージが伝わりやすいストーリー、組み立て方になっていましたか？					
集合時のためのプログラム紹介、ワクワクするようなメッセージを準備しましたか？					
魅力を参加者にわかりやすく伝える工夫は用意をしましたか？（写真や昔の資料など）					
時にはクイズを出すなど、参加者の興味を引きつける工夫はありましたか？					
途中で気持ちのいい（眺めのいい場所など）休憩タイムはありましたか？					
意外性の演出（参加者があっと驚く仕掛けなど）はありましたか？					
参加者にまた来てもらうための工夫はありましたか？					
解散時にプログラムを通して伝えたいことを伝える準備をしましたか？					

2. 行程管理、安全管理、協力体制

	1	2	3	A	B
「 <u>スタッフ虎の巻</u> 」を作り、スタッフ間で役割分担をしっかりと共有しましたか？					
移動や行程に無理がありませんでしたか？（集合やバスの乗降には時間がかかります。）					
適切に休憩時間を入れていましたか？					
トイレの場所や状況を確認しましたか？					
危険箇所や危険を伴う作業等について、誘導方法や注意の仕方を決めましたか？					
雨天時の対応を決めましたか？（雨天時の行程変更、中止の基準など）					
緊急事態の対応方法は決まっていたか？「 <u>緊急連絡網</u> 」を共有しましたか？					
協力を依頼している方と事前に趣旨や内容を相談し、共有しましたか？					

3. 広報、情報発信

	1	2	3	A	B
わかりやすく関心をひく案内パンフレットをつくりましたか？					
事業を支えてくれる後援者や協力者に案内を届けましたか？					

4. 受付

	1	2	3	A	B
本部と申込状況を共有しましたか？申込状況が思わしくない場合、集客状況に応じて対応をしましたか？					

5. 直前準備

	1	2	3	A	B
スタッフ間で、当日をイメージしながら行程やプログラムの進め方を再確認しましたか？					
直前に現地の下見をしましたか？（野外では状況は刻々と変化します。）					
緊急事態の対応方法をスタッフ間で再確認しましたか？					
天気予報を確認しましたか？行程変更・中止等の場合、本部に相談しましたか？					

6. 当日

	1	2	3	A	B
安全管理は十分でしたか。けが人や疲れている人などをスタッフで共有しましたか？					
天候の変化、不測の事態に対して適切に対応しましたか？					
本部に、集合報告、完了報告をしましたか？					

7. 終了後

	1	2	3	A	B
実施して気付いたこと、得たこと、課題が残ったことなどをスタッフ間で共有しましたか？					
本部に「 <u>実施結果レポート</u> 」を提出しましたか？					

【モデル地域での取組】垂水のモニターアンケート

垂水では、下記のようなアンケートに回答をいただいた（①参加のきっかけとなった情報媒体、②プログラムへの評価、③滞在時間、④消費額、⑤感想、⑥属性）。

たるみず体験まつりアンケート

※お一人様 1 枚でお願いします

プログラム
番号

1. 「たるみず体験まつり」を知ったきっかけはなんですか？該当する番号に○印をつけてください。

①新聞 ②テレビ・ラジオ ③情報紙など ④パンフレット ⑤インターネット、ホームページ
⑥ご家族やお友達などの誘い ⑦その他（ ）

2. 参加された体験プログラムについて、あてはまる番号に○印をつけてください。良かった点、悪かった点もご記入下さい。

	とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い
プログラムの内容	5	4	3	2	1
案内人の対応	5	4	3	2	1
参加料	5	4	3	2	1
良かった点					
悪かった点					

3. 垂水市内での滞在はどのくらいでしょうか。あてはまる番号に○印をつけてください。

①垂水市内在住 ②日帰り ③宿泊： _____ 泊 （どちらに？ _____ 市・町・村）

4. 参加費も含めて、垂水市内でのお買い物やご宿泊、お食事、観光施設の立ち寄り、フェリーやバスなど、総額でどのくらい消費されましたか。

総額	おおよそ 約 _____ 円くらい
----	-------------------

5. その他、ご感想やスタッフへのメッセージがあればお書きください。

6. 最後に、あなたご自身について、該当する番号に○印をつけてください。

性別	①男性 ②女性	年代	①10代未満 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上
ご住所	①垂水市内 ②鹿児島市 ③鹿児島県内（市町村名 _____） ④九州（鹿児島県以外 県名 _____） ⑤国内（都道府県名 _____） ⑥海外（国名 _____）		
ご職業	①会社員 ②自営業 ③主婦 ④学生 ⑤その他（ _____）		
どなたと？	①夫婦・カップル ②家族（お子様づれ） ③家族（大人のみ） ④友人・知人 ⑤町内会・青年会・婦人会など ⑥お一人 ⑦その他（ _____）		

ご協力ありがとうございました。

第3章 情報発信力をつける

第1節 情報発信の方法

体験プログラムづくりにあたっては、関係者や地域住民に対して、取組目的や意義、活動経緯等を周知して、仲間を増やしたり地域住民の理解や協力を得ることにつながることが重要である。また、体験プログラムの中身がある程度完成し、モニターツアー等を実施する段階では、お客様となる人達に体験プログラムの魅力を伝えて集客をしなければならない。つまり、情報発信は「地域住民向け（内向け）」と「市場向け（外向け）」の両方が必要である。

(1) 地域住民への情報発信

地域住民への情報発信には、次の2つの段階がある。

①関係者、地域住民への情報発信

取組を進める関係者（体験プログラムづくりを行う個人や団体、観光協会、農協・漁協、市役所等）に対して、ニュースレターやホームページ等を使って、取組目的や意義、これまでの活動の経緯等を周知し、メンバー内での情報共有を図る。

また、取組を進める関係者の周囲で「そんなこと、うまくいく訳ないよ」「面倒くさそう」と遠巻きに見ている人たちへも、活動の経緯等の情報発信を行うことは有効である。理解者や協力者を得られるだけでなく、新たなメンバーの巻き込みにつながる可能性がある。「なんか、楽しいそうなことやっているなあ」と思ってもらえれば及第点で、「ぜひ、一緒にやってみたい」と言わせられれば大成功である。

※利用する媒体： ニュースレターやホームページ等

②直接取組に関わりの無い人たちへの情報発信

取組がある程度進んだ段階で、総括となるフォーラムやシンポジウムの開催することも重要である。記者発表や新聞記事に無料で取り上げてもらう等のパブリシティを活用することで、広く活動を紹介できるようになり、これまで関わりの無かった人たちとの思いがけない連携等につながる可能性がある。

※利用する媒体： 市町村の広報誌、新聞等

【モデル地域での取組】養父のニュースレターの発行

養父市奥米地地区では、これまで長年に渡って取り組んできた田舎体験等をベースに、エコツーリズムの手法を取り入れ、体験プログラムの更なるブラッシュアップを図る取組を進めた。初年度はエコツーリズムについての勉強会や研修会、意見交換会等を実施し、その都度、勉強会の要点や決まったこと等をニュースレターに整理して発行することを試みた。ニュースレターは、関係者に配布され、メンバー内での理解度の底上げや地域が目指すべき方向性について等の意識共有を図ることができた。

【養父市エコツーリズム】高野山・奥米地地区の自然と生活文化のつながりを考える。

本紙は、環境省「エコツーリズムとグリーンツーリズムの推進推進事業」の内容などをダイジェストでみなさまへお届けするニュースレターです。今号では、1月27日(木)～28日(金)に開催した第2回研修会も勉強会の内容を紹介します。一日目の研修会では、地元の人たちの知恵と技を継承した「プログラムづくり」についてお話をうかがいました。二日目の研修会では、「奥米地らしいエコツーリズムとはなにか?」という視点で、ワークショップ形式の意見交換をおこないました。雪の中での研修会も勉強会となりましたが、20名の皆さんにご参加いただき、これから奥米地の進むべき方向について、さまざまな意見が述べられました。

【第2回 研修会】高野山・奥米地地区の自然と生活文化のつながりを考える

■ 奥米地地区で始めたグリーンツーリズム

今日は養父市もあいにく雪ですが、私はさらに雪深い長野県奥米地地区から参りました。奥米地の人口は約2万5千人、日本一長い千曲川の中流地帯にあります。ハチ高野のよう、自然体験等で年間60校程度の子ども達を受け入れています。スキー発祥の地でもあり、最盛期は年間140万人のスキー客が訪れましたが、近年は半分くらいに減って70万人くらいでしょうか。このあたりは、養父市とも共通するかもしれませんが、グリーンシーズンのお客さんも受入れていくじゃないか」ということになり、奥米地のグリーンツーリズム事業のモデル地域の指定を受け、平成9年に「なぐさ高野森の家」が整備されました。私は、開設当初より支配人として施設運営に携わってきました。今でも、体験型観光という言葉も知られるようになりましたが、13年前は農業体験と言ったらイチザリやリンゴ狩りくらいでしたから、まずは、どういった体験メニューを作っていくかということから始まりました。お土産にお配りしたのは、「森の幸のイベントプログラム」のです。ほぼ毎日、何らかの体験プログラムができるようになっています。例えば、「スノーキャット作り」は、年に数回開催するイベントを春に開催するというものです。雪の下で越冬したニンジンが、数週間経てば、収穫が伸び、収穫量が伸びて、

【モデル地域での取組】「垂水エコツーリズム」ホームページの開設

垂水市では、モニターツアーの募集の際に、募集チラシだけでなく、ホームページ「垂水エコツーリズム」を開設し、最新情報を写真で伝えるとともに、フェイスブックやツイッターとも連動させ、口コミにつなげる等の工夫をした。

例えば、実施直前のモニターツアーのリハーサルの様子をアップし、実施者側の意気込みが伝わる内容になっている。体験プログラムの魅力を参加予定者(あるいは参加を検討中の人)に丁寧に伝えることで、参加当日までのワクワク感を醸成している。

垂水エコツーリズム

垂水市エコツーリズム推進委員会

ホーム | 体験プログラム | ニュースレター | ひとし | たまみずの恵み(工事) | 事務局 | アクセス | サイトマップ

たまみずの恵み(工事)の猿ヶ城溪谷

12/4 垂水の海の恵みと暮らしに出会う旅

桜島ミュージアムさんがエコツーリズム大賞特別賞を受賞!!

お問い合わせ

SNS

Facebook | Twitter | YouTube

(2) 市場への情報発信

体験プログラムを市場（マーケット）へ向けて情報発信するにあたっては、大きく 2 つのポイントがある。

①ターゲットを決める

闇雲に不特定多数の人に情報発信しても効果は低いため、ターゲットを定める必要がある。いきなり都市圏から人を呼んだり、海外から誘客したり、といったことなく、まずは“身の丈にあった”ターゲットに絞り込むことも必要である（※P70 も参照）。例えば、ターゲットははじめは地元住民から始めて、反応をみながら情報の出し方を改良し、対象を拡げていけば、より効果的な情報発信ができる。

②ターゲットに合わせて、情報発信ツールを使い分ける

地域住民向けであれば、市町村広報誌への掲載、ケーブルテレビ等での情報発信が効果的である。一般向けであれば、新聞やテレビ等のマスメディアを利用した情報発信、観光施設等でのチラシ、ポスター、看板等を用いた広報活動を行う等が効果的である。このように、ターゲットに合わせて情報発信ツールを使い分ける必要がある。また、情報発信の事前準備として、過去のモニターツアー申込者データ（顧客リスト）等を整理・分析しておくことも重要である。

【モデル地域での取組】「やぶ・まるごと体験フェア」公式ガイドブックの配布

「やぶ・まるごと体験フェア」では、主なターゲットを地元住民に定め、公式ガイドブックを道の駅や観光案内所等、市内の観光施設等に配布した。

また、周辺の市町村（但馬エリア）からの集客も考え、インターチェンジや但馬エリアで開催されるイベント（但馬まるごと感動市）等での配布も行った。公式ガイドブックの配布部数（2000 部）には限りがあるため、インターネット上から PDF 版をダウンロードできるよう準備するとともに、URL を載せた簡易チラシを 5000 部を追加配布した。



(3) 効果的な情報の発信

情報発信の効果を高めるためには、様々な情報発信ツールを組み合わせることで複層的に行うことが有効である。そのためには、プレスリリースや記者発表等のパブリシティ、問い合わせへの対応も含め、一元的に行う窓口があることが望ましい。

情報発信ツールの組み合わせについては、例えば、チラシやパンフットの情報では伝えきれない詳細でタイムリーな情報をブログやフェイスブックやツイッター等と組み合わせることで、相乗的に効果を高めることができる。特にフェイスブックのような SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）は、信頼のある人物（友人）の関心事項として伝わるため、強力な“ロコミ”ツールとなる。

【モデル地域での取組】「やぶ・まるごと体験フェア」の公式フェイスブックページ

「やぶ・まるごと体験フェア」では、公式フェイスブックページを立ち上げた。10日間のフェア開催の1ヶ月ほど前より、準備の様子等をアップできるようにし、各体験プログラム実施者が情報発信を担った。

副次的な効果として、体験プログラム実施者同士が準備プロセスを見ることができ、互いに良い刺激を受けることができた。また体験プログラム実施者同士のネットワーク強化にもなった。

<http://www.facebook.com/Yabumarugototaiken>



第2節 情報発信力の強化

(1) 人材不足に対応した持続的な情報発信

情報発信には、ある程度のマーケティングの知識と IT スキル、経験等が不可欠である。担い手の中にそれらを全て兼ね備えた人物を見つけ出すことは容易ではない。

そこで IT 等特定分野に強い企業や個人等、外部の協力者と連携できる体制を構築する必要がある。また、長期的には、情報発信を一元的に管理する組織の中に、情報発信スキルに長けた人物を育成する必要がある。

【モデル地域での取組】垂水市観光協会ホームページ

事業を通じて、ホームページの重要性は認識されるようになり、モデル事業のコーディネーターが「垂水エコツーリズム」ホームページを作成したり、twitter や facebook を勧めたり、地元で代わって情報発信をしたりと手を尽くしていたが、具体的な担い手が生まれず、中々定着しなかった。

そうした中、ホームページ作成を専門とする地元企業の方がメンバーに加わったことで、観光協会の公式ホームページが初めて立ち上がり、OJT 形式で更新方法を指導していただいたことで、ホームページで垂水の情報発信ができる体制が生まれた。



(2) 担い手からの積極的な情報発信への取組

ブログやフェイスブックのような SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の普及に伴い、近年は、体験プログラムの担い手自身が個別に情報発信を行うこともそれほど難しいことではなくなってきた。

オフィシャルな情報発信に加え、個別の情報発信を積極的に行うことで、ターゲットに多角的に情報を伝えることができる。

【モデル地域での取組】 facebook 垂水市観光協会ホームページ

養父市では、体験プログラムの試行に向けた情報発信の一環として、facebook を活用することとした。しかし、多くの担い手は facebook の使用経験が無かったことから、地元情報発信サイト運営会社である（株）ピーナッツの野崎氏を講師に招き、講習会を行った。

手探りで情報発信ではあったが、高齢者を含めて、多くの担い手が facebook を活用して情報を発信できるようになった。



第4章 体験プログラムを提供していくための人材の育成

第1節 取組に求められる人材と役割

体験プログラムづくりを行う目的は地域によって様々であるが、持続的な提供を行っていく上で必要な役割を果たす人材の発掘と育成が必要である。具体的には、ディレクター、コーディネーター、ガイド・インタープリター等を担う人材が挙げられる。

役割に人をあてがうのではなく、地域や取組全体として、これらの役割が果たされることが重要であり、一人が複数の役割を果たしたり、役割を複数の人が分担する等、地域の実情に応じて試行錯誤する必要がある。

(1) ディレクター（監督、演出家）

ディレクターは、地域全体として目指すべき方向や取組等を俯瞰的に捉え、**取組に意味付けを与える役割**である。

ディレクター役を担う人材像は、周囲の状況に流されず、思慮深い客観性を重視する人材であることが求められる。

(2) コーディネーター（つなぎ役、調整役）

コーディネーターは、ディレクターの意味付けを理解し、**地域内の人材や各所での取組をつなげたり、地域外の旅行会社や関係団体との窓口になる役割**であり、体験プログラムづくりや提供を行う上での要である。コーディネーター役を担う人材像は、コミュニケーション能力が高く機動力のある人材であることが求められる。地域によっては、ディレクター役やガイド役をコーディネーターが兼ねることもある。

地域内に対しては、新たな担い手となる人材等を仲間に入れたり、必要なタイミングで集会等（準備会、勉強会、反省会等）の開催を主導したり、内部コミュニケーションの円滑化を図ったりする。地域外に対しては、勉強会等の講師や外部モニターを招いたり、旅行会社や周辺団体との連携等でリーダーシップを発揮する。多くの地域で不足している人材でもある。

(3) ガイド、インタープリター（解説者、地域の魅力の“翻訳者”）

ガイドやインタープリターは、体験プログラムの実際の担い手であり、**地域の魅力を体験プログラムを通じて伝える役割**をもつ。体験を円滑・安全に楽しませることも重要であるが、体験を通じて、対象となる資源の魅力の背景にあるものをしっかりと伝えていくことが求められる。

(4) その他

上記の他に重要な役割として、**事務局**として取組を支える役割（モニターツアー等の受付・問い合わせ対応、取組実施にかかる経理処理等）を行う役割、取組状況を内外と共有するための**情報発信**（ニュースレターの発行、ホームページの更新、モニターツアーのパンフレット作成等）をする役割等がある。

第2節 コーディネーターの発掘・育成

(1) コーディネーター人材の確保

コーディネーター人材には、少なくとも高いコミュニケーション能力と機動力が必要である。そのため、こうした役割を楽しむことができる（適性がある）人物であることが望ましい。また、本人にガイドスキルがあることが望ましい。

人材の見極めにも育成にも時間がかかるため、長期的に取り組む必要がある。また、周辺のフォローも欠かせない。地域内で人材の確保が難しい場合には、地域外から登用する方法もある（コーディネーター公募等）。また、コーディネーターを雇用する（または役割を担っていただく上での）財源を確保する必要がある。

【モデル地域での取組】垂水の新しい地域コーディネーター

垂水では、垂水文行館館長で、NPO まちづくり垂水の代表である川崎氏がコーディネーター役を担った。

「まずは一度参加して」と市民に検討会への参加を促し、必要があればすぐにメンバーを招集して会議を開き、具体的な取組では役割分担を率先して行った。川崎氏から頼まれたら断れないという方も多く、コーディネーターへの適性が高い人材である。



(2) コーディネーター人材の育成方法

コーディネーターを育成するには、実際にモニターツアー等を実施する中で経験やノウハウを身に付ける方法（OJT：On the Job Training）が効果的である。

具体的な実践―地域内外との連絡窓口、集会（勉強会やプログラムづくり検討会、講演会、反省会等）の進行役、外部との折衝等―を実際に担う中で、コミュニケーションのスキルや、コーディネーターとしての動き方を身に付ける。

コーディネーターやエコツアーガイドの育成を目的とした外部研修等に参加することも効果的である。

【参考】コーディネーター育成に関連する外部研修の例

エコツーリズムガイド養成研修（環境省）	エコツーリズムのガイド及び地域コーディネーターの育成を目的とした事業。全国各地のエコツーリズム実践団体が受入先となっている。長期間（3ヶ月程度）の現地研修がある点が特徴。
エコツーリズム人材育成セミナー（NPO 法人日本エコツーリズム協会）	不定期で開催している人材育成研修会。ガイド養成が目的であるが、コーディネーターに必要な各種知識も身に付く。

第3節 プログラムの担い手（ガイド、インタープリター）の育成

(1) ガイド（体験プログラムの担い手）に求められる要件／備えるべきスキル

エコツアーガイドには、地域の魅力を組み合わせ、体験プログラムに仕立てて提供する企画力、地域の魅力を伝える解説技術、コミュニケーション技術、安全管理技術が求められる他、地域全般、旅行市場、関連法規等への知識も求められる。

また、**ガイド自身が地域の魅力**であり、特に何度も来訪する旅行者は、動機としてガイドの魅力を挙げることも多い。ガイド自身の個性や魅力、地域への愛情、地域住民からの信頼等も重要な要件といえる。

【参考】体験プログラムのガイド、インタープリターに求められるものの例

企画力	・魅力的な体験プログラムを企画する技術 ・市場性を意識した体験プログラムを企画する技術
解説、コミュニケーション技術	・地域資源を魅力的に伝え、興味関心を高める解説技術 ・地域資源の背後にある原理原則を伝えられる解説技術 ・様々な参加者に対応できるコミュニケーション技術
安全管理技術	・危険を事前に察知し回避する技術（危険予測、危機回避） ・万一のための救命救急の技術
地域に関する知識	・専門とする分野への知識 ・地域の中の専門外のことへの知識
旅行市場の知識	・現在の旅行市場、旅行者動向に関する一般的知識
関連法規の知識	・体験プログラムの実施に関連する法規への一般的知識
その他	・地域への愛情 ・地域内の人脈、信頼 ・ガイド自身の個性や魅力

(2) ガイド（体験プログラムの担い手）のスキルアップ（研修）方法

スキルアップの方法としては、担い手同士での研修、外部研修への参加等がある。

●担い手同士（＋アドバイザー）による実地研修

担い手同士でガイド役と参加者役に分かれて、参加者役から良かったこと、改善したほうが良いこと等を指摘してもらう。また、周辺地域で活動しているエコツーリズムやグリーン・ツーリズムに取り組む団体や、他地域で街歩き等を実施している方等にアドバイザーとして参加していただき、より専門的な助言をいただくのも良い（※特に、安全管理については専門家の助言を受けることが望ましい）。

【モデル地域での取組】実践的な研修（OJT）（鹿児島県垂水市）

モニターツアーを実施するにあたって、桜島でエコツアーを実践している NPO 法人桜島ミュージアム（鹿児島県鹿児島市）に協力をいただき垂水市の体験プログラムの担い手を対象とした現地研修会を行った。

普段地元で歴史ガイド等を実施しているメンバーが大半であったが、単に体験させるだけではなく、背景にある桜島の魅力を伝えることの大切さ、相手に合わせた解説の必要性等多くのことを学んだ。



●外部研修への参加

体験プログラムのガイドを実践している方のガイドツアー等に参加することも効果的な研修方法である。可能であれば、終了後に、意見交換会等を開催し、こういった点に配慮しているか等を聞けると良い。

【参考】外部研修の一例

研修名称	概要
エコツーリズムガイド育成研修（環境省）	エコツーリズムのガイド及び地域コーディネーターの育成を目的とした事業。全国各地のエコツーリズム実践団体が受入先となっている。長期間（3ヶ月程度）の現地研修がある点が特徴。
エコツアーガイド養成講習会（NPO 法人日本エコツーリズム協会）	不定期で開催している人材育成研修会。ガイド養成が目的であるが、コーディネーターに必要な各種知識も身に付く。
自然観察指導員講習会（日本自然保護協会）	人と自然との関わりについて考え、分かりやすく伝える方法を学ぶ。

※カッコ内は実施団体。研修の詳細は、各実施団体へお問い合わせください。

●書籍等による学習

ガイドのスキルアップに役立つ書籍等も数多くあることから、そうしたものも参考にとすると良い。

【参考】ガイドのスキルアップに役立つ書籍の一例

書名	著者	出版社	発行年
森林インストラクター入門	林野庁	全国林業改良普及協会	1992/07
365 日信州野遊び宣言	なべくら高原・森の家	信濃毎日新聞社	2005/04
森の「いろいろ事情がありまして」	ピッキオ	信濃毎日新聞社	2007/07
就職先は森の中—インタープリターという仕事	川島 直	小学館	1998/11
観光ガイド事業入門	藤崎 達也	学芸出版社	2012/03

第5章 持続的な取組の体制づくり

第1節 取組の体制づくり

(1) 地域の特性・実情にあった取組の体制づくり

エコツーリズムは、これまで自然豊かな地域を中心に組み込まれてきたが、里地里山等を有する農山漁村地域での取組はまだ始められたばかりであり、グリーン・ツーリズムとエコツーリズムに関わる人や組織が連携した取組はほとんどなされていない状況にある。

こうした状況から、双方が連携した取組を行っていくためには、特にグリーン・ツーリズムに取り組む地域から見た場合、以下のような段階的な体制づくりが必要である。

①興味ある人たちを集め、コアメンバーにより取組をスタートする

グリーン・ツーリズムに取り組む農山漁村地域においては、エコツーリズム自体が理解されていない、取組の意義や方向性が分からない、人材が見えないといった中で、当初からしっかりとしたエコとグリーンとの連携した体制を作ることは難しい。

まずは、双方の取組に関わる人たちの理解と連携に向け、グリーン・ツーリズムの実践者やエコツーリズムに興味のある人を集めて取組をスタートすることが望ましい。

コアメンバーも初めから固定できないため、取組を進めながら次第に見極めていく必要がある。

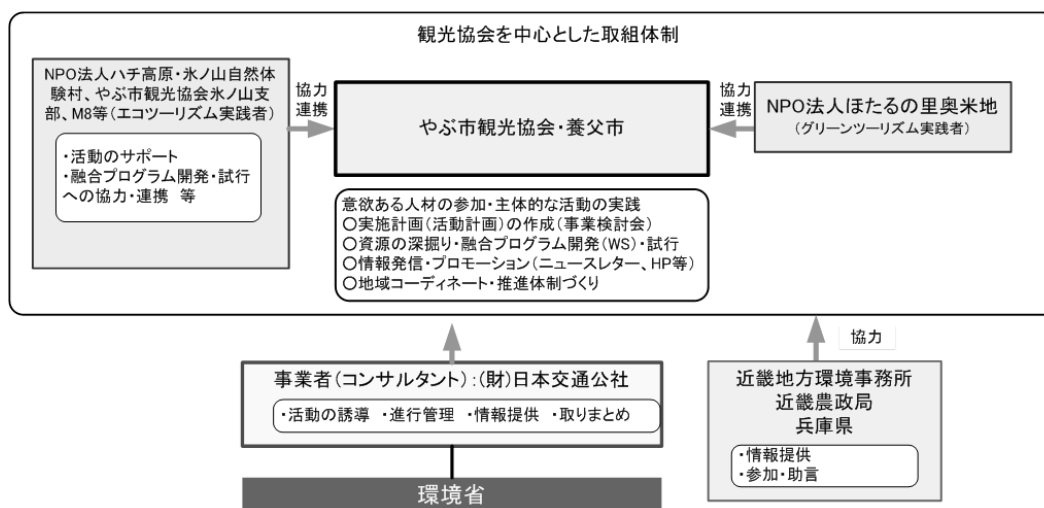
●グリーン・ツーリズムを中心に取り組む農山漁村地域では・・・

一般的に、グリーン・ツーリズムに取り組んでいる農山漁村地域では、農林漁家民宿や農林漁業等の体験プログラムの提供者を中心に、地域で取り組んでいくための協議会を設置し、取組を推進し、受け入れている地域が多い。また、行政が事務局、窓口となって推進しているところも多い。

まずは、協議会や活動団体を母体にして、関係者による勉強会等をスタートさせることが基本となる。

【モデル地域における取組】兵庫県養父市における奥米地地区の取組例

養父市では、最初、グリーン・ツーリズムに取り組んできた NPO 法人ほたるの里奥米地を中心に取組を始めた。その後、奥米地と養父市内外の関連組織や団体、関心のある市民等を巻き込みながら、徐々にネットワークを拡大した。



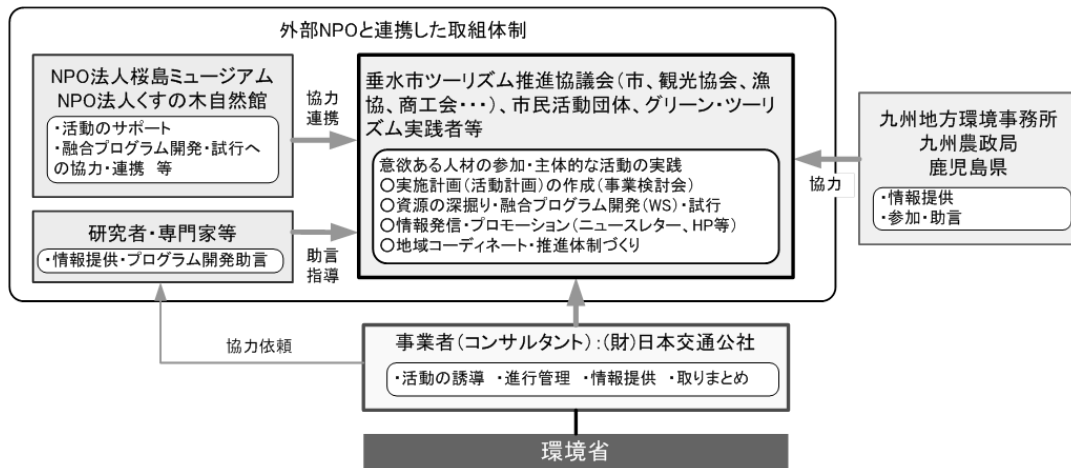
●多様な資源があり、地域づくり活動が積極的な地域では・・・

自然だけでなく、歴史や文化に特色がある、農林漁業以外にも特徴的な産業がある地域で、それらに関わる様々な活動団体や意欲的な取組をする人材や組織がある場合は、それらの団体が集まって取組の体制を作ることが考えられる。

その場合、グリーン・ツーリズムの関係者もそこに参画していくことになる。

【モデル地域における取組】鹿児島県垂水市の取組例

垂水市では、「垂水市ツーリズム推進協議会」が母体となって取組を進めた。協議会には、垂水市商工観光課、垂水市観光協会等、地域の各種振興団体をはじめ、市民活動団体や、民泊を実施してきたグリーン・ツーリズムの実践者等が参加している。



②エコツーリズムに取り組む体制を作る

上記のいずれの地域の場合も、エコツーリズムへの理解が無い段階では、取組が進まない。まずはエコツーリズムを熟知している人の巻き込みが必要である。

その方法としては、以下のようなものがある。

イ) 研修会に参加する

- ・ 県や市町村、エコツーリズム関連団体等の主催するエコツーリズムや自然体験活動に関連する研修会や講演会等を受講する。

ロ) 専門家を講師、アドバイザーとして招請する

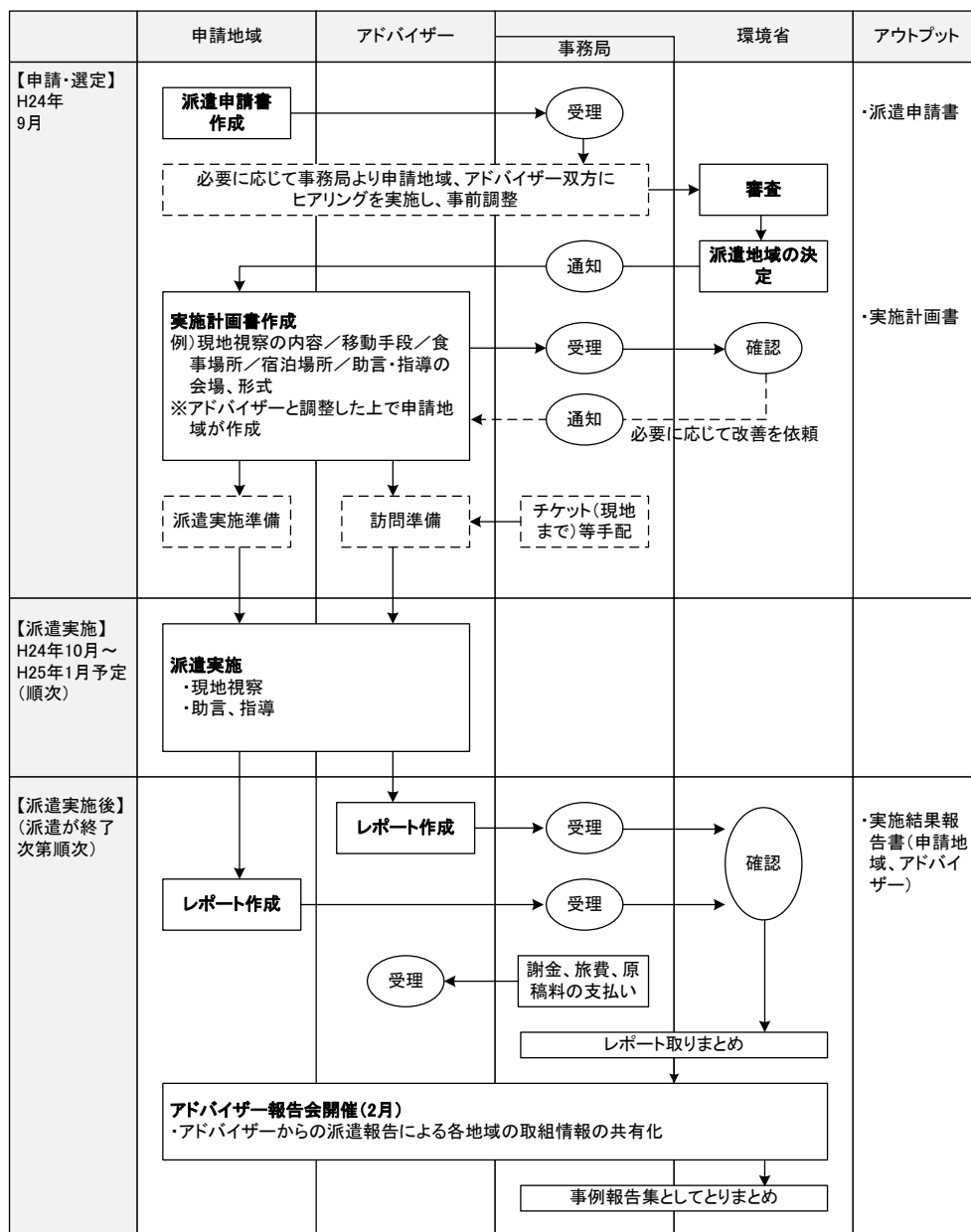
- ・ エコツーリズムに精通した有識者やエコツアーを提供している団体等の実践者（エコツアーガイド等）を講師（アドバイザー）として招請し、地域で研修会等を開催する。
- ・ 講師（アドバイザー）には講演だけでなく、協力が得られれば、エコツーリズムへの理解が深まり、地域にエコツーリズムの実践者が生まれるまで、定期的に助言・指導を受けることも望まれる。

【参考】環境省 エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業

環境省ではエコツーリズム推進法に基づくエコツーリズム推進に向けた事業の一環として、「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」を実施している。

本事業は、エコツーリズム取組地域の中で、外部アドバイザーの助言・指導によってより良い取組の方向性を探ろうと希望する地域を対象として、専門知識を有するアドバイザーを派遣し、各々の地域の個別の状況・課題に対して、個別に助言・指導を行うものであり、地域の実情に応じて取り組むことができる。

(事業の流れ ※平成 24 年度募集要項より)



ハ) エコツーリズムに取り組む団体の協力を得る・連携する

- ・ 地域内あるいは周辺に、エコツーリズムに取り組む団体（エコツアー団体、自然学校等）がある場合、それらの団体の協力や連携した取組ができれば、より効果的である。
- ・ 地域内や近隣でエコツーリズムに取り組む団体は、距離的に近く、フィールドも近いことから、連携もしやすい。
- ・ 一般に、グリーン・ツーリズムに取り組む農林漁家と、エコツアー団体とは余り交流が無いことが多いことから、行政等が間をつなぐことも必要である。
- ・ 長い目での協力関係は、双方にメリットが見出せる Win-Win の関係を作ることが重要である。

【モデル地域での取組】養父市におけるエコツーリズムへの取組の体制づくり

広域合併市町村である養父市では、グリーン・ツーリズムに積極的に取り組んでいる旧養父町の奥米地地区のみを対象に、取組の母体となる「NPO 法人ほたるの里奥米地」のメンバーが中心となった。

奥米地地区には、エコツーリズムに取り組む団体や有識者がいなかったことから、同市内の他地区（氷ノ山・ハチ高原）のエコツーリズム活動団体を訪問し、フィールドでの研修を通してエコツーリズムを学んだ。



氷ノ山・ハチ高原のエコツアー実践者を
講師とした現地での研修会（養父市）

同左

【モデル地域での取組】垂水市におけるエコツーリズムへの取組の体制づくり

垂水市内には、エコツーリズムに取り組む団体が無かったが、周辺地域で活動している2つのNPO法人（桜島ミュージアム、くすの木自然館）の協力を得て、エコツーリズムの理解の誘導から、プログラムづくりの実践まで指導を仰いだ。

地域が取組を持続させていく上で、こうした団体との関係づくりは重要であり、極めて効果的であった。



エコツアーガイド研修
（NPO 法人桜島ミュージアム）



地域資源を活かした体験プログラムづくり
ワークショップ（NPO 法人くすの木自然館）

③取組の輪を広げる

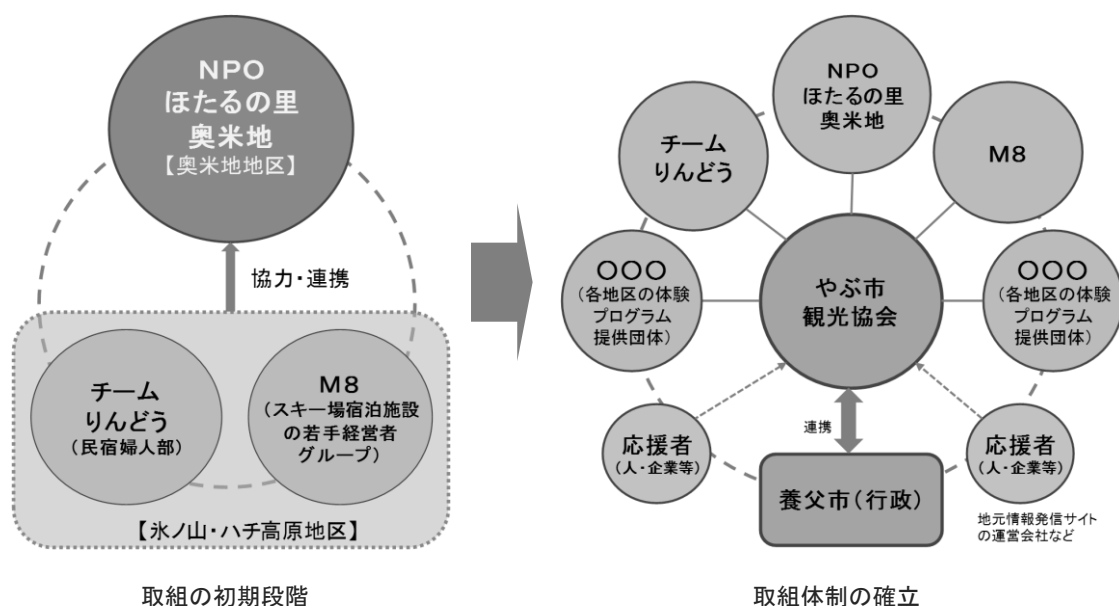
継続的な取組を通して、エコツーリズムへの理解とプログラムの開発・試行等を行いながら、次のステップでは、取組への参加者の輪を少しずつ広げていく。

新たな体験プログラムの開発、プログラムの担い手の育成、情報の深堀り、情報発信等、取組が進むにつれて必要になる多様な人材の参画とネットワークづくりが、その後の取組推進の大きな力になる。

養父市や垂水市の取組に見られるように、地域の自然や歴史文化を大切に活用しながら、地域振興に寄与することを狙いとするエコツーリズムは、地域内外の多様な人・組織の連携とネットワークづくりに有効な手法のひとつといえる。

【モデル地域での取組】養父市における段階的な取組の輪の拡大と連携した体制づくり

養父市では、奥米地地区住民の高齢化、担い手不足から、市内他地区の観光やエコツーリズムの活動団体との連携の体制づくり、更に行政、観光協会のバックアップ体制を強化するとともに、他地区の体験プログラム提供者や観光事業者との連携、**地元情報発信サイトの運営会社等**の協力による情報発信力の強化等、エコとグリーン連携への取組を通じて、それまで関わりの無かった人たちのネットワークづくりが進んだ。



【参考】参加者のやる気を促す会議運営や取組方の工夫

グリーン・ツーリズムやエコツーリズムへの取組を広げていくためには、その担い手となる人たちの取組への関心を高め、主体的な参加意識を醸成していくことが不可欠である。そのため、関係者を集めた会議では、その目的や状況に応じた会議の場の作り方や運営の工夫が望まれる。

以下、本事業で用いたいくつかの方法を紹介する。

◇一般的な会議方式

- ・ ロの字型、ハの字型等の会議スタイル。
- ・ 和室での会議や机を低くした方が堅苦しさの無い意見交換ができる場合もある。



互いの顔が見える一般的な会議スタイル



進行役と参加者が同じ目線で
和やかな会議がしやすい和室の会議

◇講義（座学）方式

- ・ 専門家等を講師にした座学スタイル。
- ・ 参加者は受け身になりやすいが、工夫次第で会議への関心を高めることができる。



イスだけにすることで、参加意識が高まる



講師の話に意識が向く 机の配置

◇円形（サークル）会議方式

- ・ お互いの顔が見え、意見交換がしやすいスタイル。
- ・ 進行役・講師も輪の中に入ると、更に参加者の主体性が引き出しやすい。



イスだけにしたサークル会議



同左

◇ワークショップ方式

- ・ 数人を 1 グループとして、参加者が自ら主体的に作業をしながら、考えを出し合うスタイル。
- ・ 参加者の意見がそのまま反映されるため、参加意識が高まる。
- ・ ワークショップに馴染めない参加者が多い場合には、参加者の意見を引き出したり作業を誘導するファシリテーター役の存在が欠かせない。
- ・ 形だけにせず、発表や他の人との意見交換をする等、参加者同士の考え方の共有化が重要である。



ワークショップ風景



成果の発表

◇その他（参加しやすい仕掛けづくり）

- ・ 互いの顔を知らない人たちで会議や長時間に渡る会議では、場の雰囲気を和らげたり、気分転換をするためにひと工夫が望まれる。
- ・ 参加者の賛同を得たり、発言を促すためにも、「いいね！」カードや「一言いわせて！」のような工夫は、会場での意見交換を活発化させる上で効果的である。



ネームプレートを参加者自身で作成・紹介



地域の名物お菓子等をコーヒースタイルに
（話題づくりにもなる）



発表者を応援する「いいね！」カード



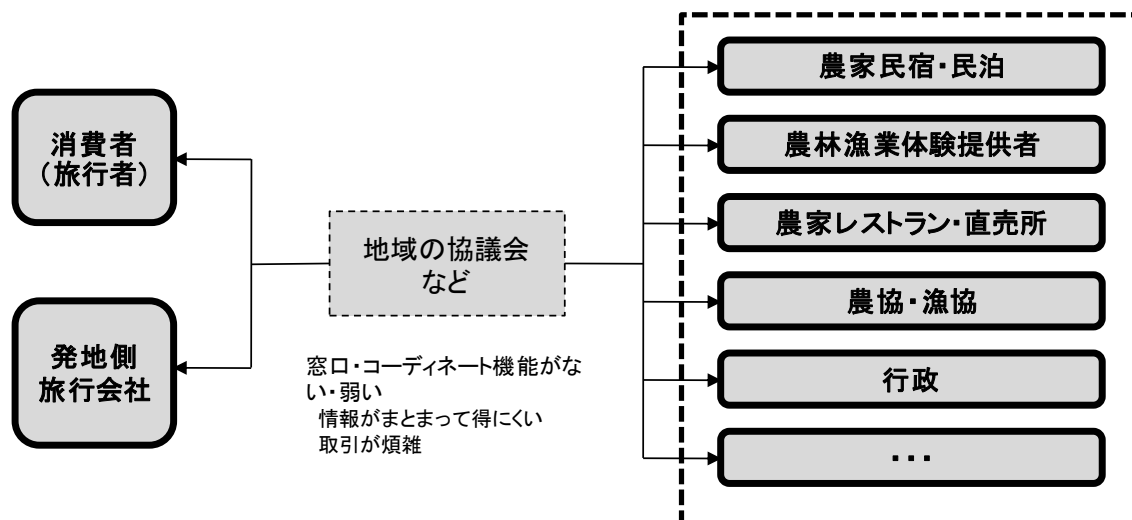
発言したいときに用いると効果的な
「一言いわせて！」カード

第2節 コーディネート組織の確立

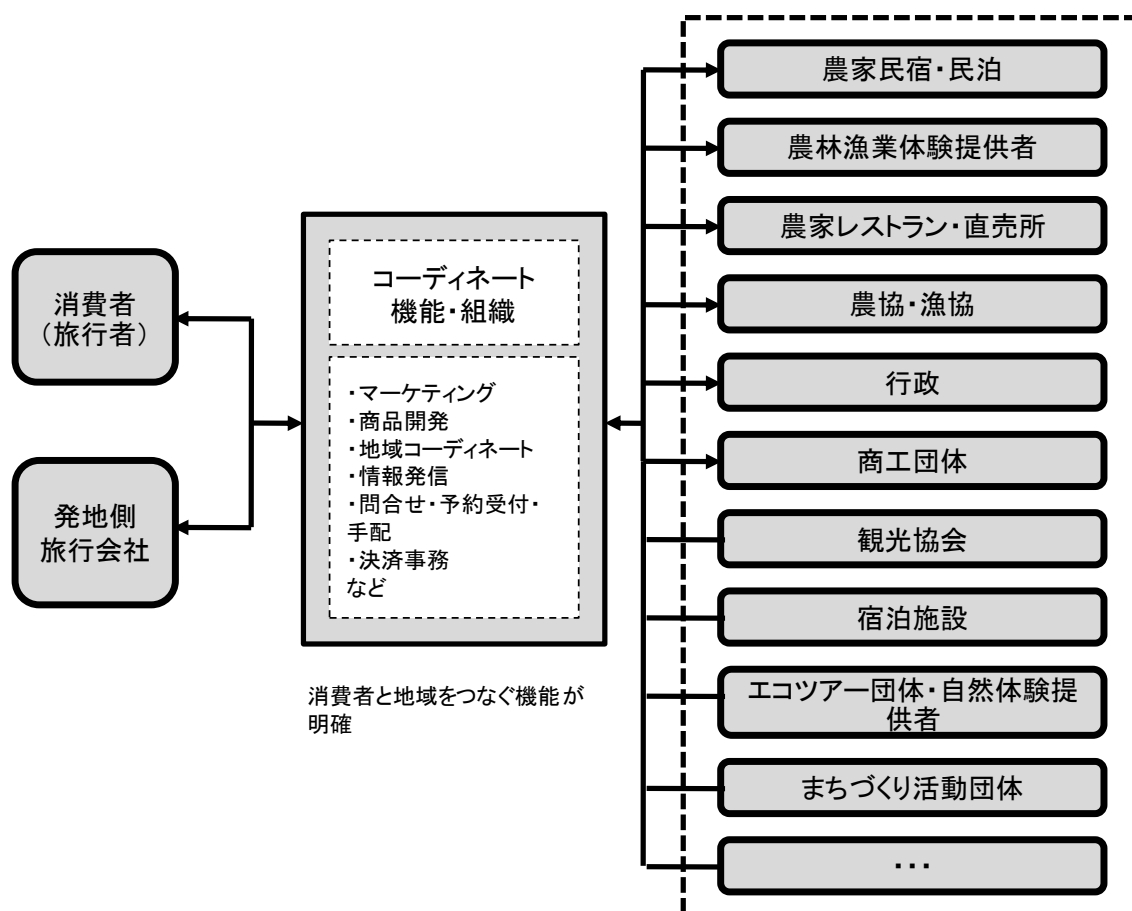
グリーン・ツーリズムに取り組む多くの農山漁村地域では、関係者による協議会等が組織されているところもあるが、概してその受入体制は脆弱なところが多い。今後、グリーン・ツーリズムやエコツーリズムへの取組を通して、豊かな農山漁村の自然環境や歴史・文化を活かした体験・滞在プログラムを地域で提供していく（旅行商品の企画・販売を含む）ためには、農林漁家（生産者、農家民宿・民泊等）、体験やエコツアーの担い手（体験インストラクターやガイド）をはじめ、観光事業者（宿泊施設や観光施設、道の駅・物産販売施設等）や観光協会、更にまちづくり活動団体等が連携して一体的に取り組んでいくための中核的な組織が必要になる。

また、地域の体験プログラムを利用する発地側の旅行者や旅行会社にとっては、地域の様々な情報を個別に収集し、予約をしたり契約関係を結んでいくことは大変であるため、受け入れる側で窓口機能をできるだけ一元化し、地域関係者間をコーディネートする機能・組織をしっかりと確立することが重要である。

【参考】多くの農山漁村地域の体験提供の体制



【参考】体験プログラムを地域で提供していくために必要なコーディネート機能・組織の方向



【モデル地域での取組】コーディネート組織の方向（鹿児島県垂水市）

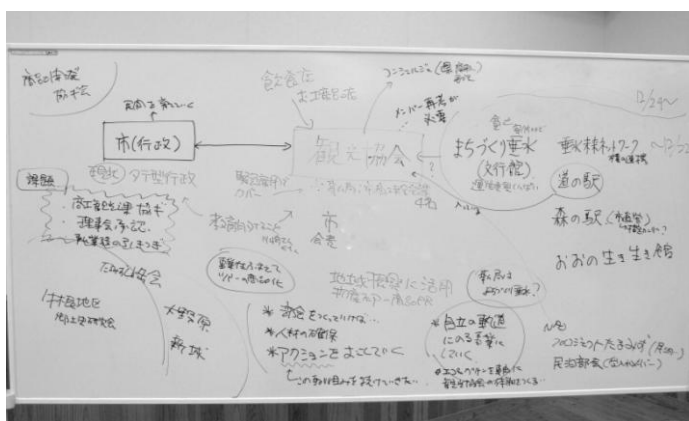
垂水市では、多様な団体・組織で構成される垂水市ツーリズム推進協議会を母体にして市全体で事業をスタートしたが、当初のメンバーは、農林漁業・自然体験や民泊の受入に取り組むグリーン・ツーリズム関係者やまちづくり活動実践者を中心とした、事業に意欲的な市民が中心となった。

取組を継続していく中で、コアメンバーが仲間を巻き込む形で、歴史や登山、食（料理）の体験の担い手や、WEB 等による情報発信が得意なサポーター等が加わり、取組の輪が無理の無いかたちで次第に広がっていった。更に取組を進めていく中で、各種団体・組織が連携していくとともに、旅行者や旅行会社等の問い合わせや予約受付、体験プログラムの受入を行っていくための一元的な窓口機能（コーディネート機能）の必要性が高まった。

本事業での体験プログラムの試行（モニターツアーの受入）等を通してコーディネート機能のあり方を模索した結果、最終的には垂水市観光協会がコーディネート機能を担うことになった。しかしながら、今後、観光協会を中心に持続的に取組を推進していくためには、

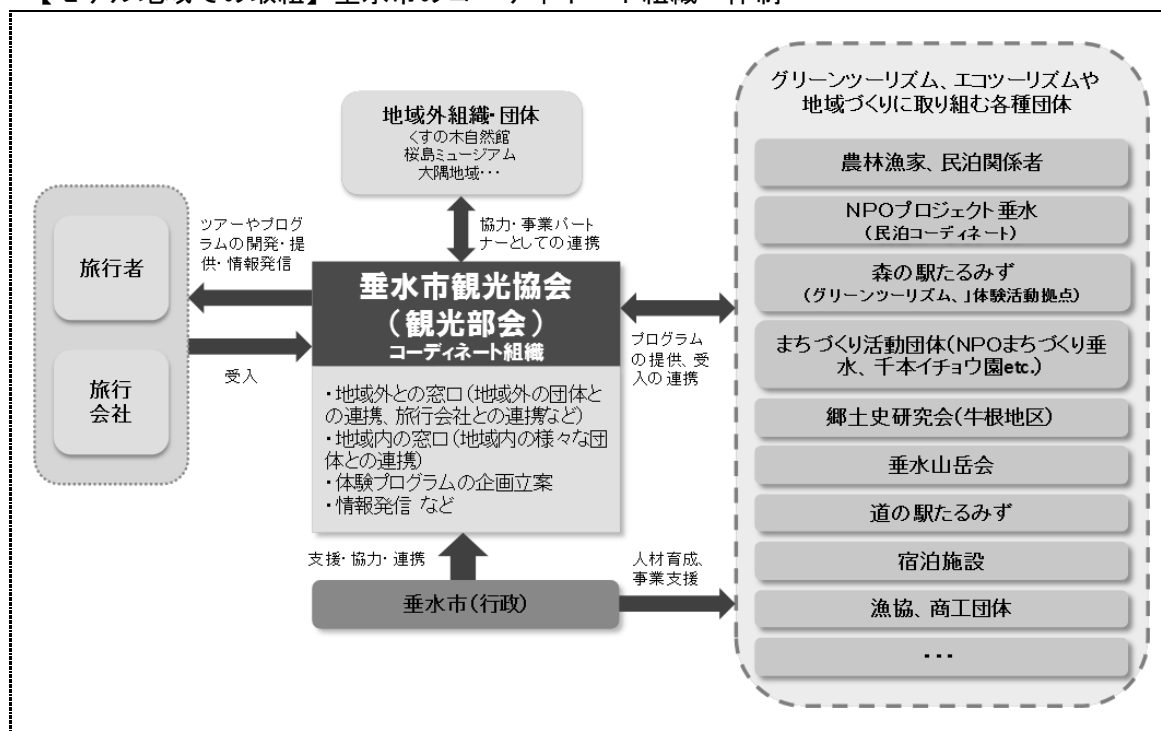
- 観光協会が中核人材を雇用し、安定して事業を実施していくための経営基盤の強化（中核人材のボランティア的な関わり方からの脱却）
- 次の世代を担うコーディネーター人材の育成・確保やサポート体制の強化

等が課題であり、行政の継続的な協力・バックアップ体制が欠かせない。



将来のコーディネート組織のあり方へ向けて、オープンな議論を重ねることが重要

【モデル地域での取組】垂水市のコーディネート組織・体制



資料編

平成22、24年度エコツーリズムとグリーンツーリズムの融合による地域活性化推進事業
平成23年度自然ふれあい地域活性化推進事業

養父市における 3年間の取組概要

1年目の取組（平成22年度）

グリーンツーリズムから始める
エコツーリズムへの挑戦

きっかけ

環境省「エコツーリズムとグリーンツーリズムの融合による地域活性化推進事業（3ヶ年）」のモデル地域に選定されたこと。



事業目的

全国で2ヵ所が選ばれた

・養父市（兵庫県）
・垂水市（鹿児島）

- 環境省が進めるエコツーリズムと農林水産省が進めるグリーン・ツーリズムが連携することによって、地域の再生・活性化に寄与することが目的。
- 地域関係者が地域振興を図っていこうとする取組を側面から支援したい。

ねらい

- 地域関係者が取り組むエコツーリズムとグリーン・ツーリズムの双方が、相乗効果を発揮し、共に発展するようにしたい。
- 地域の関係者（エコツーリズム、グリーン・ツーリズムの実践者、行政等）が共に考えていく機会を提供したい。
- そして、地域の主体的な取組を支援することで、将来の養父市が、年間を通じて安定したツアーを提供する、幅広い集客のある、滞在期間が長い、といった地域となることに寄与したい。



奥米地地区を対象とした取り組み



《既存の体験プログラム》

➤ 体制づくり・人づくり

➤ 資源調査(双方の資源の共有、再発見等)

➤ エコとグリーンが融合したプログラム・メニュー・ガイド事業等の検討

第1回研修会「ハチ高原のエコツアーを体験してみよう！」

平成22年11月24日



水でつながる養父市

- ・ミツガシワは、一万年前の氷河期に繁栄した遺存植物。湧水の減少とともに各地から消えつつある
- ・養父市内には、ミツガシワなど水がもたらす豊かな植生がある



自然を守ることは、暮らしを守ること

- ・もともと氷ノ山は、県下最大のブナ原生林
- ・今残っているブナ林は、雪崩や水害などの災害防止のために切らせなかった場所

五感をつかって自然を感じる

- ・円山川源流の水源地の水温を体感する仕掛け(気温5度、水温9度)



時間を忘れてさせる工夫

- ・「時計と携帯電話をお預かりします。」

第1回勉強会 「奥米地のエコツアーを考えてみよう！」

平成22年11月25日



子どもにホタルを見せたい

・4月の雨上がり、ホタルの幼虫が光っているところを小学生に見せたい。

歴史などの背景も伝えたい

・体験の背景にあるものを伝えたい。
・例えば、五穀豊穡を願って奉納する「ねっつい相撲」や参勤交代に使われた「歴史街道」など歴史的な背景にも触れたい。

奥米地の行事(コト)

・奥米地には「米」に関する行事が多い。昔から「コト」と呼ばれる季節ごとの行事があり、今も生活の中に息づいている。

人が支える自然もある

・近年、シカやイノシシの被害が多くなった。里山の荒廃も原因の一つ。
・奥米地の「ホタル米」の魅力は農薬を使わないところにある。

第2回研修会 「地域連携で磨いたプログラムづくりの極意」

平成23年1月27日

講師: 木村宏氏(なべくら高原森の家支配人)



豪雪地帯で始めたグリーンツーリズム

・スキー客だけでなく、グリーンシーズンのお客も受入れている

人材を育てる！

・多彩なプログラムを生み出す地域の名人を登録、「市民インストラクター制度」(現在220名！)

継続の壁を乗り越える

・お客様は、同じプログラムに二度三度と足を運ばない
・「地域のファン」になってもらう工夫が必要

地域に人が集まる仕組み

・ブナを守るため、ボランティアを巻き込み「観察道づくり」へと展開
・「ホタル復活を目指した里山再生の物語「堂の宿を守る会」の活動





「ホタル」を核に魅力を伝える

- ホタルが生息できるキレイな水や環境、その水で育てた「ほたる米」
- 五穀豊穡を願う伝統行事「ねってい相撲」など、昔ながらの農村文化に裏打ちされた、環境にやさしい暮らし など



誰に、何を伝えたいか？

- 子どもたちに昔の遊びを教えたい
- 若い世代に、年中行事(コト)や料理、昔ながらの農業(環境にやさしい米づくり、野菜作り)を伝えたい
- 「ほたるまつり」に来る人たちに、背景にある環境保全活動や農村の暮らしを知ってもらいたい

成果

- エコツーリズムへの理解が深まった
(グリーン・ツーリズム実践者によるエコツーリズムの考えを取り入れた展開の可能性)
- 奥米地の目指すべき方向性の共有ができた。

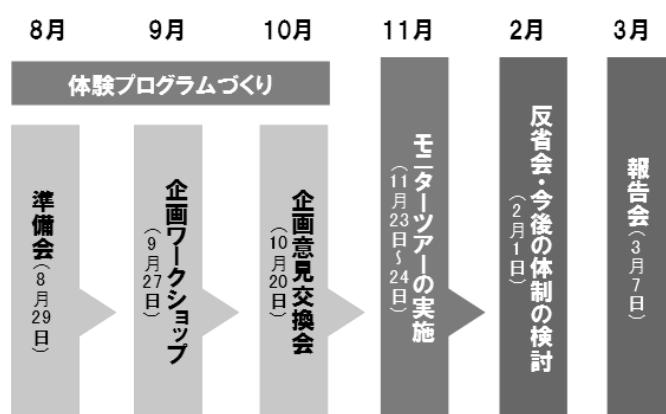
課題

- 若手人材の不足 (NPOの後継者問題)
- 推進体制づくり、ガイド人材やコーディネート人材の発掘

2年目の取組(平成23年度)

エコツアープログラムの 実践にむけた取組

奥米地地区をフィールドとしたモニターの実施



- 地域間連携(ハチ高原×奥米地)の模索
- モニターツアーとして体験プログラムの企画・実施

奥米地地区をフィールドとしたモニターの実施

奥米地が今回のプログラムづくりで目指すもの

1 いまあるものを磨こう！

→体験プログラムを磨き上げ(スキルの向上)

2 地域(奥米地)の人を巻き込もう！

→奥米地の人(特に若手)の参加のきっかけに！(次世代の育成)

3 地域(ハチ高原)の人を巻き込もう！

→市内全体の活性化のモデルに！(連携・ネットワークの強化)

奥米地地区をフィールドとしたモニターの実施

《モニターツアーの実施内容》

奥米地 エコキッズ プロジェクト	◎開催日： 11月23日(水祝) ◎参加者： 参加人数：6組20名 (子どもは0才～12才、大人は31才～60才) ※参加者の住まいは、奥米地区内：地区外＝ 2：1(養父小学校区内で募集) ◎内 容： 「奥米地ミステリーツアー」
奥米地 嫁修行 プロジェクト	◎開催日： 11月24日(木) ◎参加者： 参加人数：25名 (奥米地10人、ハチ高原9人(内りんどう6名) 関係者6名) ◎内 容： 「お料理女子会」

奥米地地区をフィールドとしたモニターの実施

奥米地エコキッズプロジェクト(平成23年11月23日開催)



奥米地地区をフィールドとしたモニターの実施

奥米地ヨメ修行プロジェクト(平成23年11月24日開催)



成果

- プログラムの試行を通じて、エコツーリズムへの理解が更に深まった
- エコとグリーンの融合プログラムが2本造られた。ノウハウも蓄積した。
- 奥米地とハチ高原・氷ノ山との地域連携が深まった。コーディネート機能の必要性を再認識した。

課題

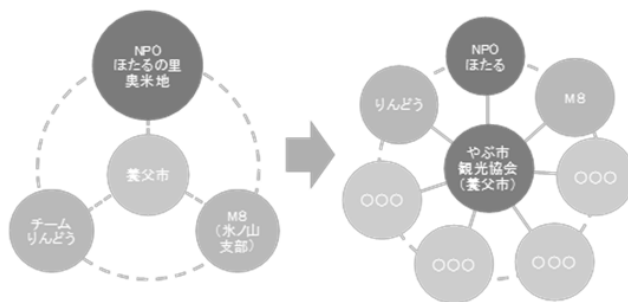
- プログラムの拡充（市内資源のつなぎこみ）
- ガイドの育成、発掘
- 全体のコーディネート機能（推進組織）の構築

3年目の取組(平成24年度)

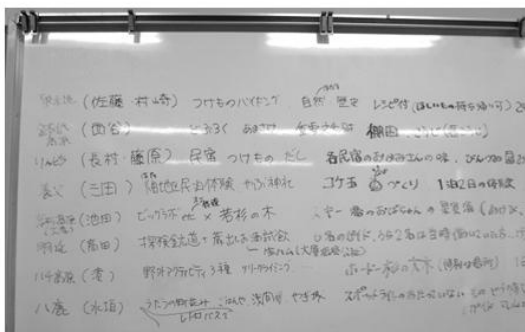
地域主体で企画運営する「やぶ・まるごと体験フォーラム」の実践

目標

- 奥米地地区の持続的な取組を担保するための、やぶ市観光協会を軸とした一元的なコーディネート機能・組織確立
- 奥米地地区におけるモデル的取組をベースに、体験イベント「やぶ・まるごと体験フェア」の企画実施を通じ、他地区も巻き込んだ全市的な取組への展開
- 情報発信方法の充実と取組成果の内外へのアピール



企画会議～体験プログラムの企画(4回)



「Webをつかった集客」～フェイスブック編～

平成24年10月29日



株式会社ピーナッツ
野崎未知氏



フェイスブックって何ですか？

・情報発信出来るツールとして世界中の10億人以上のユーザーがいるSNS(ソーシャルネットワークサービス)

Facebookを使ってみよう(実習)

・情報収集→ いいね！ またはコメント→ コミュニケーション。準備の様子やみどころや、ちょっと笑える事などを投稿してみてください。将来の顧客(ファン)になるかも？
・マスメディアではない⇒ **コミュニケーションの場**



「やぶ・まるごと体験フェア2012」

公式ガイドブック

やぶ・まるごと 体験フェア

2012年11月23日(金・祝)～12月2日(日)

「やぶ・まるごと体験フェア実行委員会」
 主催 やぶ・まるごと体験フェア実行委員会
 共催 養父市 やぶ市観光協会
 制作 株式会社ビーナッツ
※本プログラム予約期（※本プログラム開催日の3日前までにお申込み下さい。）

養父市全域 集合場所 MAP

■お車でお願いします
 大宮・神戸から・・・約2時間30分（八咫木ノ山開港後は3時間）
 ○大宮・神戸⇒（中環自動車道）⇒宮川JCT⇒（環状自動車道）⇒各IC⇒（北沢線特設自動車道）⇒八咫木ノ山IC
 ○大宮・神戸⇒（中環自動車道）⇒（中環自動車道）⇒環状IC⇒（環状自動車道）⇒八咫木ノ山IC
 ※本プログラム予約期（※本プログラム開催日の3日前までにお申込み下さい。）

スケジュール	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2
01 ありとあらゆる自然を満喫！	◎	◎								
02 八咫木ノ山開港記念！		◎								
03 八咫木ノ山開港記念！		◎								
04 八咫木ノ山開港記念！		◎								
05 八咫木ノ山開港記念！		◎								
06 八咫木ノ山開港記念！		◎								
07 八咫木ノ山開港記念！		◎								
08 八咫木ノ山開港記念！		◎								
09 八咫木ノ山開港記念！		◎								
10 八咫木ノ山開港記念！		◎								

※このイベントは、環境省「平成24年度エコポイントとグリーンツーリズムの推進による地域活性化推進事業」の一環として開催するものです。
 ※また、やぶ市観光協会では「養父市観光振興ビジョン」を策定（平成23年3月策定）に基づき事業と位置付けており、養父市・やぶ市観光協会の
 協賛のもと、養父市「やぶ・まるごと体験フェア実行委員会」が中心となって開催するものです。
 ※本プログラムは、当日の天候等により一部変更となる場合がありますので、予めご了承ください。
 ※本プログラムの予約は、各集合場所によって異なる場合がありますが、お問い合わせ下さい。

氷ノ山の原生林の中で自然を感じよう！

ホドー杉を見ながら木登り体験！

定員
15名



ツリーイング(木登り)の3つのing

「木に登る～Climbing」安全で楽しい木登りの技術を伝えます。
「木から学び～Learning」木と人とのかわりを学びます。
「お互いに共有する～Sharing」自然とのつながりを感じます。

ホドー杉の「ホドー」とはこちらの方言で「デカイ」「スゴイ」「こっつい」という意味。高地には珍しい杉の巨木！推定樹齢500年のビッグな杉を下から見ただけでも一見の価値あり！普段見れない角度から見るチャンスです！

【イベントデータ】

日時	11月24日(土)09:00～16:30
料金	5,000円(税込)
会場(集合場所)	09:00 ハチ高原交流促進センター (住所：兵庫県養父市大久保1591)
準備するもの	防寒具・軍手・髪留め(女性)
スケジュール	09:00 集合受付 09:30 ホドー杉に出発 11:30 ホドー杉の説明、昼食 12:30 ツリークライミング開始 14:30 下山開始 16:30 解散
申込先	ハチ高原 プラトリーこのはな TEL 079-667-7111



案内人

かつさん(大林勝幸)

山の優しいおにいさん！？丁寧かつ柔らかい喋りは子供たちに大好評！！

たくさんの経験や知識で大人から子供まで分かりやすく案内いたします！

スキー、スノーボード、パラグライダー etc…数多くの公認指導員の資格を持ち頼もしい存在！

貸切のレトロバスで、山陰道の宿場町・八鹿の街をご案内します♪

八鹿・浅間寺での座禅体験と、但馬牛を炭火焼きで食す。

定員12名
最小催行人員7名



八鹿町浅間の真言宗・浅間寺にて座禅体験、茅葺き屋根の民芸焼肉「かぐや姫」にて但馬牛のいろいろ網焼きに舌鼓をうちます。その後、八鹿うだつの町並み散策や、酒蔵見学をいたします。



【イベントデータ】

日時	11月24日(土) 10:15～15:40 11月28日(水) 10:15～15:40
料金	9,800円(税込) ※子供料金はお問い合わせください。
集合場所	①10:15 道の駅ようか但馬蔵 ②10:30 JR八鹿駅(こうのとり1号接続)
準備するもの	歩きやすい服装で
スケジュール	11:00～浅間寺にて座禅体験 12:00～昼食(但馬牛いろいろ網焼) 13:10～うだつの町並み散策 14:00～八鹿酒造「自然米酒」試飲 ※解散は、①15:15 道の駅ようか但馬蔵 ②15:40 JR八鹿駅
申込先	全但バス㈱ 電話：079-662-2136 担当：藤原、松本、三浦(月～金9～17時)



案内人

水垣 篤(47才・八鹿酒造有限公司 代表取締役)

養父市八鹿町九鹿で山田錦の秀明自然農法栽培(自家採種、無農薬、無肥料栽培)にこだわり、そのお米から出来た純米酒「夫婦杉 自然米酒」を販売しております。一緒に八鹿の街をご満喫ください。

旅行企画・実施：全但バス株式会社 兵庫県知事登録旅行業 第2-670号 総合旅行業務取扱管理者：村上宣人

安心！なぜなら全て自分の仕事です。こだわりを見て食べよう！

たべてみんせい・おおや

定員
20名



自然豊かな畑で安心・安全・おいしいものを自分で見て穫って、作って食べよう！食材は全て牧場主がこだわって育てたものばかり！本物を味わおう。お土産セットもあります！

食事はわはは牧場、麦畑自然農場で大屋の自然の恩恵を受けた食材で作ります！

案内人

戸川 勝義

(アルトスヴィレッジ)

キャンプ経験 30 年以上！キャンプが大好きでキャンプ場を自分で作っちゃいました。野外活動で人のつながりや協力・協調で創造力を豊かにしてもらいたい。自然が 1 番！！キャンプ指導の講師多数。



【イベントデータ】	
日時	11 月 28 日(水)～30 日(金) 10:00～16:00
料金	6,000 円(税込)
会場(集合場所)	10:00 アルトスヴィレッジ (住所: 養父市大屋町和田字板山)
準備するもの	防寒具・軍手・髪留め(女性)
スケジュール	10:00 オリエンテーション 10:30 麦畑自然農場見学 11:30 アルトスヴィレッジ到着 12:00 昼食とクリスマスグッズ製作 15:00 わはは牧場見学 16:00 終了
申込先	アルトスヴィレッジ TEL 079-668-0452

◎麦畑自然農場とは(上垣敏明さん)

麦畑自然農場は、ハチの病気に対する抗生物質などの薬品類を一切使わず、人に優しく安全なハチミツを作っています。また、100%国内産の小麦、自家栽培や地元産の完全無農薬野菜を与えた鳥が産んだ卵が自慢です！野菜は無農薬無化学肥料で育てています！

◎わはは牧場とは(上垣康成さん)

わはは牧場は、但馬牛の繁殖のために牛を飼う牧場です。現在は豚も飼っています。また、兵庫県知事の許可を得た「認定小規模食鳥処理工場」ではアイガモ農法で働いたアイガモの解体を行っています。絶対に譲れないのは、食品添加物を一切使わないこと。保存料はもちろん、着色料も結着剤も使いません。加工も全て自分達で行います。

キムチ食べてきむちい～！

無農薬高原野菜をつかった漬け物(キムチ)体験

定員
20名



無農薬自家製高原野菜を収穫し、その自家製の白菜を使い、より多くの皆様に青い鳥・秘伝のオリジナルキムチを味わって下さい。

※なぜ？ハチ高原でキムチか！！！！

青い鳥には朝鮮半島より来られたお客様がられました。そのお客様が本場のキムチをとっちゃん(祖母)に伝授！祖母から父へ！父から子へ！愛が伝わりました！高原野菜と本場のキムチの最高のコラボレーションが実現しました！

【イベントデータ】	
日時	11 月 29 日(木)09:30～15:00
料金	3,000 円(税込)
集合場所	09:30 ハチ高原 ロッジ 青い鳥
準備するもの	タッパなどの保存容器・防寒具・軍手・長靴・雨具・農作業に必要な服装
スケジュール	09:30 畑へ出発 09:45 収穫開始 11:30 昼食(キムチ鍋) 13:00 漬け物体験開始 15:00 解散
申込先	ハチ高原 ロッジ 青い鳥 TEL 079-667-7011

案内人

とっちゃん (32 才・Mt. 8)

青い鳥の長男！！食べ物をごよく愛し、食べる事にはうるさいハチ高原のグルメ王！食の事なら何でも聞いて下さい。趣味は食べ歩き。会うだけでも幸せになれる！楽しい時間になること間違いなし！



採る！食べる！遊ぶ！

五感をフル活用！ハチ高原の絶景を巡る！！

定員
30名



オープン直前のハチ高原の広大なゲレンデを歩き、個人栽培の野菜を使った名物『鉢伏鍋』を味わいます。温まった後は、鉢伏の絶景ポイントを巡ります。ぜひ、円山川の源流に耳を傾け、季節限定の風景をカメラに収めてみてください。高丸山から見る水ノ山は必見です！！

〔イベントデータ〕

日時	11月29日(木)09:00～16:00
料金	3,000円(税込)
集合場所	09:00 ハチ高原 ロッジ 青い鳥
準備するもの	防寒具・軍手・長靴・雨具・農作業に必要な服装
スケジュール	09:00 集合 09:30 畑へ出発 09:45 白菜・大根収穫 11:30 昼食(鉢伏鍋) 13:00 鉢伏の絶景ポイント巡り(景品付) 15:00 結果発表 16:00 解散
申込先	ハチ高原 ロッジ 青い鳥 TEL 079-667-7011



案内人

まっちゃん (31才・Mt. 8)

青い鳥の次男！！自然をこよなく愛するハチ高原の山男！山岳ガイドからハチ高原の農作物の事まで幅広い知識は若手NO.1！参加者のハートをつかむこと間違いなし。皆さんのご参加お待ちしております。

奥米地の水が育てたアツアツの「ほたる米」をいただく♪

囲炉裏を囲んで、ほたる米おにぎりをはぎろう！

定員
20名



ほたるの里として知られる奥米地。ほたるを育む水が育てた地元産の「ほたる米」は、数量限定のため、幻のお米といわれています。お釜で炊いた新米おにぎりを、季節の漬け物とともに、一番おいしい食べた方でいただきます！

〔イベントデータ〕

日時	12月1日(土)11:00～14:00
料金	1,000円(税込)
集合場所	ほたるの里奥米地 (住所：養父市奥米地 773 番地)
準備するもの	歩きやすい格好で
スケジュール	11:00 ほたるの館前集合 奥米地の里あるき(葉っぱのお血探し) 12:00 囲炉裏の家で、新米「ほたる米」 をつかった「MYおにぎり」講座 13:00 試食(おにぎり漬け物) 14:00 解散
申込先	NPO法人ほたるの里奥米地 TEL 079-665-0588



案内人

奥米地 里山ガールズ (NPO 法人ほたるの里奥米地)

宿泊施設「ほたるの館」で長年食事を提供してきた里のお母さんたちが最高の「おにぎり」づくりを伝授します。値段の高いご馳走よりも、実は自分たちが食べている素朴な「まかない飯」が一番おいしいんです。

子どもも飲めるノンアルコール甘酒♪

むかしながらの AMAZAKE づくり体験 (1泊2日)

定員
20名



翠山荘の家族が育てたお米と自家製の「麴（こうじ）」をつかって甘酒作りをしていただきます。完成には約10時間。翌朝食後に棚田にて試飲します。完成した甘酒はお土産としてお持ち帰りいただけます。

【イベントデータ】

日にち	12月1日(土)～2日(日)
料金	大人9,500円 小人8,000円 (1泊2食付、夕食は【但馬牛スキヤキ・鉢伏鍋・カニもち】からお選びいただけます。) ※宿泊しない場合は、 4000円(体験料1000円+夕食3000円) で体験プログラムにご参加いただけます。
集合場所	14:00 翠山荘(住所：養父市別宮290-1)
スケジュール	14:00 チェックイン 15:00 別宮地区散策 18:00 夕食(どぶろく試飲) 19:30 甘酒作り 07:30 朝食 09:00 甘酒 棚田にて 10:00 チェックアウト
申込先	翠山荘 TEL 079-667-8420

案内人



西谷秀和 (35才・翠山荘)

翠山荘二代目。お客様の笑顔がパワーの源。一生懸命おもてなしさせていただきます。

西谷弘之 (70才・翠山荘)

別宮地区の歴史ならおまかせあれ！京都伏見で培った経験を生かし、養父市で唯一どぶろくを作っています。丹精込めて作ったどぶろく、是非一度味わってください。

明延探検坑道の「明壽蔵」で熟成された幻の酒「仙櫻」の試飲ができる♪

大人のための明延探検坑道・社会見学コース

定員20名
最小催行人員10名



日本一のススの鉱山として知られた明延鉱山。600mの探検坑道は、国の近代化産業遺産にも認定されており、当時の姿を“本生”で体験できます。蔵元のお話を聞きながら坑道内にある明壽蔵(めいじゅぐら)※の前で試飲します。

案内人



小林昭義

(65才・明延鉱山ガイドクラブ)

明延鉱山で25年間、働いていました。鉱山の仕事、当時の様子を皆さんにお伝えしたいです。

【イベントデータ】

日時	12月2日(日)13:00～15:30
料金	1,500円(税込)
集合場所	13:00 あけのべ自然学校 (住所：養父市大屋町明延1184番地)
準備するもの	歩きやすい靴※試飲される方はハンドル・キーパーとご一緒に
スケジュール	13:00 集合 13:15 明延近代鉱山研究所長講義 13:45 ガイドによる坑道見学 14:45 蔵前で試飲 15:30 解散
申込先	あけのべ自然学校 TEL 079-668-0258

※明壽蔵(めいじゅぐら)とは？

坑道内は、年中温度変化が少なく、酒の貯蔵に適した環境。蔵は、鉱山内の「大壽(だいじゅ)」立坑近くにあり、明延の「明」と大壽の「壽」から「明壽蔵」と名付けられた。本来お酒は寿ぎ(ことほぎ)の儀式や席に欠かせないものである意も「壽」の文字に託されている。

“水よし！ 味よし！ 心よし！” 私たち「Team りんどう」がプロデュース♪

愉快的な女将さんと山の暮らしの“ひとコマ”を、体験！

氷ノ山・鉢伏山の麓で民宿を営む女将たち9名で結成した「Team りんどう」は、新しいことにチャレンジしつづける元気な女性グループです。嫁いできたからこそわかる、山の暮らしの魅力、自然と共に生き抜く知恵をお伝えします。女将さんとの会話もご馳走の一つ。話したら止まらない(笑)。各民宿の趣向を凝らしたおもてなしは、心もお腹も満足させてくれること間違いなし！

Team りんどう



	A プラン 手作り炊き込みご飯と自家製漬物でおもてなしランチ	B プラン 名物・鉢伏鍋で暖まろう。 お昼に鍋もいいんじゃない？	C プラン 泊まってゆっくり出来る方に オススメ(1泊2日)
日 時	11月23日(金・祝) ⑤	11月23日(金・祝) ⑤	11月23日(金・祝) ⑤
	11月24日(土) ⑤	11月24日(土) ⑤	11月24日(土) ⑤
	11月25日(日) ⑤	11月25日(日) ⑤	11月25日(日) ⑤
	11月26日(月) ⑤	11月26日(月) ⑤	11月26日(月) ⑤
	11月27日(火) ⑤	11月27日(火) ⑤	11月27日(火) ⑤
日 時	11月28日(水) ⑤	11月28日(水) ⑤	11月28日(水) ⑤
	11月29日(木) ⑤	11月29日(木) ⑤	11月29日(木) ⑤
	11月30日(金) ⑤	11月30日(金) ⑤	11月30日(金) ⑤
	12月1日(土) ⑤	12月1日(土) ⑤	12月1日(土) ⑤
	12月2日(日) ⑤	12月2日(日) ⑤	12月2日(日) ⑤
時 間	11:00 ~ 14:00	11:00 ~ 14:00	16:00チェックイン 10:30チェックアウト
料 金	1,000 円(税込)	2,500 円(税込)	大人 7,500 円、小学生 6,300 円 (一泊二食付、税込)
定 員	定員 各宿 10 名	定員 各宿 10 名	定員 各宿 10 名(2名様から)

内 容	まだ白いところが残る大根の糠漬けを、浅漬けの状態でいただく漬物は、この時期だけの一品。食後は、神社や山道を散策して集めた葉をお皿に見立ててデザートをおいただきます。氷ノ山の湧き水で入れたコーヒーは、一味もふた味もちがいます。 【昼食メニュー】 炊き込みご飯／おつけ／煮物／小鉢／漬物	名物の「鉢伏鍋」は出汁が命。民宿ごとに違うおいしい出汁の取り方は門外不出のレシピです。食後は、神社や山道を散策して集めた葉をお皿に見立ててデザートをおいただきます。氷ノ山の湧き水で入れたコーヒーは、一味もふた味もちがいます。 【昼食メニュー】 鉢伏鍋(合鴨・猪豚・合鴨&鶏の肉団子、自家製野菜たっぷりのしょうゆ出汁のお鍋)／小鉢／漬物／ご飯	自家製の大根はぜひ生で。芯までトロトロ白菜、氷ノ山の湧き水でとった出汁との相性は抜群。夜食に女将さんと作る「おはぎ」は、どこか懐かしい味。車の音もネオンも無い静かな夜は、星の観察に最適。翌朝は鳥の声で目覚め、朝食後は氷ノ山・ハチ高原へドライブ。 【夕食メニュー】 鍋料理 (①鉢伏鍋、②但馬牛すきやき、③カニすきの中からお選びいただけます)／自家製野菜とお肉／小鉢など※カニすきは1,500円アップ
スケジュール	11:00 民宿集合 山道を散策 11:30 昼食準備 「こだわりの炊き込みご飯づくり」 12:00 昼食 「女将さんの山での暮らしのよもやま話」 13:00 昼食片付け&コーヒータイム 「山の植物をつかったあしらいのコツ」 14:00 解散	11:00 民宿集合 山道を散策 11:30 昼食準備 「出汁の取り方&肉だんごの作り方」 12:00 昼食 「女将さんの山での暮らしのよもやま話」 13:00 昼食片付け&コーヒータイム 「山の植物をつかったあしらいのコツ」 14:00 解散	～1日目～ 16:00 チェックイン 17:00 夕食準備のお手伝い 18:30 夕食 20:00 夜食のおはぎ作り ～2日目～ 08:00 朝食 09:00 車で氷ノ山・ハチ高原へ 10:30 解散

■申込先 上記の体験プログラム(A,B,Cプラン)を選んで、直接お宿にお電話ください。
民宿ならではの、ほっこりした一日を満喫ください。「ここだけ」「今だけ」のお楽しみもあるかも・・・？

■連絡先

朝日屋 TEL. 079-667-8307 末広屋 TEL. 079-667-7005 西村屋 TEL. 079-667-8228 満月 TEL. 079-667-7201
やねや TEL. 079-667-8327 清水屋 TEL. 079-667-8323 はつひ TEL. 079-667-8324

■各民宿の詳しい情報は、やぶ市観光協会 HP の「宿泊のご案内」参照
<http://hyounosenhatibuse.jp/menu/syukuhaku.html>

究極のトレーサビリティだ。養父の美味しいところ見つめませんか？そして、家庭菜園をしてる方必見！！

畑のスーパーマーケット

定員
各日20名



サトイモはどうやって収穫するのか（イモがなっているのか）ご存知ですか？スーパーに置いてあるものは、流通しやすい形で提供されているのがほとんど。けれども、「畑のスーパーマーケット」は、養父の土地に植わったままのお野菜を直接お買い上げいただけます！！
しかも安全・安心の無農薬で丹精込めて栽培された野菜がこの価格！！
これは究極のトレーサビリティです！！さらに、お得なお話もきけるかも。

【イベントデータ】

日時	11月26日(月)～30日(金) 09:30～11:00頃
料金	たて60cm×よこ50cmの袋を 詰め放題で500円(税込)
集合場所	養父市内 ※農場によって場所が変わるため お手数ですが、お問い合わせ下さい。
準備するもの	軍手、長靴、農作業に適した服装
スケジュール	09:30 集合、開店 収穫できる野菜は、サトイモ、大根、 白菜ほか生産者との野菜に関する 楽しい会話をしながらの収穫体験 11:00 閉店
申込先	公益社団法人養父市シルバー人材センター TEL 079-662-6093



案内人

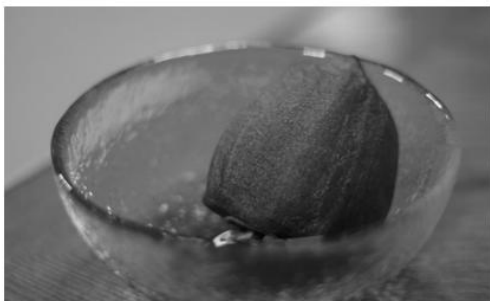
石原末廣（公益社団法人 養父市シルバー人材センター）

私がご案内します。楽しく会話をしながら収穫体験。丹精込めてつくった養父市産の野菜たちを採りに来ませんか。野菜に関する事なら何でも聞いてください。もちろん無農薬栽培の仕方などもきいてくださいね。お待ちしております。

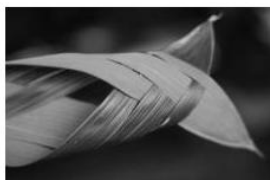
むかしながらのAMAZAKEづくり体験



愉快的な女将さんと山の暮らしの”ひとコマ”を、体験！



囲炉裏を囲んで、ほたる米(MY)おにぎりをにぎろう！



大人のための明延探検坑道 社会見学コース



やぶ・まるごと体験フェア 参加者数

	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2	合計
	金祝	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
ホードー杉を見ながら木登り体験！		0									0
八鹿・浅間寺での座禅体験と、但馬牛を炭火焼きで食す		0				0					0
たべてみんせい・おおや						0	0	0			0
無農薬高原野菜をつかった漬け物(キムチ)体験							0				0
五感をフル活用！ハチ高原の絶景を巡る!!							0				0
囲炉裏を囲んで、ほたる米(MY) おにぎりをにぎろう！									18		18
むかしながらのAMAZAKE づくり体験									1		1
大人のための明延探検坑道社会見学コース										6	6
愉快的な女将さんと山の暮らしの"ひとコマ"を、体験！	0	0	0	0	0	5	4	2	0	0	11
畑のスーパーマーケット				0	0	0	0	0			0
合計	0	0	0	0	0	5	4	2	19	6	36

参加者の感想(主なもの)

- 説明がわかりやすかったですし、改めて地元の良さを実感しました。(ほたる米おにぎり)
- 料理がハイレベル。地元でとれた野菜を使ったレシピの説明もすごく良かった(説明書に“味付けは勘”と書いてあるのに思わず納得)。(ほたる米おにぎり)
- 説明もわかりやすく、ゆっくりとした時間が過ごせました。お漬けものおいしかったです。(ほたる米おにぎり)
- 今回は天気が悪くて山歩きが出来なかったのが残念ですが、食事がとてもおいしかったです。(ほたる米おにぎり)
- 季節感は出ているので、もっと特別感が出せると良かった。組合せ次第で、この地域ならではの特別なプログラムになるのではと期待しています。(Teamりんどう・A)

実施者の感想 成果(主なもの)

- おおよでもまだまだ連携して体験プログラムや観光プログラムを考えることが出来そう。単体ではなく大屋町で今回のような動きが必要と感じた。(たべてみんせい)
- 参加者から良かったと言って頂いたのは有難かった。今回の体験フェアで体験し、得たものを今後の地域づくり、又ほたる米の販売等に生かしたいと思う。ほたる米の食べ方や地域づくりの進め方(方法)に「田舎くささ」を出すのが必要だと思った。(ほたる米)
- 会議を重ね、ガイドブックまで完成し、実際にプログラムを実行できたことは、次への自信につながると思う。(甘酒)
- スタッフ一同、どのようにすれば喜んでもらえるかを考える、良い機会になった。(明延坑道)
- お客様と一緒に食事をしながら、楽しい時間を過ごすことができ、民宿での昼食会をこれからもやっていきたい！この企画はイケル！と思った。(Teamりんどう・A)

実施者の感想 課題(主なもの)

- ・ 提案者とプログラム実施者との情報共有が十分ではなかった。季節的にも野外のプログラムは難しかった。
- ・ 開催日時が難しい時期だった。
- ・ 坑道内は年間12度。暑い時期の方がいいのでは。
- ・ 宣伝不足。PRの仕方、記者発表などは、もう少し早いほうが良いのでは。
- ・ 準備が不十分だった。
- ・ 雨天時の想定が甘かったのは大きな反省。
- ・ ツアーを企画し実際に集客し、ツアーを成立させることの難しさを知った。
- ・ 特に人集めの方法については再検討する必要がある。
- ・ 観光協会のホームページにTwitterやFacebookなどのSNSを入れてはどうか。
- ・ 実施者も全市から募り、幅広い地域での実施をしてはどうだろうか。

「やぶ・まるごと体験フォーラム」

平成25年1月9日



これからの養父ツーリズムを考える

- ・ 四季折々にプログラムを作って継続していくことが重要。
- ・ 地域内で連携して、市内を巡れると良い。
- ・ 市民がガイド役となって市全体で盛り上がらないと！（まず自分たちが養父市を知ることが大切）
- ・ この事業の評価は、今後自分たちの努力次第。
- ・ 今回開催できなかったプログラムの主催者の意見を聞いて、今後活かすべき。
- ・ 地域が一つにまとまりはじめたことが一つの成果だ。
- ・ 主催者が求めているものを参加者にどう伝え、持ち帰ってもらうかが今後のリピーターを増やす鍵になる。（参加者の目標設定が必要。主催者の発信だけではダメ。）
- ・ 養父の観光の生きる道はこのグリーン・ツーリズムやエコツーリズムしかない。（高速道路が延伸しても、養父に立ち寄ると理由（付加価値）を生むかもしれない。）



平成22、24年度エコツーリズムとグリーンツーリズムの融合による地域活性化推進事業
平成23年度自然ふれあい地域活性化推進事業

垂水市における 3年間の取組概要

1年目の取組（平成22年度）

グリーンツーリズムから始める
エコツーリズムへの挑戦

周辺地域のとりくみから、参考になるポイントを学ぶ



きいれ牧場ミルク工房（
鹿児島県鹿児島市）



やんばるエコツーリズム
研究所（沖縄県国頭村）



NPO法人霧島食育研究会
（鹿児島県霧島市）

調査・報告：NPO法人桜島ミュージアム

【ポイント】

- すべての体験を、地域の学校の生徒自身が体験している
- テーマがしっかりしている（生命の学習）
- 「教える」のではなく、体験を通して「気付く」ことが重要
- 1つの素材からそれにつながる素材を集め、体験を作っている
- 単純な体験ではなく、一つひとつの体験にストーリーがある

南九州3県（鹿児島・宮崎・熊本）のグリーンツーリズム実施状況調査

垂水の地域資源を見直してみる



調査・報告：NPO法人くすの木自然館

【ポイント】

- 桜島や錦江湾をあちこちから見る（ここだけの景観）。
- 桜島の火山活動と関係の深い資源が多い（自然、農業、歴史文化、暮らし）。
- 錦江湾は魅力的景観。漁場として漁業や暮らしと関わりが深い
- 水にかかわる資源が多い
- 垂水島津家をはじめ、今も伝わる歴史・史跡が多い。
- 食文化がとても豊か（芋を使った郷土食をはじめとして）。

研修会1 旅行者の“意識を変える”エコツアーづくりとガイド方法

平成22年12月26日



麻布大学 南正人氏



来て欲しいお客さんに「大満足」を

- 垂水の魅力をわかってくれる人はどういう人かを見極め、そのお客様の要望や期待を超えること

エコツアーは「名物郷土料理」

- 地域の素材を、手をかけて料理し、感動を生む味や演出やサービスにして提供する「地域の総合力」。

ガイドの役割・自然の役割

- 目のつけ所を提供すること
- 対象の背後にある法則や原則を教えること
- ガイドは「脚本家」、「演出家」、「役者」、「司会者」
- 自然は「アドバイザー」、「主演役者」、「舞台装置」
- 大切なのは、自然観

ホスピタリティとは？

- 「相手を観察し、相手の気持ちを想像し、どうすることが望ましいか判断すること」

研修会2 地域を丸ごと楽しむプログラムの作り方・売り方

平成23年3月7日



飯山市なべくら高原森の家 木村 宏氏



ここに来て良かったと思ってもらう

- 体験プログラムは中々儲からないが、メニューを提供する時間は地域のPR時間。良かったと思ってもらえると地域にリピートする。

体験させるだけではダメ

- 収穫するだけ、地引網をひくだけの「なんちゃって体験」ではリピートしない。
- 農家が、漁師が、農産物が、何を訴えているかを解説して、それを買ってくれる人たちを増やすことがポイント。
- 地域の人たちが地域の宝物をどうやって守っていくのか・・・「巨木だけでなく森全体を見せよう」

お客様のニーズへのアンテナ

- 来てもらいたい人（都市住民など）が何を考えているのか、アンテナをはることで、楽しませ方が見えてくる。

信越トレイル（※）

- ブナの森を守る活動から「信越トレイル」づくりに発展
- 「目的」があるから多くの人が集まる（ボランティア、地域連携・・・）
- 地域の人たちが地域の宝物をどうやって守っていくのか⇒「巨木だけでなく森全体を見せよう」

※信越トレイル 全長80キロ、13市町村が関わるトレッキングルート

勉強会 「垂水らしいエコツアー・プログラムを考える」(2回開催)

垂水らしいテーマを考えよう!

垂水の「お宝(地域資源)」に共通するキーワード:
(...眺めの良い場所、食べ物、海、歴史、農)

垂水らしいプログラムを考えよう!

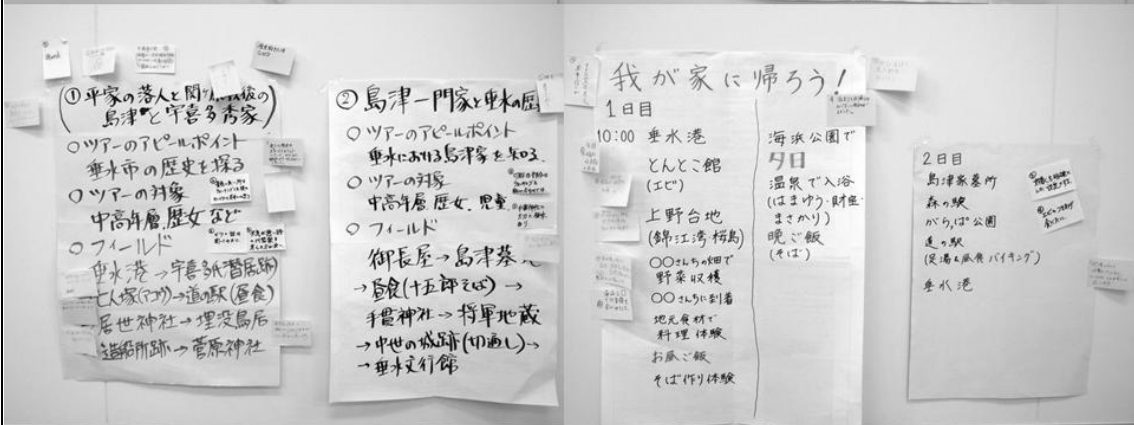
4グループに分かれてプログラムの企画会議

(発表されたプログラム例)

- 食いしんぼ中高生の受けいれ
- よくばり ながめ コース
- 平家の落人と関ヶ原戦後の島津と宇喜多秀家
／島津一門家と垂水の歴史
- 我が家に泊ろう!



※ファシリテーター(進行役)はNPO法人くすの木自然館・立山氏が担当



垂水で考えられるテーマとツアー・プログラム例

1年間の取組をふまえて、垂水で考えられるツアープログラム

桜島と垂水の農業 「桜島を身近に感じながら、垂水の農業にふれる」 【ポイント】 ★垂水ならではの農業風景を堪能しながら農を学ぶ(桜島、錦江湾) ★桜島(噴火の歴史)と関わる垂水の農業を知る ★生産者や住民との交流、食体験から、垂水の農業や暮らしの魅力を理解する ガイド(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 道の駅(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」	錦江湾と垂水の漁業 「錦江湾(海)の魅力と垂水の漁業にふれる」 【ポイント】 ★垂水で見られる「錦江湾」の雄大な海と漁業の歴史を知る ★「錦江湾」の雄大な海と漁業の歴史を知る ★「錦江湾」の雄大な海と漁業の歴史を知る ガイド(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 道の駅(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」	水と芋と酒造り 「垂水の自然が育んだ酒造りと農業にふれる」 【ポイント】 ★酒造りの歴史や役割を学ぶ(酒造り)「酒造り」 ★酒造りの歴史や役割を学ぶ(酒造り)「酒造り」 ★酒造りの歴史や役割を学ぶ(酒造り)「酒造り」 ガイド(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 道の駅(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」
垂水の「水」 「垂水の歴史をめぐる」 【ポイント】 ★水(垂水)にちなむ場所をめぐりながら、自然や歴史、産業(農業、水産業)など、水の恵みとしての垂水の魅力を理解してもらう ガイド(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 道の駅(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」	垂水の歴史・文化 「垂水の歴史や文化にふれる」 【ポイント】 ★垂水の歴史や文化にふれる ★垂水の歴史や文化にふれる ★垂水の歴史や文化にふれる ガイド(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 道の駅(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」	垂水の食文化 「自然や歴史が育んだ垂水の食文化にふれる」 【ポイント】 ★垂水の食文化にふれる ★垂水の食文化にふれる ★垂水の食文化にふれる ガイド(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 道の駅(道の駅)「道の駅(道の駅)」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」 ・「道の駅」の歴史や役割を学ぶ(道の駅)「道の駅」

成果

- エコツーリズムへの理解が深まった
(地域のまちづくり活動のリーダー、グリーンツーリズムや民泊の実践者など)
- 意欲的なメンバーの人のつながりができてきた

課題

- プログラムづくりのノウハウの蓄積
- 推進体制づくり、ガイド人材やコーディネート人材の発掘

2年目の取組(平成23年度)

エコツアープログラムの 実践にむけた取組

検討会(4回)を通じたプログラムづくりの実践

実際にプログラムをつくり
お客様に提供しよう！



全体コーディネーターを設定

- ・地域でプログラムを提供したり、地域外の団体と連携してプログラムを提供したりする上で、全体を見るコーディネーターが将来的にも必要。

⇒民泊のリーダー内藪氏に依頼



3つのプログラムを作る

- ・参加者の関心分野等に従ってグループ分け

歴史・文化／農業／漁業

(※プログラムづくりにあたっては、NPO法人くすの木自然館、NPO法人桜島ミュージアムから助言をいただいた)



講演会 シラス台地を学ぶ

平成23年10月26日



鹿児島大学教授 大木公彦氏



鹿児島のレシピに共通するのは火山と黒潮

- 日本の活火山の1割が鹿児島県にある。火山があるところは温泉が出る(源泉数全国2位)、水も美味しい。
- 魚も黒豚も焼酎もこみかんも桜島大根も・・・、ほとんどが火山の恵み

火山は歴史ともつながる

- 火山があるところは金も多い。島津家の歴史とも関わりが深い。鹿児島はたくさん金が取れた。

垂水の魅力は、火山と黒潮の恵みを受けた暮らし、産業があること

スキルアップ研修会 プロのガイドから学ぶ

平成23年11月2日



NPO法人桜島ミュージアム
福島 大輔氏

“視点”を伝えること

- そのものの「面白さ」や「視点」等を伝えることで、興味がわき、好きになる。
- 火山や地質など、一見難しいものでも、見方がわかると面白い。

相手や、内容によって工夫すること

- 相手の表情や反応を見ながら解説する。
- 実際に見ることができないものはパネルや映像も活用する。



見られないものは
パネルを用意



手で触ったり、溶
岩を海に投げたり



モニターツアーの実施

主に鹿児島市民など周辺地域にお住まいの方(延べ約60名)が 2012年12月2日～12月4日
無料モニターとして参加。



垂水1,000年の歴史をめぐる

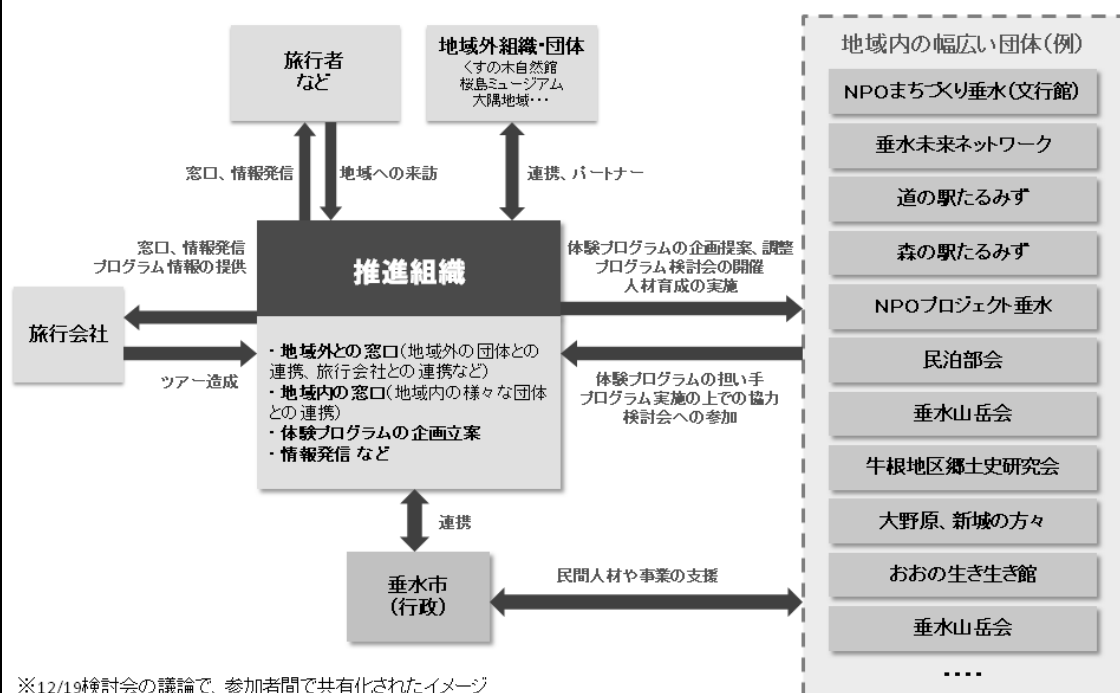


垂水の海の恵みと暮らしに出会う旅



垂水の温泉と水を
美味しくいただきます！

将来の体制づくりに向けて(ワークショップを通じて)



※12/19検討会の議論で、参加者間で共有化されたイメージ
(各関係機関等とオーソライズしたものではない。)

成果

- プログラムの試行を通じて、エコツーリズムへの理解が更に深まった
- エコとグリーンの融合プログラムが幾つか造られた。ノウハウも蓄積した
- 関係者の連携が深まった。全体のコーディネート機能（推進組織）の必要性を再認識した

課題

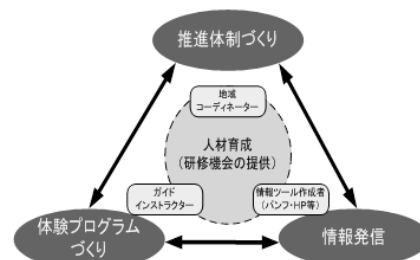
- プログラムの拡充（他の地域、資源）
- ガイドの育成、発掘
- 全体のコーディネート機能（推進組織）の構築

3年目の取組（平成24年度）

自立的な体制づくりと
たるみず体験まつりを通じた実践

目標

- 商品化を目指したプログラムを開発する。
- プログラムを商品として提供していくためのコーディネート組織の方向性を明確にし、確立に向けた道筋を立てる。
- プログラムを垂水全体として売っていくための情報発信力を高める。
- これらに必要な人材の確保、役割の明確化、ノウハウの蓄積を図る。



ツーリズム会議～体験プログラムの企画(4回)



スキルアップ研修会 仲間のガイドを見ながら学ぶ

平成24年10月29日



NPO法人桜島ミュージアム
高橋忍氏

参加者の安全をしっかりと守る

- ・参加者に危険がないか、行程を組む段階から意識する。
- ・道路を横断する時、足元が危ない場所

伝えたいことは、一番分かりやすい場所ではなす

- ・アコウの木のことはアコウの木の下で、シラス台地のことはシラスが見えるところで話す。

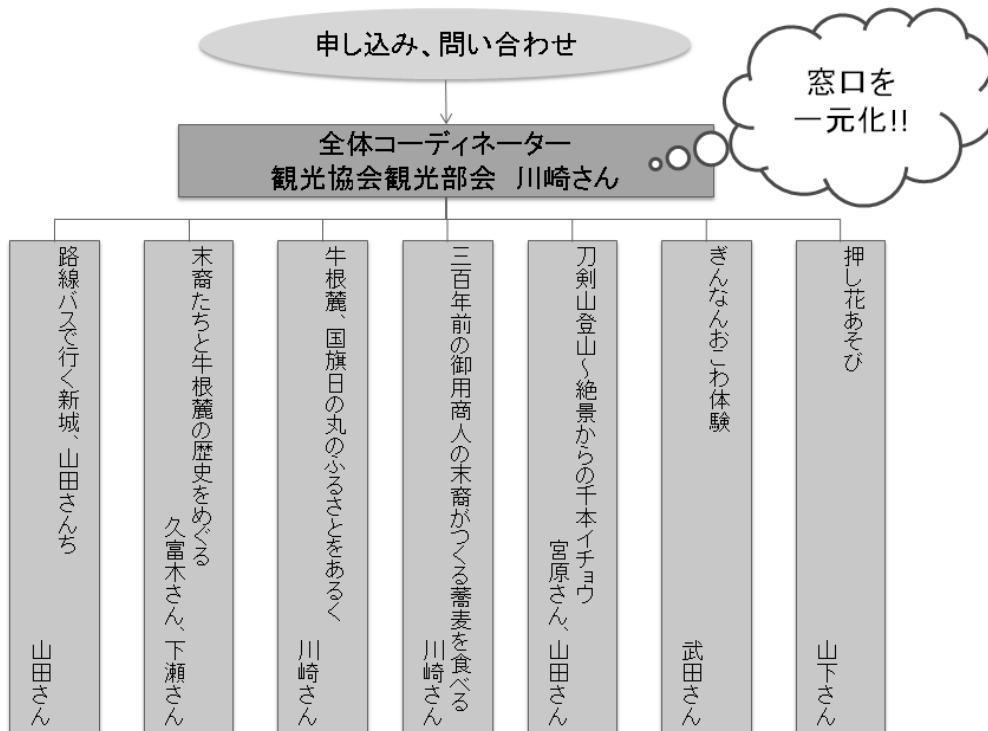
やっている本人が話すことは面白い！

- ・山田義之さんが話すキノコ栽培のことなど、農家さんが本人がやっていることは本人が話すと面白い



「たるみず体験まつり2012晩秋」

実施体制



プログラム1

路線バスで行く新城、山田さんち

催行日 2012年12月5日(水)、8日(土)、11日(火)

垂水新城はシラス台地ときれいな水に育まれた農業が盛んなところです。路線バスで、ゆったりと新城地区のふるさとの風景を楽しめます。日本一のキヌサヤや、案内人の山田さんが育てるシイタケを収穫して、美味しく味わい、山田さんちでゆったりしましょう!

料金 1,500円
(昼食代・保険料含む)

定員 5~15名

スケジュール

9:50 宮脇バス停下車、アコウ並木垂水寄りの駐車場に集合(トイレがある所・地図中のA)
12:00 昼食(山田さんち)
14:10 新城麓の集会所で解散予定(新城麓バス停から徒歩5分)

もちもの 帽子、タオル、飲みもの

注意事項

小雨決行です。
料金はお昼代を含みます。
自家用車での参加も可能です。
路線バスを利用される方はバス代を別途ご負担ください。



案内人

山田 義之さん
やまだよしゆき



新城は、山の幸、海の幸、美しい景色、個性豊かな人々が暮らす素敵なところです。まずは一度遊びにきてください!

宮脇バス停までの行き方(バス時刻)

(下り) 垂水フェリー発[志布志行]9時40分、宮脇バス停着9時49分
(上り) 鹿屋発[垂水中央病院行]9時20分、宮脇バス停着9時51分



プログラム2
末裔たちと牛根麓の歴史をめぐる

催行日 2012年12月7日(金),8日(土)

垂水は長い歴史ある地域です。その中でも、たくさんの史跡が残る牛根(うしね)地区。
 今もその歴史を守り、受け継いでいる末裔たちが、その長い歴史と奥深い魅力をご案内します。(終了後、道の駅の温泉でゆっくりして帰りましょう！)

料金 1,100円 (保険料含む)
定員 5～15名
スケジュール
 9:00 道の駅たるみずの足湯前集合 (地図中のB)
 牛根麓を散策
 12:00 道の駅たるみずで解散予定
持ち物 歩きやすい靴、帽子
 飲み物
注意事項 小雨決行です。
 ※散策をしますので、体力に自信のない方はご相談下さい。

案内人 久富木哲さん、下世吉美さん
久富木とし 下世よしみ

牛根は、驚くような歴史の舞台となったところ。じっくり楽しんで案内します！




プログラム5
刀剣山登山～絶景からの千本イチョウ

催行日 2012年12月1日(土)～11日(火)

垂水を代表する山、刀剣山。その頂上からの眺望は錦江湾、垂水市街地が望め、そこから見える千本イチョウも素敵です。ぜひ一緒に垂水の魅力を堪能しましょう。
 垂水の温泉水、この時期ならではの銀杏おにぎりも楽しめます。

料金 3,700円
 (昼食代・保険料含む)

定員 2～10名 たるみずの山歩き&自然名人

スケジュール
 9:00 猿ヶ城深谷旧キャンプ場集合 (地図中のD)
 11:30 昼食(お弁当)
 15:00 猿ヶ城深谷旧キャンプ場で解散予定

案内人 宮原勝宏さん、山田一生さん
みやはらかつひろ やまだいっせい

もちもの 長袖、長ズボン、帽子
 歩き慣れた靴(登山靴等)
 ※サンダル・ヒール等不可
 リュック、飲み物、おやつ、雨具

注意事項 雨天中止です(登りたい方は相談下さい)
 料金はお弁当代を含みます
 体力に自信がない方はご相談下さい

(宮原さん) 垂水山岳会の宮原です。山登り大好き、一緒におしゃべりしながら楽しみましょう。
 (山田さん) 生き物大好き! 山田です。楽しく登ろう!




プログラム6
ぎんなんおこわ体験

催行日 2012年12月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)

垂水の新名所、千本イチョウ。紅葉を眺めながら、その山に育った銀杏を使って美味しい「おこわ」を作りましょう(皮むきに苦戦しながら)。

料金 1,100円
 (昼食代・保険料含む)

定員 5～20名 たるみずのお料理名人

スケジュール
 9:30 猿ヶ城深谷森の駅たるみず集合 (地図中のE)
 12:30 昼食(銀杏おこわ)
 14:30 解散予定

案内人 武田育江さん
たけだいくえ

もちもの エプロン、三角巾

注意事項 雨天決行です。
 料金はお昼代を含みます。

若いころより、調理をすることが大好きです。猿ヶ城深谷も近いですよ。垂水の旬と一緒に楽しみましょう!









プログラム7
押し花あそび

開催日 2012年12月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)

垂水の季節の花や千本イチョウの葉などを使ってはがきサイズの押し花アートを作ります。自分だけの素敵なオリジナル作品を作って、垂水や千本イチョウに来た思い出を押し花に封じ込めましょう。

料 金 800円
(保険料含む)

定 員 5～10名

スケジュール
(午前の部)
9:00 猿ヶ城溪谷森の駅たるみず集合
(地図中のE)
12:00 解散予定
(午後の部)
13:00 森の駅たるみず猿ヶ城溪谷集合
(地図中のE)
16:00 解散予定

もちもの 特になし

注意事項 お申し込み時に午前/午後の希望をお伝えください。

案内人 山下 加代子さん
やましろたけこ

あなたのそばにあるお庭の花、花瓶の花などでもすばらしい押し花アートが作れます。押し花の魅力を感じてみてください！



		11/29	11/30	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	合計
		木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
1	路線バスで行く新城、山田さんち							6			11			4			21
2	末裔たちと牛根麓の歴史をめぐる									0	2						2
3	牛根麓、国旗日の丸のふるさとをあるく															8	8
4	300年前の御用商人の末裔がつくる蕎麦を食べる	0															0
5	刀剣山登山～絶景からの千本イチョウ			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			2
6	ぎんなんおこわ体験			8	0						0	3					11
7	押し花あそび			0	0						2	4					6
合計		0	0	10	0	0	0	6	0	0	15	7	0	4	0	8	50

参加者の感想(主なもの)

- 垂水にこんなすばらしい生活をしている方がいることを知ってうれしかった（新城・山田さんち）
- 丁寧に説明していただいたまた来たいと思う熱心さでした（牛根麓の歴史をめぐる）
- 自分たちのペースに合わせていただいたので、なんとか登山できました。説明もすごく良かったです（刀剣山）
- 天気に恵まれ、景色と歴史がよいバランスで、詳しい案内で楽しかったです（国旗日の丸のふるさと）
- 和気あいあいでとても楽しかった。また参加したいです（ぎんなんおこわ）
- 優しく教えてくださった。たくさんの花があり、楽しむことができた（押し花あそび）

実施者の感想 成果(主なもの)

- 満足してもらえたと思う。むしろ少し詰めすぎだったか（新城・山田さんち）
- 参加者のアンケートの通りです（牛根麓の歴史をめぐる）
- 垂水の人に刀剣山という山があって、そこに登山することができるという情報を伝えられた。ガイドが刀剣山をエコツーリズムの視点で案内することの認識を深めた。地元のお弁当屋さんの協力を得られた。お客様は千本イチョウにてチラシを見てエントリーしてくれたとのこと。回遊性が来年あたり、もっと生まれそう（刀剣山）
- 牛根の歴史については知らない人ばかりで、大変興味を示された。改めて牛根のよさを感じていただけたと思う（国旗日の丸のふるさと）
- また実施してほしいとの要望あり（ぎんなんおこわ）
- 参加していただいた方には大変喜んでいただき嬉しく思っています（押し花あそび）

実施者の感想 課題(主なもの)

- 安全管理調理中に少し目を離してしまった(安全に欠けた)
- グループ分け(若い方と年配の方をミックス)
- 食材の育った地域の説明が少し足りなかった
- 参加数が少なかった、PRの方法を考える
- アコウ並木での説明時、寒かった
- 地元でもあまりなじみのない昇平丸を取り上げたことで、申込みがなかった
- プログラムの作り込みが完全ではなかった
- 刀剣山の登山中に見ごろな花などが少ない時期で、どういった案内をしたほうがよいか
- プログラムで何を伝えたいのか、目的とコンセプトをもっと定めたい
- 雨天中止の判断が難しかった

垂水ツーリズムフォーラム

平成25年2月1日



3年間を振り返る

- エコツーリズムは幅広いノウハウが活きる世界で、自然や歴史を活用できる分野だと気づいた
- プログラムづくりを通じて、とても勉強になった。
- 素材も大事だが、ガイドする人が特に大事だと気付いた。
- 新たに人と人が繋がってネットワークができたことが一番の成果。

これからの垂水ツーリズムを考える

- 季節に応じた新しいプログラムを作っていきたい。
- ガイドのスキルアップが必要。特に安全管理。
- 桜島ミュージアム、くすの木自然館といった外部とのつながりを大切にしたい。
- これからも集まる機会を定期的に設けて、情報や情熱をお互いに共有していきたい。



垂水ツーリズムの「3つの“いいね”」

- 地元の人が自ら頑張っていること
- 地元で事務局ができたこと
- 活発に盛り上がっていること(これからも背伸びをせずに身の丈にあった取組を)



資料 3 講演録

(1) エコツーリズムと魅力的なガイド～旅行者の“意識を変える”エコツアーづくりとガイド方法～

南 正人氏（麻布大学獣医学部講師／NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ代表理事）

※肩書は当時

日本のエコツーリズム推進を担ってきた「ピッキオ」（第 1 回エコツーリズム大賞受賞）の代表取締役及び NPO 法人ピッキオ理事長を経て独立し、現在、「NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ」代表理事。2009 年より現職。長年、日本のエコツーリズム推進に貢献してきた。

「科学的な視点を持ったインタープリター」が、「活動地での野外調査で得たリアルタイムの情報」を、「楽しく分かりやすいエンターテインメント」として「ホスピタリティの高い」プログラムを提供するスタイルを実践。

また、宮城県の離島・金華山のシカの長期追跡研究を継続し、600 個体のシカの一生を追跡観察中。生物多様性保全についての調査研究を行うとともに、科学的な視点からプログラムに活用する手法でエコツーリズムや環境教育を展開すべく活動中。

大学でも野生動物学とともにエコツーリズム論等を担当。平成 21 年度環境省エコツーリズム推進アドバイザー。麻布大学獣医学部動物応用科学科講師。専門分野は動物生態学、エコツーリズム、環境教育。

● 来て欲しいお客さんに大満足してもらうこと

「知らないところに行きたい、普段の生活に飽きていて…」こういう時は、垂水じゃなくて、知床や屋久島、沖縄とか、有名な観光地に行こうと思いますよね。

「感動したい」なんて時は、ライバルはディズニーランドや映画館かもしれません。ではどうやって、垂水に旅行に来てもらえばいいのでしょうか？



旅行って、そもそもどういったものでしょうか。

旅行を作る側は「満足」を売り、買う方（旅行者）は「満足」を得ますよね。でも、満足の種類は人によって無限にあります。小規模なところは全てに対応することなんてできません。だから、自分たちが「満足させられる要望」を持つ人を、いかに「大満足」させるのが、カギになります。

つまり、垂水の魅力を分かってくれる人はどういう人かを見極めて、その人に大満足してもらうために、そのお客様の要望や期待を超えることが大切になってきます。

● そもそもエコツーリズムって？

「自然や文化や歴史遺産等を守りつつ、それらとのふれあいをガイドの解説を受けながら楽しみ、地域の経済振興に結び付けようとする旅の考え方」と定義されています。

エコツーリズムは、森林伐採による資源の使い過ぎが起こった発展途上国でこれに変わる経済発展の方法として、自然を保全し自然観察ツアーを行ったところから始まりました。これに対して、農業体験ツーリズムや漁業体験ツーリズム等、保全というより第一次産業として使ってきた資源を観光に結び付けようという考え方もあります。

● サステイナブル - 持続可能であること -

これらに共通するキーワードは、「サステイナブル（＝持続可能）」であるということです。

つまり、地域の自然や資源と経済が持続可能であることを願っていて、資源を使い過ぎないようにバランスをとりながら活用するのがエコツアーです。そして、資源を使い過ぎないためには、モニタリング（観察、チェック）を続けて、資源が失われてきた時にはストップをかける必要があります。そして、環境への影響が少ないプログラムを行い、保全の意識を持ったガイドさんが大切になります。

● ガイドとは？

ここに2つの鹿の角があります。別々のところに住む鹿の角です。そして、長さは同じなのですが、重さが全く違います。さて、どうしてでしょうか？答えは、角の長さは雄の強さの象徴で、雌にモテるためには、栄養が足りなくて多少スカスカでも長さをキープしないとイケないのです。これが自然界の「事情」です。



こういった「事情」が、畜産業や漁業にも必ずあるはずです。地域のことを調べるとどんどん分かってきます。一般的な知識は本に載っています。自然界の「事情」まで解説できて、「ガイド」なのです。ガイドに必要なことは、まずは「目の付け所を提供すること。」そして「対象の背後にある法則や原則を教えること。」大きな視点から見た時の意義を具体的な事例から伝えることなのです。

● 「具体性」が大切

解説には、具体性が大切です。「どんぐりは動物の餌になるから大事です」というだけでは面白くないのです。森にどの位どんぐりが落ちていて、誰にどうやって食べられているのか、できる範囲でも良いので観察して、具体的な話ができることが大切です。

● エコツアーは「名物郷土料理」

エコツアーは地域の素材（自然や文化、歴史、料理、暮らし…）を、手を掛けて料理し、感動を生む味（内容）や演出やサービスにして提供することです。つまり地域の総合力なのですね。感動を与える料理は、また食べたいと思うでしょう？だからお客様にも何度も来ていただけます。

● ホスピタリティ - おもてなしの心を大切に -

エコツアーで、お客様からお金をもらう以上、失礼があってははいけません。そのためにも、コミュニケーションをしっかりとることです。お客さんがどのように感じているか、ちゃんと相手が理解しているかを常にチェックしていなくてはいけません。特に、高齢者や女性、子どもには配慮しています。専門用語は余り使わずに説明をします。不満かどうかは相手の顔を見ていれば分かるものです。参加者誰もが嫌な思いをしないように、熱心な人やおとなしい人等相手によってやり方は違っても、参加者全員のフォローを心がけます。

ホスピタリティとは「相手の立場に立ち、心の状態に応じてこちらから対応していく態度や精神」。つまり、「相手を観察し、相手の気持ちを想像し、どうすることが望ましいか判断すること」が大切で、ガイドをしながらどんどん判断していかなくてはいけません。

● ガイドの役割・自然の役割

ガイドは「脚本家」です。テーマがあって、ストーリーを書く訳です。それをうまく見せる「演出家」でもあります。そして、自分でしゃべる「役者」であり、かつ、参加者にしゃべらせるための「司会者」でもあります。

自然の方は、脚本家にアイデアを提供する「アドバイザー」であり、自然の中でやる

場合は「主演役者」です。また、自然を見せる「舞台装置」でもあります。

● 一番大切なのは、自然観

一番大切なことは「価値観」なんです。農場であれば、生き物の命を伝えるんだという生き物観です。これがあって初めてガイドなんだと思います。こういうことが伝えられるガイドさんは、きっと期待を超える満足を与え、お客様もリピートしてくれることでしょう。

● 垂水でエコツーリズムをすすめていくためには

最後に、垂水の町や山や海を見て、特に印象に残ったのは漁港です。ぜひ海のプログラムをやりたいですね。

釣りは、釣る場所で釣れる魚がだいたい決まっていますが、魚は肉食系や草食系等でも形や筋肉の付き方が違ったり、遊泳力も違います。地魚の観察は面白い。こうしたことを観察しながら食べるプログラムをやると、生態系と動物の係わりがわかり、ブルーツーリズムとエコツーリズムが結びついていきます。

資源はそれぞれの土地にたくさんあるはずですが、少なくとも、歴史や文化が同じ場所はない訳で、島津家の墓のようにこの地域だけの資源があるのです。自然も地域によって違いますから、どう表現するための準備をするか、仕掛けるか、ということです。

垂水の地域として何を伝えたいと思っているのか、あるいは個人のグループがこれを伝えたいんだということを持ち、それを素にストーリーを作っていくことから始まります。

(2) なべくら高原森の家のプログラムづくりの進め方

木村 宏氏（長野県飯山市信州いいやま観光局「なべくら高原・森の家」支配人）

※肩書は当時

大手リゾート企業に勤務後、飯山市のグリーン・ツーリズム事業にコンサルタントとして参加し、1997年現職。森の家が事務局を務める「信越トレイルクラブ」が第4回エコツーリズム大賞優秀賞を受賞。

ツーリズムサミット 2008「ツーリズムが地方を元気にする～農山漁村とツーリズム」（主催：社団法人日本ツーリズム産業団体連合会（TIJ））では農村代表パネリストとして取組を事例発表する等、飯山という過疎地域において、自然資源や生活資源をベースに地域の魅力提案を行ってきた実践者である。



講師の木村氏



●豪雪地帯で始めたグリーン・ツーリズム

今日は養父市もあいにくの雪ですが、私はさらに雪深い長野県飯山市から参りました。飯山市の人口は約2万5千人、日本一長い千曲川の間地点にあります。

ハチ高原のように、自然体験等で年間60校程度の子供達を受入れています。スキー発祥の地でもあり、最盛期は年間140万人のスキー客が訪れましたが、近年は半分くらいに減って70万人くらいでしょうか。このあたりは、養父市とも共通するかもしれませんね。そのような事情から、「スキー客だけでなく、グリーンシーズンのお客さんも受入れていこうじゃないか」ということになり、農水省のグリーン・ツーリズム事業のモデル地域の指定を受け、平成9年に「なべくら高原森の家」が整備されました。私は、開設当初より支配人として施設の運営に携わってきました。今でこそ、体験型観光という言葉も知られるようになりましたが、13年前は農業体験と言ったらイチゴ狩りやリンゴ狩りくらいでしたから、まずは、どういう体験メニューを作っていくかというところから始めました。

お手元にお配りしましたのは、「森の家のイベントプログラム」のです。ほぼ毎日、何かしらの体験プログラムができるようになっています。例えば、「スノーキャロット堀り」は、秋に収穫するニンジン春に収穫するというものです。雪の下で越冬したニンジンは、糖度が増し、繊維質が抜けて、びっくりするほど甘いんです。敷地内には炭焼き小屋もあるので、炭焼き体験もやるのですが、炭焼きが終わった窯でピザを焼いたりすると女性が集まってきたりしますね。基本的に山がある地域ですから、野山を歩くプログラムが多数あります。秋ならキノコ狩りをしながら歩く。そんな時はキノコの鑑定ができる地域の方の力が借ります。最近では、健康志向の高まりから、トレッキングやノルディックウォーク等も提案しています。

●多彩なプログラムを生み出す人材とは？

これだけ多くのプログラムを提供するためには、核となる人材が必要です。森の家には9名のスタッフがいます。みんな県外から来た若者です。公募して集める際の採用基準は、なにかの資格を持っているとかではなくて、「村のことが好きか」「村での生活を楽しめるか」「おじいちゃん、おばあちゃんと仲良くお茶のみできるか」です。この基準は、今も変わりません。

しかし、外者（そともの）だけで提供できるプログラムには限りがあります。そこで、「市民インストラクター制度」を作りました。地域に住む人の中には「私はソバ打ちができますよ」「ホテルの案内ならまかせて」等、得意技をもつ人たちがいらっしゃる。そういった人たちに登録してもらい、指導してもらう仕組みをつくりました。市の広報等で募集したのですが、今では220名の人たちが、我々の活動をサポートしてくれていま

す。

●継続することの難しさをどう乗り越えるか？

こういった活動を長く続けることは、非常に難しいことなのです。実は、体験プログラムというものは、致命的な問題を抱えています。それは、“お客様は、同じプログラムに二度三度と足を運ばない”という事実です。つまり、一度ソバを打ったら、多くの方はもうすっかり名人にでもなったような気持ちになりますから、二度三度とソバを打ちにこないのです。ストーンペインティングを二度やった人を見たことがありますか。別のプログラムならやるかもしれませんが、同じプログラムのリピーターは、ほとんどいないのが現状です。

リピーターがいない訳ですから、教える側の質も上がらない。そんなことをやっていると体験プログラム全体がだんだんと、しぼんできてしてきます。全国的に見ても、体験型の施設は、元気がなくなっている所が多いのです。

では、どうしたら長続きするのか。それは「地域のファン」になってもらう工夫が必要なのです。

●地域の問題に共感する人たちが集まる仕組み

鍋倉山には、森太郎と森姫と呼ばれるブナをはじめ、巨木がたくさんあります。以前は子供たちが遠足でブナを見に来て、木の周りでビニールシートを広げてお弁当を食べたりしていたんですね。ところが多くの人が見に来ることで、根本の土が踏み固められてしまい、樹齢何百年という巨木が、次々と倒れるようになってきたのです。「このままでは、森太郎や森姫も危ない」ということで、森を守る活動が始まりました。「森を守るために、皆さんの力を貸してもらえませんか？」と内外の人たちに声をかけました。まず、藁のロープを張って、森姫の周囲を立ち入り禁止にしました。やがて活動は、たくさんのボランティアの人を巻き込んだ「観察道づくり」へと展開していきました。

そこで感じたのは、余暇活動としてボランティアをする人が、結構増え始めているということなのです。この人達は、リピーター化します。道が完成するまでの数年間、毎週のように集まってくれ、汗を流して帰っていくのです。そして、その後もファンとして地域を応援してくれるのです。

奥米地でも、地域の人たちの地域の環境を守りたいという思いと、その思いに共感する人たちが集まる仕組みが必要なのではないでしょうか。



●ホタル復活を目指した里山再生の物語とは？

最後に、「蛍の宿を守る会」の取組を紹介します。「蛍の宿」というのは、田んぼのことです。活動の中心となっていた人物は、元飯山市長の小山さんです。彼は毎年、ある田んぼで人知れず飛ぶホタルをととても楽しみにしていたそうです。ところがある年、その田んぼの耕作が放棄され、ホタルが見られなくなってしまった。「俺は市長を辞めたら、この田んぼで稲作をするぞ。稲作をしてホタルを蘇らせるぞ。」と心に決めたそうです。めでたく市長を三期務めた後、88人のボランティアと一緒に活動をスタートさせました。なんで88人なのかわかりますか。米作りの工程は八十八あるので、それにちなんで88人限定でボランティア会員を募ったのです。

この活動は8年前から始まったのですが、5年前からは更にホタルの住みやすい環境をめざして「冬期湛水・不耕起移植栽培」をスタートさせました。これは稲刈りした後、水を張ったまま雪の下に寝かせるんです。春になっても田起こしはしない。米の収穫量は落ちましたが、ホタルは蘇り乱舞するまでになりました。年会費は15000円で、会員には米30キロを渡しています。(実は、自分たちが育てたお米はビニール一袋程度。残りは周辺の農家から買い取ったお米。両方の味が楽しめる。)

大事なのは、ただ稲作体験をするだけじゃなくて、ストーリーづくりや目標設定なのです。それに加えて、地域の人たちとの交流です。農作業の合間のお弁当等、とても楽しいものです。

「今後、どうしていきたいのか」という会話を続けていくことで、新しい発想が出てきたり、新しい事業につながるかもしれません。そういう意味では、奥米地はまだまだやり始めたばかり。地域の人たちの知恵を絞り、時には、外の人力を借りながら、頑張っていきたいと思います。

(3) 私たちの「シラス台地」を学ぼう

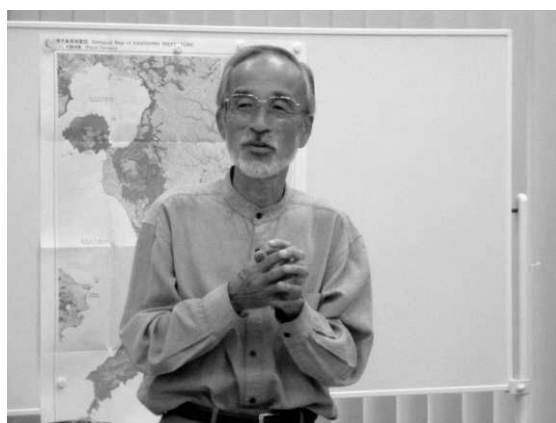
大木 公彦氏（鹿児島大学教授）

鹿児島大学総合研究博物館長、鹿児島大学総合研究博物館・教授、大学院理工学研究科・教授。地質学（微古生物学、堆積学、後期新生代層位学）が専門。

主な著書として、『日本全国沿岸海洋誌／共著』、『NAUTILUS The Biology and Paleobiology of a Living Fossil／共著』、『鹿児島県の／共著』、『鹿児島県地学のガイド（上・下）／共著』、『日本の地質 9 九州地方／共著』、『写真集 地球からのメッセージ 鹿児島／編集代表者・執筆（写真）』、『鹿児島湾の謎を追って』、『日本の地質増補版／共著』、『鹿児島観光・文化検定 公式テキストブック「かごしま検定」／共著』、『郡山郷土史／共著』、『鹿児島シラス百景／監修』、『日本地方地質誌 8：九州・沖縄地方／共著』等がある。

垂水を知るために、鹿児島県全体がどう
いう場所なのかということを知って
いただきたいと思います。前半はおお
ざっぱにバックグラウンドについてお話
します。

私は山の調査をしています、海洋調査
もやっています。鹿児島湾の海底のドロを
とって、その中の底生動物（沖縄でお土産
に売られている星砂の仲間）がいっぱいい
ますので、それを調査して環境を調べるということを博士論文ではしました。先日も海
底調査をしました。しょっちゅうこの前の海を船でうろうろしています。今日は、海の
話も含めてお話をさせていただきたいと思います。



●鹿児島のレシピに共通するキーワードは火山と黒潮

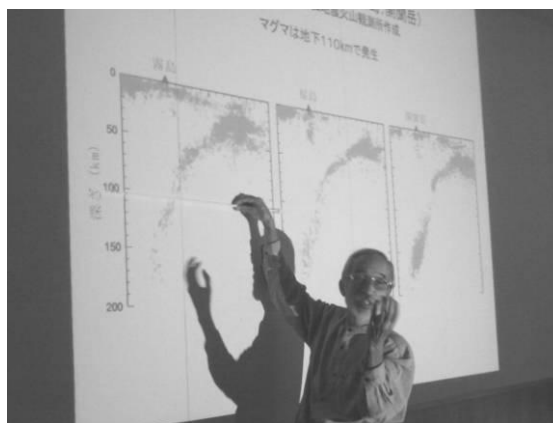
シラス台地は全国の子ども達みんなが知っています。シラス台地は全国的に教科書で
知られていますが、シラス台地はどんなものなのかというと、意外と知られていません。
これは上野原から撮った写真ですが、霧島があつて、崖崩れの跡がありますが、これが
シラス台地です。垂水には素晴らしいシラス台地がありますので、後でお話したいと思
います。

鹿児島は、魚はおいしい、黒豚もおいしい、焼酎もおいしい。これらに関するキー

ワードは火山と黒潮ということを知っていただきたい。ほとんどが火山の恵みといってもいいと思います。このおかげで鹿児島のレシピは素晴らしいです。

●鹿児島に火山&温泉が多い理由—火山のメカニズム

桜島が目の前にあって、多くの方は灰が降るし嫌だと言います。シラス台地ももとは始良カルデラを作った大噴火の結果です。火山は、すごい恵みをもたらすのですが、地球の規模から見れば、火山があるところは、数パーセントありません。例えば、シベリア、ヨーロッパのここに火山はありませんし、温泉もたいしたことはありません。ニューヨークには全く無い。火山があるところは、地球の内部からいろいろなものが上がってくる場所ですから、温泉が出たり、おいしい水が採れたりします。全部火山のまわりに限られます。ということは、地球の3割の陸地の中で、火山があるところは極めて珍しいと考えていただきたい。日本の活火山の約1割は、鹿児島県にあります。鹿児島は火山国であると考えて下さい。



始良カルデラは、最近やっと認知されてきています。有名なのは阿蘇カルデラです。観光客は阿蘇に行きます。くやしいですね（笑）。人類の歴史の後半で大噴火をしたカルデラは、日本に9つしかありません。北海道と十和田湖で4つです。残りの5つは全部九州にあります。その中で阿蘇山がダントツで観光客はくるし、お金がたくさん落ちます。鹿児島には4つあります。観光客を呼べるのは、実は鹿児島です。そう思いませんか？加久藤カルデラは宮崎との県境にありますが、南九州は圧倒的にすごいところです。阿蘇山には、かつて湖がありましたが、残念ながら海がありません。美しい海があるのは、この鹿児島です。

なぜここで、マグマが上がってくるのか、火山があるのかということを図で説明させていただきます。鹿児島県は南北600kmで、ここには火山の無い列があります。三島・十島のこちら側が火山の列になります。私たちが霧島火山帯と習ったところですが、東日本大震災がありましたが、琉球海溝が南西諸島東方にあります。フィリピン海の海底が琉球海溝に沈み込んで、巨大地震はここで起こります。これから日向灘で地震が起こると思いますので、ぜひ気を付けていただければと思います。この海溝から二百数十キロ離れたところに、活火山の帯があります。どうしてそこにマグマが生まれるのかを知っていただきたいと思います。フィリピン海の海底が琉球海溝に沈み込みます。この海溝から二百数十キロ離れたところに、火山の帯がある。実はここで海底からブラックスモーカーといわれる鉱物を含んだ熱水が上がってきています。更に石垣、西表の沖合で海

底噴火が江戸時代に起こっています。間違いなくこの赤い火山帯のラインは延びていて、ここが繋がります。海溝と火山群は平行ですので、因果関係はちゃんとしています。鹿児島大学の南西島弧地震火山観測所が、鹿児島県で地震計を展開して調査しています。霧島の断面と桜島の断面と開聞の断面をお見せします。マグマがどこで生まれるのかよく分かると思います。図の右側から開聞岳の東西方向断面、桜島の東西方向断面、霧島の東西方向断面です。図の青い点は全部震源です。ここが海溝で沈み込んでいて、マントルの中にフィリピン海の海底の地殻が落ちて行きます。東日本大震災は太平洋の海底の地殻が沈み込んでいったのと同じメカニズムです。この図は 0km～200km の断面です。世界中どこでも同じですが、プレートが沈み込むところの深さ 110km のところでマグマが生まれます。なぜ 110km かというと、圧力と地球の中心から上がってくる熱と、もうひとつ大事なことがあります。フィリピン海の海水がプレートに引きずり込まれて、水が入っていきます。水が入っていくために、地面の中の圧力と温度と水が関与して、融点がここだけ下がってしまいます。融点が下がるので、ここでマグマが生まれる。マグマはものすごく熱いので、熱気球と同じで真上に上がっていきます。そこに新燃岳があります。桜島はどうかというと、110km のここでマグマが生まれます。真上に上がって、今、昭和火口が噴火しています。いい加減に噴火している訳ではないです。マグマが発生する地点の真上で噴火しています。開聞岳も同じです。開聞岳は平安時代、貞観と仁和の時代に噴火してしまっていて、現在噴火は止まっていますが、休憩しているだけです。マグマが上がってきてはいませんが、あそこは温泉のメッカです。熱いものが上がってきていることは間違いありません。日本でも有数の温泉地だということは、これで分かります。

温泉の話をしていただきました。温泉でマグマから来る水はほんのわずかです。箱根や熱海等では数パーセントですが、だいたい 1%程度です。あと残りは、雨が降って、地下に入り、マグマに熱せられて上に上がってきたものです。マグマと地下水が協同作業をして、温泉になります。温泉の泉源数でいうと、鹿児島県は全国で第 2 位。1 位は別府や由布院がある大分県。九州に 1 位、2 位がある訳です。湯量の 1 位は北海道です。北海道と九州に温泉が多いのは火山・カルデラが関係しています。県庁所在地では、鹿児島市がダントツ 1 位です。二百数十の泉源を持っていて、温泉が 1000 くらいありますね。私は福岡県北九州市の生まれですが、温泉なんかありませんでした。水道水を沸かして入浴していましたが、鹿児島では当たり前のように温泉です。鹿児島の方は当たり前だと思われていますが、こんなところは珍しい訳です。

●火山があるところには金も多い

私はドラマで初めて篤姫という人を知りましたが、夏目漱石の「我が輩は猫である」の中に篤姫＝天璋院さまの猫の話が出てきます。江戸を大火から救ったということで、天璋院さまと呼ぶ位、江戸の人達は篤姫を尊敬していた訳です。島津家からは、11 代将

軍家斉に嫁いた寔子と 13 代将軍家定に嫁いだ天璋院という方がいらっしゃいます。普通御台所といえば、天皇家、宮家、ご摂家から出る訳です。外様大名から出るはずがないのに、なぜ将軍家の御台所になったのか。不思議に思って調べましたが、島津家は鎌倉時代から続く名門で、天皇家を除くと 2 番目に古くからあるのです。3 代目までは鹿児島に来ていません。南九州は重要拠点であり、当時 8000 を越える荘園があり、その中の最大のものが島津の荘ということで、島津という名を名乗ったようです。これは丹後の局の墓ですが、石が重要です。阿多カルデラから噴火した岩石を使っています。島津がなぜ強いのかというと、琉球を従えて砂糖を生産し、中国と密貿易をしたことと、もうひとつは金です。北海道はアイヌの土地だったので、明治以降の開発になりますが、金が採れるところは、だいたい強い武将がいました。東北には金売り吉次がいますが、世界遺産の平泉金色堂はもともとは阿部一族、その後は藤原 3 代、伊達政宗と強い武将がいます。東北地方は余りたくさんの金は採れません。こぶしという金山には武田信玄。源頼朝が鎌倉幕府を開いた伊豆半島は、金がたくさん採れます。江戸幕府は関東で金が採れませんでしたので、佐渡に囚人を送り込んで金を取らせました。採金量は、当時第 1 位と言われていました。中国地方は大内家、毛利元就が滅ぼして毛利家になりますが、ここも金がまあまあ採れるし、有名な石見銀山があり、銀はものすごく採れました。九州の大分には大友宗麟がいました。大分は温泉も多いが金も多い。鹿児島は島津家。日本でダントツの No.1 は実は菱刈鉱山です。県単位では、ダントツで鹿児島県が金が採れる県です。今、金を採掘しているのは 6 つです。北海道に小さい鉱山がありますが、これは普通含みません。残り 5 箇所。1 つは串木野金山で、休業しているので入れません。第 1 位は菱刈です。後の 3 つは枕崎・知覧にある春日、赤石、岩戸という金山です。串木野がなぜ入っているかというと、最近金が、高騰したので、こっそり始めたという噂を聞きました。東大寺の大仏開眼供養の直前に陸奥で砂金が大量に見つかったということで藤原三代の東北地方で採掘されました。佐渡は江戸幕府が開かれる少し前の戦国時代から見つかって、領地になってしまう。現在の金の研究者で No.1 の浦島先生(鹿児島大学名誉教授)は北海道大学で研究しています。一万点以上の金鉱石を持っていて、博物館に寄贈して下さいました。この先生に言わせると、どうやら江戸時代、一時的に薩摩の方が佐渡金山を上回っていたようです。それくらい採れるということです。第 1 位は、今までは佐渡金山で 83 トンだったのですが、1985 年から浦島先生が参加して菱刈鉱山で金を見つけました。その金鉱脈が世界に誇る金鉱脈で、含有量がとても高いです。佐渡金山が、5 グラム程度／トンですが、菱刈では 40 グラム／トンを超えます。今、うちの博物館にあるのは 10 キログラム／トンです。そういう標本がここから出てきます。したがって、住友が立ち上がりました。金がたくさん採れるということをぜひ知っていただきたいと思います。この写真は春日鉱山の露天掘りです。これが岩戸金山、赤石金山です。

金が採れるところは、温泉が上がってくるのですが、温泉には温泉の法律がありまし

て、24 度から 100 度の間と決まっています。100 度を超えると、熱水と言います。ここは二百数十度あります。1970 年に潜水艇を使っているいろいろ調べて、その時とても面白い映像が撮れました。最初、温度計を突っ込んだのですが、ビニールが溶け始めて危ないということで、潜水艇で潜って、水温は二百数十度ありました。まわりの水は 15~16 度です。鹿児島湾にたくさんいる海老がライトにつられてよってくるのですが、パッとボイルされてぼたっと落ちる。ボイルされた海老がいっぱい積もっていく。水は比熱が 1 なので混ざりにくい。あたたまりにくく、冷えにくい。15 度程度の水と 2 百数十度の水が混ざらないです。もちろん、上の方にいきますと、混ざります。ここにある岩を調べました。これは船にあるエコーサウンダーという魚探です。魚探で、これくらいきれいに映ります。ここからものすごい勢いで泡が上がってきます。最近、鹿児島熱風論とかで紹介されていますが、このあたりに金とレアメタルがいっぱいあったということで大騒ぎしています。潜水艇で潜り、マニピュレーターというマジックハンドで採取していますが、二百数十度の熱のおかげで地中から、金や銀が上がってきます。この時採取できたのは、残念ながら銅、鉄、亜鉛等から銀まででした。赤いのは猛毒のヒ素です。海水の中では溶け込まないので、魚は平気で泳いでいます。水銀も入っていて問題になったことはあります。これは、私たちが調査しているところに NHK の取材班がきて、200 メートルの海底から上がってきている熱水を撮った写真です。これはサイエンスアイという番組に出ると思いますので、ぜひ御覧になって下さい。訳の分からない生物がここに付着しています。これを東京大学等が研究しています。今後、いろいろなことが分かるかと思います。

●火山扇状地の特性-ミネラルや鉱物をたっぷり含む土壌と保水性

ここは日本でも有数の扇状地です。桜島にはシラス台地は無いのですが、ここで採れるものは世界一大きい桜島大根と、世界一小さいこみかん。こみかんは甘いですね。桜島大根はこんなに大きいのですが、他所で栽培するとなかなか大きくならない。なぜかという、北岳は、縄文中期くらいまで噴火していましたが、いまは全く噴火していません。これが削られて、土石流になって、扇状の地形を作りました。それが火山扇状地です。この火山扇状地は水はけがいいです。山梨県のぶどうがたくさん採れるところも甲府盆地の扇状地です。ここは火山性なので、ミネラルは多いし、熱にやられた粘土鉱物等がたくさん含まれています。この土壌がたまっているのに、水はけがいいのに保水性がとってもいい。相矛盾したことがここで起こっています。したがって、ここでは、大根がたくさん採れるということになります。

●桜島大根の生育には錦江湾に反射する太陽も関係していた

農学部の先生によると桜島大根があんなによく育つのはもうひとつ別の要因があるそうです。錦江湾の波で太陽光線が反射されて、ここに降り注ぐそうです。これを聞いた

時に、自然はすごいなと思いました。私は地質が専門ですから、土壌の成分とか、火山の扇状地地形は分かっていましたが、まさか波で反射しているなんて思いもありませんでした。温州みかんが鹿児島県で最初に植えられた長島というところは、海岸沿いにずっとみかん畑がありますね。熊本もそうです。みかん畑の向こうに海があって、キラキラ輝いています。ということで、垂水は目の前に海があってラッキーです。これは 1970 年頃に西田公園に並べられた桜島大根です。今は、後継者がいないとか様々な要因でこんなにたくさんは採れないのだそうです。

●カルデラの生成とシラス台地の関係

シラスという言葉は方言です。白い砂「白砂」、桜吹雪のお白洲、全部シラスと言います。火山灰をシラスと呼んでいるのは、十和田湖のあたりで「シラス」と呼んでいるようですが、これは鹿児島の一手販売とを考えていただいていいと思います。鹿児島では、本来何と無く白っぽい火山灰をシラスと呼んでいたのですが、最近は始良カルデラで 3 万年前に噴火したシラス台地を作っているシラスのみ、シラスと言おうという話もあります。カルデラはポルトガル語で大きな鍋の意味です。始良カルデラは 4 つ等間隔に並んでいます。カルデラがどうやってできるかというと、火山帯があって、マグマ溜まりがあって、これが大噴火を起こします。その時に、ビールと同じで、この中は飽圧です。大気は 1 気圧です。高压ですと、マグマの中に気体がどんどん溶け込んでいきます。ボンと 1 気圧になるとビールの泡が出ます。発泡現象が火砕流だとお考え下さい。ビールをふって開けると泡が出ます。大量の火砕流が出て、山体を支えきれなくなって、ドスンと落ちた大きな鍋がカルデラです。ここに湖があって、中岳が噴火したのが阿蘇、ここに海が入ったのが始良カルデラです。吉野台地がありますが、これは外輪山に相当します。これは、早崎、私たちは咲花平（さっかびら）と呼んでいました。そして高隈山があります。ここがカルデラの壁だといわれていますが、実際は 3 万年前の大噴火のときできたものではありません。

こちら側が高隈山で、見事なシラス台地です。3 万年前、桜島の向こう側で大噴火をした。その時、桜島は当然ありません。この時に垂水にシラスが溜まりました。この角度でかつてはあったはずです。波で削られて、今はたまたまここでとまっています。このあたりはシラス台地が海岸線に近くなっているので、町が狭いですね。シラス台地は水が無く田にできませんので、畑地として開墾されたのですが、笠野原台地等で、水が無く大変な苦労をされた物語がたくさん残っています。深掘りをして水をくみ上げたとか、いろいろな話がありますが、垂水も大変だったのではないかと想像しております。

●ミネラルたっぷりおいしい垂水の水ができるまで一風化してできた粘土の作用

シラス台地があるから水がおいしいということではありません。なぜ垂水の水はおいしいのか。実はこのシラス台地の表面は太陽にさらされています。太陽にさらされて、昼間は膨張して、夜は縮むということを 365 日繰り返しているために、風化が起こります。そこで火山ガラス等の鉱物が粘土鉱物に変わります。硬い水晶のような鉱物が、泥に変わってしまいます。そこに初めて植物が根を張ります。硬い岩石には根を張れません。岩石が風化してくれないと植物は、はえません。岩石はもともとマグマで、この中にミネラルがたくさんあります。シラスの上に火山灰層が何枚もありますが、この黒い部分はかつて、地表だったところで、腐葉土です。植物が必要なのは、16 の元素です。酸素、水素、炭素、窒素は空気や水に入っていますが、残りは根から、大地から吸い上げないと植物は育ちません。こういう元素を根から吸い上げるためには、硬い岩石のままではだめで、風化して土壌に変わらなくてはならない。これはシラスですが、ここに火山灰層があって、ここまでは風化して粘土ができています。これから下は粘土が無いです。ということは直接シラスにものを植えても、粘土がありませんので、作物はたぶん余り育たないと思います。ここはほとんど土という成分がありません。火山ガラスや軽石といったものです。ここにある白い軽石が風化して黄色くなっています。それは鉄が多いからです。どんどん粘土ができていくと、べとべとの粘土ですから、水分があつて、そこからミネラルがたくさん出てくる。雨が降るとそのミネラルが流水として出てきます。この水がおいしい訳です。鹿児島には火山があります。通常、日光の力で風化されるのですが、ここでは温泉とか熱水があつというまに岩石を風化させてくれます。粘土を作ってくれます。指宿では今でも火山ガスが上がっています。真っ白です。これはかつての火山岩です。それが蒸気等火山の熱でカオリナイトに変わります。カオリンというのはもともと、中国の地名で、そこで白い土が採れました。真っ白い陶磁器はこれで作ります。薩摩焼の原料と勝負したのですが、余りに良すぎて、結局ダメで、天草陶石を使っているようです。カオリンがたくさん含まれています。これは入来カオリンの採掘場です。入来温泉のすぐ近くにありまので、ぜひ行って下さい。鹿児島の女性はなぜ美しいのか。化粧品にもカオリンが入っています。粘土は優れもので、ここに水の層を持ちます。化粧で塗ります。水が足りないと、粘土から水を出してくれます。逆に多すぎると吸ってくれます。入来カオリンはとてもいいものです。ほとんどの方がこのカオリンの恩恵を受けています。こういう粘土で有田焼等の瀬戸物を作ります。赤潮が発生した時にこれをまくと、赤潮がおさまるということも証明されているそうです。一番すごいのは何かというと、紙です。いい紙ほどカオリンが入っています。どうしてこの中に粘土鉱物を入れるのか。和紙は、みつまたや楮で作りますが植物繊維だけなのでにじみます。紙はインクで書いてもにじまない。それは紙の中にカオリンが入っていて、書いた瞬間に水を吸ってくれるからです。鹿児島は火山のおかげで、大口粘土や入来粘土がありますが、これはほとんど知られていません。岩石が風化して粘土鉱物にな

り、土になったおかげで、水にミネラルが溶け込んでおいしいミネラルウォーターになります。それがこのシラス台地の下を流れて湧き出してきます。この水は加治木島津の精矛神社の御神酒の水です。本当に青いです。ある焼酎会社がこの水で焼酎を作っています。シラス台地の畑でさつまいもを作ります。さつまいもが火山灰土壌で育ち、粘土のミネラルを吸って成長する。更にミネラルをたくさん含んだ地下水で焼酎を作っている。ただ、残念ながら、焼酎を呑む時に、火山のおかげだと思って呑む人はいないんですね。火山が無ければ、こんなおいしい水は、そうはありません。これからはぜひ火山に敬意を表して呑んでいただければと思います。

垂水の水がおいしいのはなぜなのか。垂水の水がおいしいのは、ここに花崗岩があるからです。花崗岩はマグマが地下 10km くらいのところで、ゆっくり冷えて固まった物です。これが大気中に爆発すれば、火山です。地下でゆっくり冷えて固まれば花崗岩になります。六甲山の日本酒、灘の生一本がなぜおいしいのか。花崗岩の中にはたくさんのミネラルが入っているからです。ただし、風化しなければ中から出てきません。これは地下 10km の深いところで冷えて固まったマグマが 10km も隆起して、この山を作っています。ここは 10km 隆起している訳です。隆起したおかげで、私たちはおいしい水をいただくことができます。地下 10km 似合ったものだという証拠は、ここに 1 億年前の深海の堆積物の地層があるからです。白く見えているのは花崗岩で、その周辺は深海にたまった泥や砂の岩石です。それがいま、隆起しています。緑色に見えているのが、1 億年前の地層です。ここに白く出ているのも全部花崗岩です。屋久島も全部花崗岩です。水がおいしいです。水がおいしいところは、だいたいこのような地層になっています。垂水はとてもラッキーです。そう考えると、どこの水がおいしいかということは一目瞭然です。

●垂水の海の豊かさは火山成因のミネラルと黒潮の大蛇行

火山があって、ミネラルがたくさんあって、さっきの扇状地から粘土が海の中に流れ込んでいます。ミネラルが入っていきますから、なんと鹿児島湾には 1 千種以上の魚がいることが分かりました。したがってイルカがたくさん入ってきます。こんな恵まれたところは無いです。しかも深いです。こんな大きな貝が採れるのは、北の新島のところですね。もうひとつ大事なことがあって、火山地帯なので水深が深く、この目の前は 200m を越えています。そこにはナミクダヒゲエビがいます。深海のエビを食べているのは鹿児島県の人だけだそうです。他の場所にもいますが、深海をトロール漁業でとっても採算が合わないそうです。ここは閉じた湾ですから、トロール漁業でナミクダヒゲエビがよく採れる。ミネラルが海にたくさん入ってくれるので、鹿児島湾は豊かです。もうひとつのキーワードが黒潮です。黒潮は東シナ海を上がっていきたいのですが、対馬海峡の幅が狭くて浅いので、なかなか北にいかれない。一部が対馬暖流になって日本海に入ります。大半の黒潮はここで、大蛇行します。したがって、イルカや鯨がいます。

ここで黒潮がぐっと巡って海底地形にぶつかってくるんです。素晴らしいミネラルが深いところから上がってきます。ぐるっと廻ってトカラ海峡から出て行きます。ここは水深 800m です。北海道大学の渡瀬先生が黒潮の流れの関係で、ハブは南にしかいない、サルは北にいるけど南にいない。この動物の境界線を渡瀬ラインといいます。それは、黒潮がどっと流れているからです。もうひとつ大事なことは、ぐっーと曲がる時、大蛇行しますので、黒潮がスパイク状に断水舌という舌状になります。これが、大隅海道を通過して出ていきます。ここは水深 100m しかありません。おかげさまで、鹿児島湾は南西に開いています。黒潮の断水舌がどーんとして入ってきます。鹿児島湾はすごいところです。これはランドサットで撮った映像ですが、時折、間欠的に入ってきます。垂水にきます。泳ぐなら大隅半島です。こっちはうすまった水で、しかもここに 60 万都市があって、そのツケは指宿にいきます。すごいのはこの断水舌の流入の力です。これだけ突っ込んでくると、垂水の出っ張りのお陰で、鹿児島はもうけています。ここを横切ってぶつかったところが、のずり公園です。沖小島はきびなごの産卵所です。つまりここは、非常に豊かな生態系を持つ素晴らしい、世界に誇れる湾だと思います。垂水は一身に黒潮の断水舌を受けています。運がよければ、これくらいきれいに見えます（写真）。こちらが外洋の黒潮の分流です。こちらが内湾水です。波が無いとこれくらいよく見えます。船に乗った時に偶然見えたのですが、色が違いますよね。この潮目の向こうがきれいです。フェリーに乗っている時は、外を見て、潮目がくると写真を撮ります。それほど素晴らしいです。だからこの魚は素晴らしい。海潟に漁船がいっぱい止まっていますが、素晴らしい場所だと思って下さればいいと思います。

私の専門は星砂の仲間です。これは単細胞動物ですが、棲み分けをします。有性生殖もするんです。与論島で潜ると海草類に星のごとく生きたものがあります。この親戚が、鹿児島湾には 500 種くらいいます。しかも多様で棲み分けをしています。深海にいるもの、浅いところにいるもの、汚いところにいるもの、全部違います。黒潮にいたものが外海から大隅半島に沿って上がってきて、垂水にやってきます。ここは水がきれいなのです。海底の星砂も棲み分けて、“ブリーミネラエレガントシマ”は汚いところが好きで、世界中で汚いところから見つかっている種です。これが鹿児島から南に下がっていきます。深いところには“グリーンラマーディラータ”がいたり、潮目の真下は上からプランクトンがたくさん落ちてくるのを待っている“ウディグリナバディッセンズ”がいます。怠惰な有孔虫と呼ばれています。鹿児島湾の一番深いところは 237m あるといわれています。

●火砕流堆積物-凝結凝灰岩の特性と応用的利用

シラスは、流水や打撃に弱いという欠点がありますので、災害を起こしやすい。垂水もひどい目にあいましたが、そういう性質です。ただし、これは熱で固まっていますから、シラス台地の上に家があってもどうってことはありません。ただ辺縁部は危ないで

す。地下に水が流れているので、トンネルを掘ってしまいます。これが崩れる元凶です。この写真は防空壕ではありません。穴が開いてはずれたところです。この後ろを覗くと穴が開いていて、水が出てきています。ぜひ、崖の下は気を付けていただきたいと思います。このようなものがあったら、その下は気を付けていただきたい。この写真は鹿児島市のある場所で、大崩壊を起こしたのですが、こんなに大きな穴が開きました。それから、シラスは熱が高くなると硬い溶結凝灰岩になります。龍馬がお龍さんと一緒に来た犬飼滝は、シラスです。全く同じものですが、ここは熱が高くて、硬い岩石に変わっています。清水磨崖仏も同じシラスでとても硬いです。これは花尾神社の丹後の局の墓ですが、荒平石で作られています。このあたりは赤い石で塀を作っていますが荒平石で、阿多の火砕流由来のものです。それが硬い溶結凝灰岩になったということです。

鹿児島大学の埋蔵文化財ですが、発掘調査で竪穴式住居が出てきました。ここに炉があって、その周りにシラスを敷き詰めています。このシラスは多良見川で運ばれ、粒が揃っている砂をまいています。なぜまいたのか。湿気をふせぐため、水を吸ってくれるためと断熱材としてです。お尻が冷たくならないようにしているのです。厚さ 5cm くらい敷き詰めてあります。これは驚きました。

この特性を生かすということで、鹿児島では県の工業センターと企業がタイアップして、シラスバルーンを作っています。シラスを熱すると火山ガラスが膨らんで、泡になります。泡になるとこういう丸い粒になります。これは発泡スチロールと同様に断熱効果がすごいです。これを韓国の新幹線が塗料に混ぜて塗っています。韓国は冬寒くて、夏暑いんです。それを塗ると断熱効果がすごいので、電気代が助かる。省エネです。建物の外壁に塗るとかなり温度が違うはずなんです。今、美術館等で使おうとしています。日本の新幹線には使われていません。鹿児島で開発されたのに、本当に悔しいです。

日本の軽石の 90 数パーセントは鹿児島産です。軽石はジーンズのけばだてに使っています。軽石をドラムの中に入れて、ジーンズと一緒にガラガラと回すと、いい感じになります。

シラスにはいろいろな恵みがあって、最近、断熱効果が素晴らしい瓦ができあがっています。鹿児島市内の路面電車の軌道敷の芝の下にはシラスブロックが敷いてあります。シラスの上に芝が張られています。シラスブロックは大隅半島の大崎町の方が県の工業センターとタイアップして開発したものです。これは大崎第一中学校で生徒さんたちが一所懸命作っているところです。それに芝を貼ります。これは中学校のプールです。プールのコンクリートが夏は熱くて足の裏をやけどします。これはシラスブロックですから、熱くありません。しかも緑があってエコです。環境教育の一環として大崎町ではやっています。シラスブロックを日本中の軌道敷に使って欲しい。熊本の軌道敷はやり始めました。愛媛の大学生が市長に陳情し、鹿児島と同じように芝を植えてほしいという

運動を起こしています。

●鹿児島には3万年前から人が住んでいた

鹿児島は旧石器時代から人が住んでいます。ここは、昔から火山と黒潮の恵みがあったから、3万年前のシラスの下にも遺跡があります。3万年前にホモ・サピエンスがここにいたのです。鹿児島は田舎ではありません。これは丸木舟を掘る石墳です。これは鹿児島大学医学部を建設するための発掘調査で見つかった縄文草創期の動物を



捕獲する落とし穴です。穴がいくつも並んでいまして、この中の軽石をとりのぞいてやると、中に尖ったクイが刺してあって、いのししを追い込んで、グサッとささったものを食べていた訳です。上野原には9500年前の定住跡があります。青森の三内丸山の方が有名だといわれていますが、あれは縄文中期の遺跡です。鹿児島は3万年前から人が住んでいて、1万3千年前の縄文草創期の旧石器時代に住んでいて、上野原が9500年前で、縄文時代にはかなりの人が住んでいた。その前の時代は氷河期で、氷河期が終わり、黒潮が入ってきて、まずは南から北へ人が移動したはずです。だから鹿児島はすごいです。火山にやられながらも、人が戻って来ます。それくらいここは豊かであるということです。

火山が多い。石の文化は溶結凝灰岩であるということです。温泉は日本で第2位、産金量日本1位、ミネラルに地下水があって、豊かな農作物があり、魚は1千種以上いるということです。

以上、ありがとうございました。

環境省請負業務

自然豊かな農山漁村地域（里地里山）の魅力を活かした
体験プログラムづくりと地域活性化への取組事例集

環境省エコツーリズムとグリーン・ツーリズムの融合による地域活性化推進事業

平成 25 年 3 月発行

公益財団法人**日本交通公社**

東京都千代田区大手町 2-6-1 朝日生命大手町ビル 17 階

リサイクル適正への表示：紙へリサイクル可
この印刷物はグリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」にかかる判断の基準に従い
印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作成しています